

小山市民憲章

私たちのふるさと小山市は、恵まれた風土と、豊かな伝統のもとに、未来にむかって躍進する希望あふれるまちです。

私たちは、小山市民であることを自覚し、誇りをもって新しい時代にふさわしいまちづくりを進めるとともに、全市民のしあわせと、郷土の繁栄をねがって、この市民憲章を定めます。

- 1 自然を愛し、緑豊かな美しいまちをつくりましょう。
- 2 歴史を重んじ、教養を深め、より高い文化を育てましょう。
- 3 すすんできまりを守り、安全で平和な生活をおくりましょう。
- 4 互いに助けあい、親切でおもいやりのある心を養いましょう。
- 5 働くことに喜びをもち、健康で明るい家庭を築きましょう。

小山市の紋章

1 図案の意味

小山の小を図案化したものにして形全体は小山を表し円は市民の融和と中央の山形は市の躍進を象徴する。

2 由来

昭和29年3月31日、下都賀郡小山町と同郡大谷村との合体合併に伴う同年9月18日市制施行記念事業として全国各地より応募されたものから、厳選の結果決定したものです。



小山市の花・木・鳥



市の花 オモイガワザクラ



市の木 シラカシ



市の鳥 セグロセキレイ

小山市消防訓

一、凡事徹底

挨拶の励行・礼儀及び規律を重んじ、当たり前を徹底的に行い、不祥事を起こさない職員になる。

一、協調連携

違った個性の職員が組織に集まり、問題を解決するために一致協力して助け合うことのできる職員になる。

一、迅速果敢

瞬時に物事を判断し、行動に移せるような職員になる。

まえがき

小山市消防本部・消防署及び消防団は、昭和23年に地域に密着した自治体消防として発足以来、火災の予防、警防はもとより、救急、救助のほか、地震、風水害等の自然災害への対応まで広範囲にわたり、地域住民の安全確保に大きな役割を果たしてきました。

この年報は、令和4年における火災をはじめとする各種災害の活動状況、統計を掲載しましたが、消防防災組織と施設の整備状況等については、令和5年4月1日現在の統計をできる限りわかりやすく掲載しました。市民の生命、身体及び財産を災害等から守る消防防災活動について、まちづくりの主役である市民の皆さまの理解がさらに深められ、災害に強く安全安心なまちづくりのため、この年報が広く活用されることを願うものであります。

消防長 諏訪 良作

一 目 統 計

(令和5年4月1日現在)

面積・人口 気	面積	人口	世帯 ※1	気象
	小山市 171.75Km ²	小山市 166,204人	小山市 71,531世帯	(令和4年中) 最高気温 38.3℃ 最低気温 -7.1℃ 総雨量 1,242.5mm
	野木町 30.27Km ²	野木町 25,099人	野木町 11,002世帯	
合 計 202.02Km ²	合 計 191,303人	合 計 82,533世帯		

消 防 予 算 構 成 ・ 人 員	消防予算	本部・署所数	職員数	消防団 ※2
	23億6,030万7千円	消防本部 1本部 (消防総務課・予防課・警防課) 消防署 1署 分 署 5分署 分遣所 1分遣所	定 数 225人 職 員 数 222人 再 任 用 5人 女 性 職 員 6人 平均年齢35.1歳	消防団 1団 方面隊 5方面隊 分 団 18分団 基本団員 625人 機能別団員 122人

消 防 車 両 水	ポンプ車等	特殊車両	救急車	水利
	タンク車 8台 ポンプ車 4台 水 槽 車 1台 指 揮 車 1台	救助工作車 1台 はしご車 1台 化学車 2台 消防活動二輪車 2台	9台 (うち非常用1台)	消火栓 2,940基 防火水槽 928基

火災等件数 (令和4年中)	火災	救助	救急	その他 ※3
	小山市 39件	小山市 176件	小山市 8,518件	小山市 175件
	野木町 3件	野木町 18件	野木町 1,003件	野木町 19件
	合 計 42件	合 計 194件	合 計 9,521件	合 計 194件

対 象 物 等 防 火 団 体	防火対象物数	危険物施設	防火団体
	4,439件	製造所 5施設 貯蔵所 370施設 取扱所 238施設 合 計 613施設	危険物保安協会 207事業所 防火管理協会 267事業所 女性防火クラブ(27クラブ) 1,213人 幼年消防クラブ(42クラブ) 4,783人 少年消防クラブ(25クラブ) 321人

野木町は、消防事務（消防団及び消防水利の設置・維持・管理を除く）受託町となります。

※1 住民基本台帳及び外国人登録に登録されている人口に基づいた数

※2 小山市消防団の数

※3 火災、救助又は救急以外の件数（自然災害、危険排除、警戒及び緊急確認を合算した数）

目 次

管内概況

管内概況	3
小山市・野木町位置図及び概要	4
消防本部・消防署配置図	5
消防本部・消防署庁舎所在地	5
小山市消防本部の歩み	6

総務編

消防の予算と組織	19
消防予算	19
市予算に占める消防予算	19
市民1人あたり及び1世帯あたりの予算額	19
消防本部・消防署の組織	20
消防本部事務分掌	21
消防署事務分掌	22
所属別職員配置状況	23
職員階級別勤務年数	24
職員階級別年齢	25
職員各種免許・資格取得状況	26
消防職員委員会	27

予防編

火災の予防	31
建築物等の同意	31
建築種別同意状況の推移	31
用途別建築同意状況	32
防火査察と防火指導	33
防火査察状況	33
防火対象物点検報告	34
防火対象物点検報告状況	34
防火対象物適合表示	35
違反対象物の公表制度	35
違反対象物の公示	35
危険物の許可	36
危険物施設規模別施設数及び許可状況	36
危険物類別施設数	37

管内概況

総務編

予防編

火災編

警防編

救急編

通信編

消防団編

自主防災会編

危険物施設数年度別比較	37
危険物関係届出状況	37
各種届出の受理と指導	38
各種届出状況	38
消防用設備等届出状況	39
各種団体の育成	40
小山地区危険物保安協会	40
小山市防火管理協会	40
小山市女性防火クラブ連合会	40
小山市幼年消防クラブ連合会	40
小山市少年消防クラブ運営委員会	40
火災予防相談	41
火災予防広報	41
住宅用火災警報器の設置・点検	41

火災編

火災の現況	45
火災種別件数	45
火災の覚知方法別件数	45
火災による損害額及び死傷者数の状況	46
管轄別火災の状況、損害額及び死傷者数の状況	47
月別火災発生件数の推移	48
曜日別火災発生件数	48
時刻別火災発生件数	48
出火原因別出火件数	49
用途別建物火災件数	50
住宅、共同住宅火災の発火源及び経過状況	50
火災種別ごとの死傷者状況の推移	51
火災種別ごとの損害額状況の推移	51
建物火災による焼損状況の推移	51
建物火災1件当たりの損害状況の推移	52
過去10年間の火災件数及び損害額の推移	53

警防編

本部・署別車両配置状況	57
消火薬剤備蓄状況	57
消防水利の状況	58
消防車両一覧表	59
消防用器具の保有状況	60

水防資器材の保有状況	66
救急用器具の保有状況	67
消防活動施設及び消防水利施設に関する協議	69
消防水利施設に関する協議及び消防活動施設に関する協議件数及び消防水利数	69
小山市消防本部・消防署の活動	70
火災、災害事故、救助及びその他の出動状況	71
事故種別救助出動車両台数	72
事故種別救助活動車両台数	72
水防活動状況の推移	73
緊急消防援助隊	74
小山市（消防含む）の相互応援協定等	75
小山市消防本部における主な災害等	80

救急編

救急活動	87
救急救命士・救急隊員及び消防隊員が行うことができる処置	87
救急業務の実施状況	88
救急出動件数及び搬送人員の推移	88
事故種別ごと出動件数及び搬送人員の構成比及び対前年比	88
所属別事故種別ごと出動件数及び搬送人員の状況	89
月別救急出動件数及び搬送人員並びに事故種別ごと出動件数及び搬送人員推移	90
傷病程度別事故種別ごと搬送人員の状況	91
急病に係る疾病分類別搬送状況	91
救急自動車による現場到着までの所要時間状況	92
救急自動車による現場到着から現場出発までの所要時間状況	92
救急自動車による病院収容までの所要時間状況	92
現場到着までの時間及び病院収容までの時間の推移と栃木県及び全国との比較	92
応急手当普通救命講習等受講状況	92
救急隊員が行った応急処置等の状況	93
心肺停止傷病者に対し一般市民が電気ショックを行った人数	94
医療機関別搬送人員の状況	94
救急ステーション事業	95

通信編

通信指令施設系統図	101
高機能消防指令センター内機器構成	102
無線通信設備	103
防災行政ネットワーク	103
覚知方法別受信状況	104

緊急通報の覚知方法別割合	104
119番転送状況	105
緊急通報システムからの受信状況	105
119番入電時における口頭指導実施件数の推移	106
テレホンサービス案内	106
小山市安全安心情報メール配信状況	107
気象情報	108
月別気象概要	108
気象通報受理状況	109

消防団編

小山市消防団組織	113
団員職名別配置状況	114
基本消防団員職名別年齢	115
基本消防団員勤続年数状況	115
基本消防団員平均年齢	115
機能別消防団員区分別年齢	116
団員職名区分別報酬額(年額)	116
出勤報酬	117
歴代消防団長	117
消防団車庫概要	118
消防団車両一覧表	119
月別分団別火災、災害事故及び水防の出勤回数	120
小山市消防団協力事業所表示制度	121
表示マークについて	121
協力事業所一覧	121
小山市消防団サポート事業	124
サポート事業所一覧	124

自主防災会編

小山市自主防災会	129
小山市自主防災会一覧	129

消防本部の概要

管轄人口・面積及び世帯数

令和5年4月1日現在

	小山市	野木町	合計
人口(人)	166,204	25,099	191,303
面積(k㎡)	171.75	30.27	202.02
世帯数(世帯)	71,531	11,002	82,533

消防本部

1本部(消防総務課・予防課・警防課)

1署・5分署・1分遣所

職員数 222人(再任用短時間勤務5人含む)
(定数) (225人)

小山市消防団

1団・5方面隊・18分団

団員数 747人
(定数) (854人)

火災・救急件数

令和4年中

	小山市	野木町	合計
火災件数	39	3	42
救急件数	8,518	1,003	9,521

管内概況



◇管内概況◇

■ 市勢

小山市は、栃木県南部に位置し、東は真岡市・茨城県筑西市及び結城市、西に栃木市、南に野木町・茨城県古河市、北は下野市にそれぞれ接し、地形はほとんど起伏がなく、その中央を北から南へ思川が流れています。

市街地の周辺には農地や平地林の田園環境が広がっており、コウノトリが定着・繁殖したラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」をはじめとする豊かな自然環境と数多くの歴史的・文化的財産を有し、農業・商業・工業のバランスがとれたまちとして発展しています。

鉄道は、南北のJR宇都宮線と東北新幹線を軸に、東からJR水戸線、西からJR両毛線が小山駅で結節し、道路は国道4号と新4号国道、国道50号の広域幹線道路が市内を南北、東西に貫いており、交通の要衝となっています。

本市の中心部約203.1ヘクタールは、準防火地域の指定を受け、防火体制の強化が図られています。

■ 消防

● 消防の構成

小山市消防は、常備消防の消防本部職員217人と非常備消防の消防団員747人で構成され、それぞれ消防活動上有効に消防署、分署、分遣所及び消防団を配備し、消防防災活動を行っています。

● 消防事務の受託

昭和60年4月、野木町から地方自治法の規定に基づき消防事務の委託を受け火災や事故・地震などの災害や有事への備え等の消防事務を実施しています。

● 消防ポンプ車と装備等

消防本部及び消防署には、水槽付消防ポンプ自動車を始め、化学消防ポンプ自動車・はしご付消防ポンプ自動車等16種類45台と人命救助に必要な救助艇などを配備しています。また、消防団には団本部車（広報車）及び普通消防ポンプ自動車等40台を配置し災害や事故に備えています。

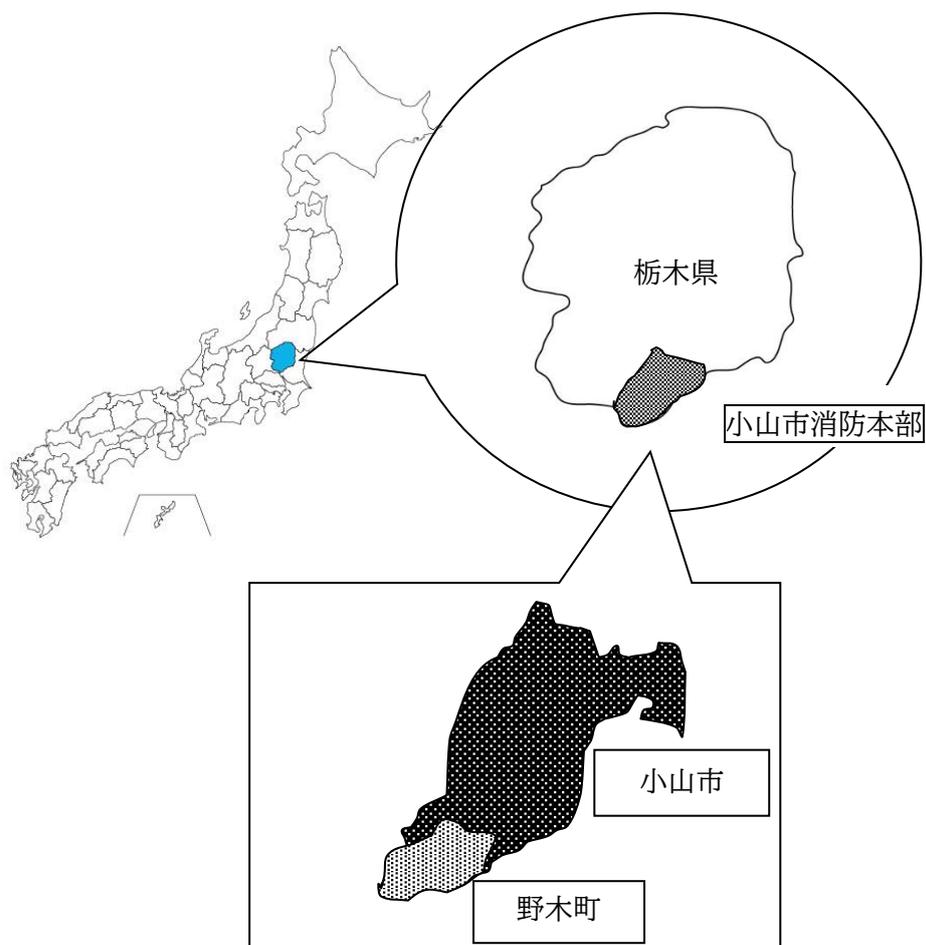
● 消防用水利

消防用水利は、消火活動上欠くことのできない重要な施設です。管内には消防活動上有効に使用できる川、沼等の自然水利に恵まれておりません。従って、人工的に造った防火水槽や消火栓等が消防活動のための重要な水利となっています。

このように消防装備の充実整備を図っていますが、建物の増加に加え、事故が発生すると甚大な被害を及ぼす危険物・ガス施設等の生活圏への建築、また異常気象による自然災害や交通事情の変化などによる各種災害発生の危険性が増加しています。

これらの災害に充分対応できる消防体制の整備強化を目指します。

◇小山市・野木町位置図及び概要◇



(令和5年4月1日現在)

	位置	面積 (km ²)	広ぼう (km)	海抜 (m)	人口 (人)	世帯数 (世帯)
小山市	東経 139° 48'	171.75	東西 20.25	最高 48.50	166,204	71,531
	北緯 36° 18'		南北 21.40	最低 14.00		
野木町	東経 139° 45'	30.27	東西 9.40	野木町役場 24.00	25,099	11,002
	北緯 36° 14'		南北 6.80			
合計		202.02			191,303	82,533

◇小山市消防本部の歩み◇

年 月	記 事
昭和20年 2月	・ 小山町警防団常備消防部発足する。(部員9名) 仮庁舎を小山町小山 2,006番地(上町公会堂)に設置、消防ポンプ車2台を配備し、消防部長に寺内金次郎氏就任する。
4月	・ 小山町小山 2,245番地に庁舎及び望楼完成、移転する。(部員12名に増強)
23年 3月	・ 消防組織法が施行、自治体消防が発足する。(警察の指揮下より独立)
6月	・ 小山町消防団発足、初代団長 寺内 金次郎氏就任する。
8月	・ 小山町消防本部発足、初代消防長 下河辺 弘毅氏就任する。
25年 12月	・ 水そう付消防ポンプ自動車(イヌゞ 50年型、積載水 2,200ℓ)購入配備する。
27年 8月	・ 望楼を鉄骨造りに改築、本部庁舎西側に設置する。(高さ21㍍)
29年 3月	・ 小山町と大谷村が合併し小山市となる。(人口32,192人)
4月	・ 本部職員16名、団員 718名となる。
30年 4月	・ 本部職員19名に増強、消防団の組織編成を見直し、団員を 294名に減員改定する。
5月	・ 普通ポンプ自動車(ニッサン 54 年型)購入本部へ配備する。 ・ 水そう車(トヨタ 50年型、積載水4,300ℓ)に可搬式ポンプを搭載、水そう車兼ポンプ車として配備する。
12月	・ 小山市に隣接の穂積村外城地区を編入する。(人口 275人)
32年 4月	・ 本部職員20名に増強する。
33年 4月	・ 本部職員23名に増強する。
34年 4月	・ 指令車(プリンス 56 年型乗用車)購入配備する。
5月	・ 小山地区危険物保安協会設立発足する。
10月	・ 救急業務を開始する。
35年 4月	・ 本部職員26名に増強する。
36年 10月	・ 消防無線運用開始する。(基地局 1. 移動局 1. 中短波2,120 KHz. 3ワット)
37年 4月	・ 本部職員28名に増強する。
38年 4月	・ 小山市と隣接の間々田町、美田村が合併する。(人口71,286人) ・ 市役所間々田支所内に仮間々田分遣所を設置し、職員4名を配置する。 ・ 本部職員48名に増強する。
12月	・ 間々田分遣所開庁(大字間々田 925番地)職員9名配置する。
39年 2月	・ 水そう付消防ポンプ自動車(イヌゞ TXG-20・64年型)配備する。
5月	・ 作業車(ダットサン・バン V320・63 年型)配備する。 ・ ダイヤル自動化により火災専用電話(119)設置する。 ・ 消防専用電話(消防署～間々田分遣所及び市役所豊田支所間)設置する。
40年 4月	・ 本部職員51名に増強する。
9月	・ 小山市と隣接の桑絹町が合併する。(人口90,632人)

年 月	記 事
昭和40年11月	・消防無線周波数変更する。(152.77 MHz F3 基地局 5ワット,移動局10ワット)
41年 1月	・救急車(トヨタ FS45V 41年型)配備する。
3月	・化学消防ポンプ自動車(イスゞ TX50 41年型)配備する。
4月	・本部職員59名に増強する。
7月	・広報車(ニッサン セトリックバン YP31)配備する。
42年 4月	・本部職員66名に増強する。
8月	・予防査察車(トヨタ ットパブリカ VP16) 危険物保安協会より寄贈を受け配備する。
11月	・消防本部庁舎開庁(神鳥谷934. RC造3階建延べ 1,174.82㎡)
12月	・普通消防ポンプ自動車(ニッサン パトロール FG60)配備する。
43年 4月	・本部職員71名に増強する。
5月	・普通消防ポンプ自動車(ニッサン ジェニア)損害保険協会より寄贈を受け配備する。
6月	・ホース乾燥塔設置及び非常用発電機配備する。
11月	・下河辺 弘毅氏消防長退任、代行に寺山 満氏就任する。
12月	・水そう付消防ポンプ自動車(イスゞ TXG-10・43年型)配備する。
44年 4月	・本部職員73名に増強する。
	・消防長に山中 泰輔氏就任(市長が兼務)する。
6月	・市人口 100,000人を超える。
	・指令車(ニッサン セトリック) 配備する。
8月	・水難救助消防艇の搭載用トレーラー萬自動車(株)より寄贈を受け配備する。
45年 4月	・石渡 恒太郎氏消防長に就任する。
	・本部職員76名に増強する。(市人口 103,153人)
9月	・救急車(トヨタ FS55 V44年型)小山ロータリークラブより寄贈を受け配備する。
12月	・救急車(ニッサン エコ-45・ FHN60)農業組合連合会より寄贈を受け配備する。
46年 4月	・本部職員79名に増強する。
5月	・広報作業車(トヨタ 46PS66 V46) 配備する。
7月	・アクアラング隊発足(隊員11名) 水難救助の体制強化を図る。
47年 4月	・桑分遣所開庁(大字羽川 139番地) 職員11名配置する。
5月	・小山市防火管理協会設立発足する。
12月	・消防無線市町村波運用開始(152.77 MHz F3) する。
48年 4月	・本部職員86名に増強する。
	・豊田分遣所開庁(大字松沼 467番地 1)職員11名配置する。
	・間々田分遣所救急業務を開始する。
	・水そう付消防ポンプ自動車(トヨタ100)桑分遣所へ配備する。
7月	・消防救急指令装置(NEC FD301)導入、通信係8名を配置し、専従とする。
	・望楼による監視を廃止した。
11月	・救助隊発足する。(隊員 10名)
49年 1月	・はしご付消防ポンプ自動車(日野TC34、森田製)配備する。

年 月	記 事
昭和49年 4月	・本部職員 113名に増強する。
10月	・指揮車(トヨタ FJ40)小山ロータリークラブより寄贈を受け配備する。
11月	・水そう付消防ポンプ自動車(日野 KL300) 豊田分遣所へ配備する。
50年 12月	・ライトバン(トヨタ N56 V45) 小山西病院より寄贈を受け配備する。 ・水そう付消防ポンプ自動車(日野 KP321) 消防署へ配備する。
51年 2月	・救急車(トヨタ HP・H19V) 栃木県共済農業連合会より寄贈を受け配備する。
4月	・市人口 120,000人及び世帯数30,000世帯を超える。 ・本部職員 114名に増強する。 ・桑分遣所救急業務開始、新たに救急車(ニッサン HG20)改日本損害保険協会より寄贈を受け配備する。
52年 4月	・山中 秀夫氏消防長に就任する。本部職員 124名に増強する。
7月	・指令車(ニッサン グロリア C331)配備する。
	・水そう付消防ポンプ自動車(イスゞ FBR 370)間々田分遣所へ配備する。
12月	・救急業務開始以来の救急出場延べ20,000件を突破する。 (延べ搬送人員22,282人)
53年 4月	・本部職員 126名に増強する。
54年 4月	・分遣所を分署と改称する。本部職員 131名に増強する。
5月	・新聞々田分署開庁(乙女1番地3、RC造2階建、延べ 669.62㎡)
55年 4月	・消防本部及び消防署の機構改革を実施、通信指令課を新設、警防課を廃止する。
56年 4月	・本部職員 134名に増強する。
8月	・庁舎屋上の望楼を耐震上の理由により取り壊す。(高さ35m)
10月	・栃木県救急医療情報システム端末機設置運用開始する。
57年 12月	・普通消防ポンプ自動車(ニッサン M-FG161)更新配備する。 ・栃木県防災行政無線設置運用開始する。
58年 2月	・化学消防ポンプ自動車(イスゞ K-FDR370 改) 更新配備する。 ・消防無線基地局(第1装置 県波、第2装置 市波)増設する。
4月	・本部職員 137名に増強する。
11月	・大谷分署開庁(大字犬塚 312-1、RC造2階建、延べ 671.29㎡) 職員17名配置し、消防ポンプ自動車、救急車各1台配備する。
12月	・水そう付消防ポンプ自動車(日野 K-FF173AA 改) 大谷分署へ配備する。
59年 1月	・普通消防ポンプ自動車(イスゞ P-TLD46改) 配備する。 ・救急車(ニッサン L-FHGE23) 日産自動車(株)より寄贈を受け配備する。
4月	・本部職員 146名に増強する。 ・佐藤 正男氏消防長に就任する。
6月	・査察広報車(スゞキ M-SS40V) 小山北ライオンズクラブより寄贈を受け桑分署へ配備する。

年 月	記 事
昭和59年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・査察広報車 間々田、豊田分署へ各1台配備する。 ・査察車(ニッサン L-VR11カ) 小山思水ライオンズクラブより寄贈を受け本部予防課へ配備する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・小山市婦人防火クラブ連合会が設立発足する。
60年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・野木町より消防事務を受託し、野木分署開庁(野木町大字丸林149、RC造2階建、延べ682.12㎡) 職員13名を配置し、水そう付消防ポンプ自動車(イヌゞ P-FTR12H 改)救急車(ニッサン L-EHG23) 配備する。 ・管内人口 151,365人、世帯数 42,053 世帯となる。 ・本部職員 153名に増強する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・水そう付消防ポンプ自動車(日野 P-GD172) 間々田分署へ更新配備する。
61年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防情報テレホンサービス(0285-23-2626)を開始する。(20回線)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急車(トヨタ L-YH71VB) 大谷分署へ更新配備する。
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・新桑分署開庁(大字羽川 139-2、RC造2階建 延床面積 502㎡) ・本部職員 156名に増強する。 ・星野 善一氏消防長に就任する。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・指令車(トヨタ クラウン GS120) 更新配備する。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・防火号(ニッサン キャラバン)日本防火協会より寄贈を受け予防課へ配備する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・普通ポンプ車(トヨタ ナーゼル)野木分署へ増強配備する。
62年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・水そう付消防ポンプ自動車(イヌゞ -P-FSR12FAVカ) 消防署へ更新配備する。 ・救急車(トヨタ L-YH71VB) 桑分署へ更新配備する。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防救急指令装置(HA-105・(株)富士通)更新配備する。
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・本部職員 160名に増強する。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・乗用車(トヨタ クラウン ES-120)総務課へ配備する。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・水難救助艇(ヤマハ W-160FR) 消防署へ配備する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・衛星通信経由119番設置運用開始する。
63年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防無線基地局(第三装置、救急波)増設する。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・水そう付消防ポンプ自動車(三菱 P-FK416F2改) 桑分署へ更新配備する。
4月	<ul style="list-style-type: none"> 池田 幸三氏消防長に就任する。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・新豊田分署開庁(大字立木 711-1、RC造2階建、延べ面積580.21 ㎡、職員17名) ・救急車(ニッサン L-FHGE24 改)日本損害保険協会より寄贈を受け豊田分署へ配備する。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・水そう付消防ポンプ自動車(日野P-FD172BA カ) 日本損害保険協会より寄贈を受け豊田分署へ配備する。 ・連絡広報車(イヌゞ Q-JT600カ)小山ロータリークラブより寄贈を受け大谷分署へ配備する。 ・水難救助艇(ヤマハ W-16EH)間々田分署へ配備する。

年 月	記 事
昭和63年 8月	・非常用自家発電装置(ホンダ GENERATOREX 4.0KVA)設置する。
11月	・救急車(ニッサン L-FHGE24)日本消防協会より寄贈を受け間々田分署へ更新配備する。
平成元年 2月	・FAX電話(Tel 25-1132) 設置運用開始する。
3月	・救助工作車(日野 P-GD172BA カイ)消防署に配備する。
5月	・消防情報テレホンサービスの回線数を30回線へ増設する。
8月	・救助艇、船外機を大谷分署及び桑分署へ配備する。
9月	・総合自動気象観測装置を通信指令課へ設置する。
10月	・消防無線周波数(市町村波 154.07 MHz)変更運用開始する。
11月	・指揮車(トヨタ ラント [®] クルザ [®] - M-FJ62V カイ)更新配備する。
2年 2月	・小型動力ポンプ付水槽車(積載水 10000ℓ. 三菱P-FT413Nカイ)消防署へ配備する。
4月	・本部職員を 161名に増強する。
11月	・広報車(トヨタ E-YR 20G改)更新配備する。
3年 1月	・救急車(トヨタ T-RZH133 S改)更新配備する。
2月	・地図検索装置(パナソニック 7000 MK 2)及び、指令装置端末機を設置する。
3月	・水そう付消防ポンプ自動車(三菱V-FK417F2W改)豊田分署へ更新配備する。
4月	・本部職員 162名に増強する。
10月	・自動車電話、ファックス各1台を消防署指揮車へ新規配備する。 ・救急医療情報システム端末機(NTT. BS21 model32E)更新する。
4年 2月	・化学消防ポンプ自動車(水槽2000ℓ.薬槽500ℓ) 間々田分署へ更新配備する。
4月	・本部職員 166名に増強する。
6月	・査察2号車(ライトバン) 予防課へ更新配備する。
5年 4月	・柏崎 義雄氏消防長に就任する。 ・本部職員を 176名に増強する。(消防職員の条例定数190名) ・査察広報車(三菱 V-H22V 改)桑分署へ更新配備する。 ・消防団緊急伝達システム一式(サイレン装置、スピーカ装置、録音装置)を分団車庫(15カ所)に新規配備する。
12月	・救急車(ニッサン E-FGE 24) 大谷分署へ更新配備する。
6年 4月	・小林 昭吾氏消防長に就任する。 ・本部職員 184名に増強する。
9月	・査察広報車(トヨタ V-KV 改) 間々田分署、豊田分署へ更新配備する。
7年 2月	・救急車(トヨタ T-RZH 133 S) 野木分署へ更新配備する。 ・査察1号車(ニッサン GA-VAJC 23 改) 予防課へ更新配備する。
3月	・化学消防ポンプ自動車(水槽 2500ℓ・薬槽500ℓ)大谷分署へ更新配備する。
4月	・本部職員 185名に増強する。
7月	・総務1号車(トヨタ E-ST190改)日本消防協会より寄贈を受け総務課へ配備。
10月	・40m四輪操舵はしご車(モリタ MH5)本署へ更新配備する。

年 月	記 事
平成8年 3月	・高規格救急自動車(トヨタ GB-UZH138S)本署へ更新配備する。 ・査察広報車(ニッサン GA-VAJC23)野木分署へ更新配備する。
4月	・本部職員 186名に増強する。
9年 2月	・消防無線全国共通波の基地局増設及び移動局14車両に増設整備する。 (全国共通波3波、150.73MHz,148.75MHz,154.15MHz)
4月	・本部職員 186名
10年 2月	・化学消防ポンプ自動車(水そう2000ℓ・薬そう800ℓ)本署へ更新配備する。 ・消防団緊急情報伝達システムの子局を分団車庫(3カ所)増設配備する。
4月	・山中 九市氏消防長に就任する。 ・本部職員 188名に増強する。
8月	・指令1号車(ニッサン E-Y31 改)本部へ更新配備する。 ・査察広報車(スズキ V-DE51V)大谷分署へ更新配備する。
11月	・消防団緊急情報伝達システムの子局を分団車庫(3カ所)増設配備する。
12月	・普通ポンプ車(三菱 KC-FE538B 改)間々田分署へ更新配備する。
11年 3月	・高規格救急自動車(トヨタ GB-VCH32 S)間々田分署へ更新配備する。 ・消防団緊急伝達システムの子局を分団車庫(3カ所)増設配備する。
4月	・本部職員 186名
8月	・普通ポンプ車(三菱 KK-FE53EB 改)桑分署へ更新配備する。
9月	・乗用車(ニッサン セトリック GF-Y31)本部へ更新配備する。
11月	・消防緊急指令システムを更新整備する。
12年 3月	・救急車(トヨタ GE-VCH22 S)豊田分署へ更新配備する。 ・消防団緊急情報伝達システムの子局を分団車庫(3カ所)増設配備する。
4月	・大塚 克己氏消防長に就任する。 ・本部職員 189名に増強する。
13年 1月	・高規格救急自動車(ニッサン GE-FLGE50)大谷分署へ更新配備する。 ・資機材搬送車(ニッサン KK-APR72PV)本署へ更新配備する。
2月	・水そう付消防ポンプ自動車(三菱KL-FP50KH改)野木分署へ更新配備する。
3月	・消防団緊急情報伝達システムの子局を分団車庫(3カ所)増設配備する。 ・小山市自主防災会連絡協議会設立する。
4月	・本部職員 189名
12月	・水そう付消防ポンプ自動車(日野KK GD1JGDA改)間々田分署へ更新配備する。
14年 4月	・関和 貞雄氏消防長に就任する。 ・本部職員 189名
12月	・高規格救急自動車(トヨタ TC-VCH38S)桑分署へ更新配備する。 ・普通ポンプ車(イスタ KR-NKR81GN 改)野木分署へ更新配備する。 ・救急資器材滅菌消毒室、大谷分署に新設する。 (軽量鉄骨プレハブ造平屋建 延べ面積33.12㎡)

年 月	記 事
平成15年 1月	・水そう付消防ポンプ自動車(イスゞ KK-FSR33G4V改)大谷分署へ更新配備する。
2月	・地図等検索装置バクトルデータ化に更新する。
4月	・本部職員 188名
11月	・消防情報テレホンサービスをテレドームに変更(0180-992-190) ・査察2号車(トヨタ UA-ACR30W)予防課へ更新配備する。
12月	・高規格救急自動車(ニッサン TC-FPWGE50改)消防署へ更新配備する。 ・自家発電設備更新する。(20KVA)
16年 1月	・水そう付消防ポンプ自動車(イスゞ KK-FSR33G4V)消防署へ更新配備する。
3月	・救助工作車Ⅲ型(イスゞ KL-FTS34H4)消防署へ更新配備する。
4月	・綾部 照夫氏消防長に就任する。 ・本部職員 188名 ・緊急消防援助隊の登録(救急隊・救助隊・消火隊・指揮隊・後方支援隊)
12月	・高規格救急自動車(ニッサン TC-FPWGE50改)野木分署へ更新配備する。 ・非常用救急自動車(トヨタ T-RZH133S)配備、運用開始する。
17年 3月	・水そう付消防ポンプ自動車(イスゞ PB-FSR35G3V)豊田分署へ更新配備する。
4月	・本部職員 189名 ・緊急消防援助隊の登録(前年度登録した消火隊に1隊を追加登録、計6隊)
10月	・救急資器材滅菌消毒室、間々田分署に新設する。 (軽量鉄骨プレハブ造平屋建 延べ面積27㎡)
18年 2月	・指揮1号車(トヨタ CBF-TRH226K)消防署へ更新配備する。
4月	・山崎 仁氏消防長に就任する。 ・本部職員 190名
12月	・空気呼吸器用空気充填機 MARINER-Ⅱに更新する。
19年 1月	・水そう付消防ポンプ自動車(日野ADG-GX7JGWA改)桑分署へ更新配備する。
2月	・消防気象観測システム装置を通信指令課へ更新設置する。
4月	・本部職員 190名 ・消防本部及び消防署の組織改編を実施、通信指令課へ警防係及び予防課へ調査係を新設する。 ・小山市自主防災会連絡協議会事務局を小山市役所総務部行政経営課から、消防本部総務課へ移管となる。
20年 2月	・化学消防ポンプ自動車(日野BDG-GD7JGWA改)間々田分署へ更新配備する。
3月	・高規格救急自動車(ニッサンABF-FPWGE50改)間々田分署へ更新配備する。
4月	・本部職員 188名
21年 2月	・高規格救急自動車(ニッサンCBF-FPWGE50改)豊田分署へ更新配備する。
3月	・小山市消防庁舎建設移転基本計画を策定する。 移転地は小山市大字神鳥谷1699-1となる。
4月	・植野 正二氏消防長に就任する。

年 月	記 事
平成21年4月	・本部職員 188名
8月	・小型動力ポンプ付水槽車(三菱P-FT413N改)のポンプを更新する。
10月	・通信指令システム制御指令装置を更新する。
12月	・高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)大谷分署へ更新配備する。
22年 4月	・宇賀 静男氏消防長に就任する。
	・本部職員 188名
9月	・携帯電話IP電話簡易型位置情報受信装置を通信指令課へ設置する。
23年 3月	・軽可搬消防ポンプ一式(ラビット P265M)小山東ロータリークラブより寄贈を受け消防団へ配備する。
4月	・本部職員 190名
11月	・高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)消防署へ更新配備する。
24年 3月	・化学消防ポンプ自動車(日野SDG-GX7JGAA改)大谷分署へ更新配備する。
	・新消防庁舎の建設に着手する。
4月	・本部職員 193名
	・消防本部及び消防署の組織改編を実施、防災対策課を新設、通信指令課警防係を廃止する。
	・島野 利治氏危機管理監に就任する。
9月	・避難所49箇所及び各出張所11箇所へ発電機を配備する。
25年 3月	・第1期拡声器付災害情報伝達システム(基地局:消防本部、子局:生井地区9基)を新規配備する。
4月	・本部職員 198名
5月	・新消防庁舎、竣工する。
	大字神鳥谷1700番地2、敷地面積 6,066.95㎡
	消防庁舎 S造3階建、延べ面積 3,743.77㎡
	二次出動車庫 S造平屋建、延べ面積 248.52㎡
	主訓練塔 RC造3階建、延べ面積 192.00㎡
	補助訓練塔1 RC造4階建、延べ面積 370.30㎡
	補助訓練塔2 RC造3階建、延べ面積 72.00㎡
9月	・新消防庁舎に移転、業務を開始する。
	・高機能消防指令センターの運用を開始する。
	・デジタル無線救急波の運用を開始する。
	・消防バイク、救急バイク(ヤマハG370E)消防署へ配備する。
	・高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)桑分署へ更新配備する。
10月	・新消防庁舎の開庁式を執り行う。
11月	・査察広報車(ホンダ DBA-RK1)野木分署へ更新配備する。
26年 2月	・防災広報車(ニッサンDBA-M20)日本消防協会より寄贈を受け防災対策課へ配備する。

年 月	記 事
平成26年4月	<ul style="list-style-type: none"> ・塚原 信明氏消防長に就任する。 ・安田 好利氏危機管理監に就任する。 ・再任用短時間雇用職員制度を導入する。 ・本部職員 199名
26年 7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期拡声器付災害情報伝達システム(子局:寒川・中地区13基)を新規配備する。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)野木分署へ更新配備する。 ・高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)消防署へ更新配備する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3期拡声器付災害情報伝達システム(子局:穂積地区・思川西側の小山地区11基)を新規配備する。
27年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・救助資器材搭載型消防ポンプ自動車(いすゞTDG-NMS85AN)総務省消防庁から無償貸付を受け消防団へ配備する。
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・小谷野 祐司氏危機管理監に就任する。 ・本部職員 209名 ・女性職員採用 2名 ・機能別消防団員(小山市職員)を設立する。 ・条例定数225名となり、消防長階級を消防正監とする。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第22回全国女性消防操法大会に「おやまファイアーレディース(小山市女性消防隊)」が栃木県代表として出場、準優勝となる。 ・高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)間々田分署へ更新配備する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・予防査察車(三菱DBA-CV5W)日本消防協会より寄贈を受け予防課へ配備する。
28年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・絹分遣所、竣工する。(大字福良1105-1、S造平屋建、延べ面積643.02㎡)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・水そう付消防ポンプ自動車(日野SDG-GX7JGAA改)及び高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)を絹分遣所に配備する。 ・水そう付消防ポンプ自動車(日野SDG-GD7JGAA改)野木分署へ更新配備する。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・絹分遣所、開所する。(職員数13名)
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・片岡 三夫氏危機管理監に就任する。 ・消防本部及び消防署の組織改編を実施、総務課に消防団担当、消防署に消防・救急業務推進担当を新設、予防課調査係を廃止する。 ・本部職員 213名 ・女性職員採用1名(計3名)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練の被災地として想定、図上・実働及び宿営訓練会場として実施する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語通訳サービス(外国語による通報対応)を導入する。
29年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防本部及び消防署の組織改編を実施、総務課の消防団担当を消防団係、防災対策課を危機管理課、防災対策課の防災対策係を危機管理課危機管理係、危機管理課防災企画係を新設、消防署の消防・救急業務推進担当を消防・救急業務推進係に改編する。

年 月	記 事
平成29年 4月	・女性職員採用2名(計5名) ・機能別消防団員(大学生、OB、事業所)を設立する。
30年 4月	・猪瀬 治雄氏消防長に就任する。 ・本部職員 217名 ・女性職員採用2名(計7名)
10月	・高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)豊田分署へ更新配備する。
12月	・査察広報車(ニッサンHBD-DR17V)小山地区危険物保安協会、小山市防火管理協会より寄贈を受け、桑分署へ配備する。
31年 4月	・本部職員 218名
令和元年10月	・高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)大谷分署へ更新配備する。 ・NET119緊急通報システム(聴覚障がい者等からの通報対応)の運用を開始する。
2年 4月	・永山 武志氏危機管理監に就任する。 ・本部職員 217名
7月	・排水ポンプ車(日野2DG-FD2ABA)2台消防署へ配備する。
10月	・高規格救急自動車(トヨタ3BF-TRH226S)消防署へ更新配備する。
12月	・資機材搬送車(日野2PG-XZU712M)消防署へ配備する。
3年 4月	・町田 哲男氏危機管理監に就任する。 ・総務課の組織名称を消防総務課に改める。 ・本部職員 219名
5月	・市役所新庁舎竣工する。 ・危機管理課を消防本部庁舎2階から市役所新庁舎6階へ移転する。
4年 2月	・小型動力ポンプ付水槽車(日野2PG-FQ1AJG改)消防署へ更新配備する。
4月	・諏訪 良作氏消防長に就任する。 ・本部職員 222名
11月	・防災ドローン2機消防署へ配備する。
5年 2月	・水槽付消防ポンプ自動車(日野2KG-GX2ABA)消防署へ配備する。
3月	・特別消火隊が発足する。
4月	・消防本部及び消防署の組織改編を実施、通信指令課を警防課、警防課に警防係、消防署に指揮調査係を新設、消防署消防・救急業務推進係を廃止、危機管理課が総務部に移管となる。 ・本部職員 217名

総務編

総務編



私の将来は ここから、 始まる。

最近、私自身の将来を
真剣に考えるようになった。
私に何ができるかな…
そう言えばこの前
地域を守る消防士の仕事に
やりがいと魅力を感じた。
私も挑戦してもいいかな。
きっと私にだって
できることがある。

My future starts here.



女性消防士であるからこそできることがたくさんあります。
働きやすい環境だから、私たちにピッタリの仕事です。

女性消防士の活躍推進に関する情報は
こちらのポータルサイトから

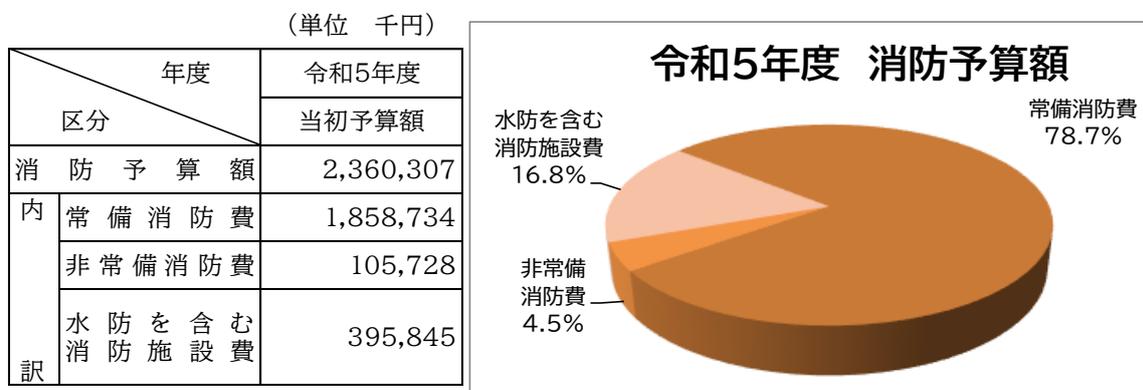
小山市 女性消防 検索



◇消防の予算と組織◇

1 令和5年度の消防予算は、23億6,030万7千円（野木町消防事務受託費を含む。）で、前年度から比較して1億8,660万8千円増額しています。増額の主な理由は、はしご付き消防自動車等の購入費、防火水槽整備事業を実施するためです。

■ 消防予算(当初予算)



■ 市予算に占める消防予算(当初予算)

年度	区分	市一般会計予算額(千円)	左のうち消防予算額(千円)	市予算に占める割合(%)
		(A)	(B)	(B) / (A)
令和5年度		68,100,000	2,360,307	3.47
令和4年度		64,850,000	2,173,699	3.35
令和3年度		63,950,000	2,016,645	3.15
令和2年度		67,350,000	2,065,144	3.07
令和元年度		64,400,000	1,981,659	3.08

■ 市民1人あたり及び1世帯あたりの予算額(当初予算) (単位 円)

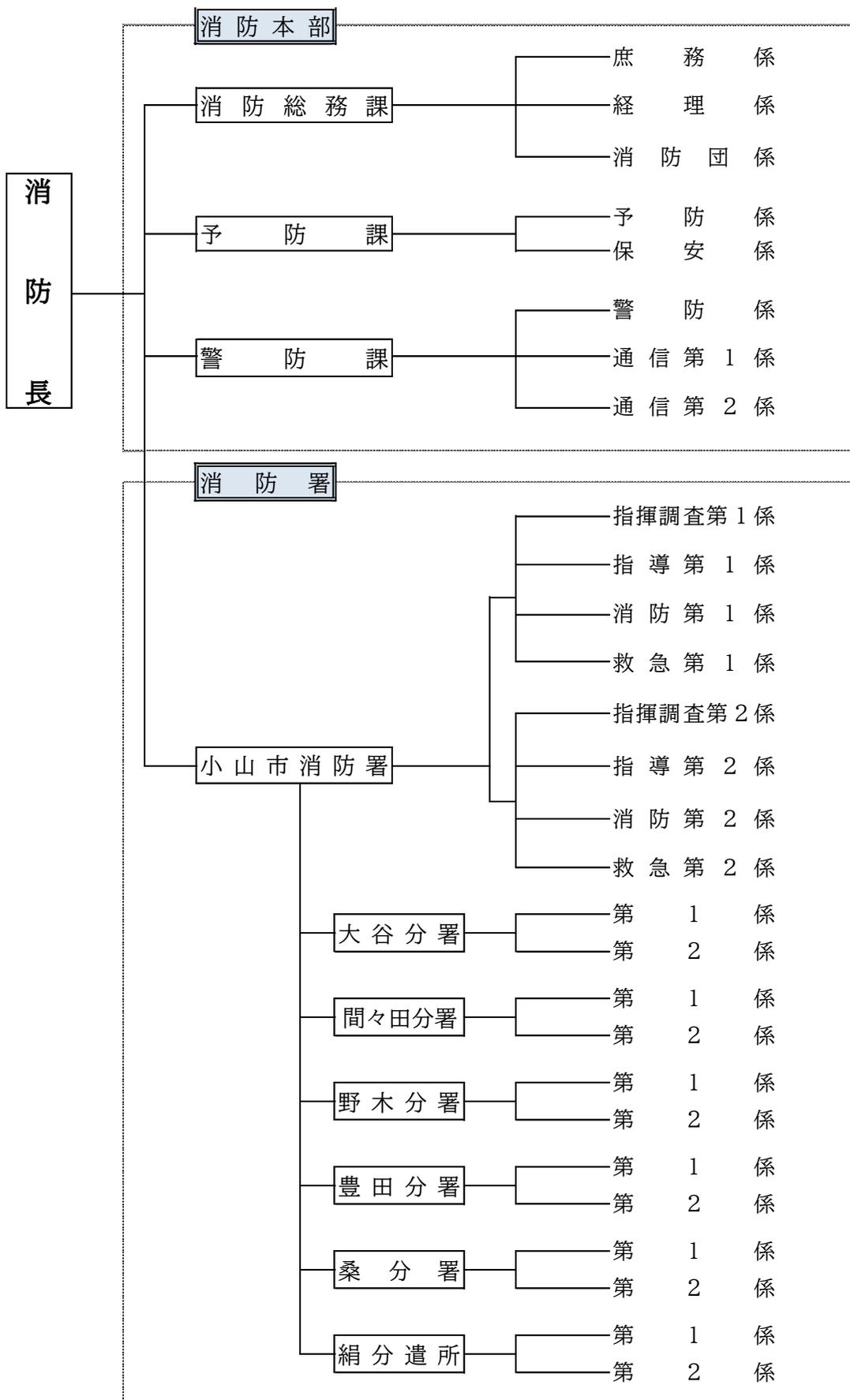
年度	区分	市民1人あたり		1世帯あたり	
		一般会計予算	消防予算	一般会計予算	消防予算
令和5年度		409,737	12,338	952,035	28,598
令和4年度		387,648	11,291	865,313	25,334
令和3年度		381,645	10,451	894,931	24,523
令和2年度		402,804	10,713	920,761	24,618
令和元年度		384,997	10,274	890,327	23,890

(消防予算については、野木町の人口及び世帯を含む)

2 本市消防の管理者である市長のもと、防災担当機関として、管轄内に消防本部・消防署・分署・分遣所及び消防団本部・各方面隊・各分団を有効に配置し、火災の予防、警戒、鎮圧をはじめ、交通事故等による救急救助業務、地震や風水害防除活動などから住民を守るため、様々な消防防災活動を行っています。

また、野木町においては、町民の安全・安心の確保のため、昭和60年4月から本市において消防事務（消防団及び消防水利の設置・維持・管理を除く。）を受託し、消防防災活動を行っています。

■ 消防本部・消防署の組織



■ 消防本部事務分掌

消 防 総 務 課	(幹事課)	<ol style="list-style-type: none"> 1 行政の企画及び執行に係る総合調整に関すること。 2 重要な事務及び事業の進行管理に関すること。 3 事務の能率化、流動化に関すること。 4 広報及び広聴に関すること。 5 組織及び職員管理に関すること。 6 予算編成及び執行の適正な管理に関すること。 7 消防本部内の各課との事務の連絡調整に関すること。 8 前各号に掲げるもののほか、消防本部内他課等の主管に属しない事務に関すること。
	庶務係	<ol style="list-style-type: none"> 1 公印及び文書に関すること。 2 人事に関すること。 3 職員の教養訓練に関すること。 4 服務規律及び監察に関すること。 5 職員の福利厚生、安全及び衛生に関すること。 6 消防表彰に関すること。
	経理係	<ol style="list-style-type: none"> 1 消防予算の経理に関すること。 2 施設及び備品の管理に関すること。 3 施設の新増設及び改廃に関すること。 4 貸与品に関すること。 5 税外収入金の徴収に関すること。
	消防団係	<ol style="list-style-type: none"> 1 消防団の組織に関すること。 2 消防団車庫の維持管理に関すること。 3 消防団の充実強化に関すること。
予 防 課	予防係	<ol style="list-style-type: none"> 1 火災の予防に関すること。 2 建築物の同意に関すること。 3 防火管理者に関すること。 4 消防用設備等に関すること。 5 防火団体の育成に関すること。 6 火災予防査察及び防火指導に関すること。
	保安係	<ol style="list-style-type: none"> 1 危険物の製造、貯蔵及び取扱いに関すること。 2 危険物の許認可及び指導に関すること。 3 少量危険物の貯蔵及び取扱いに関すること。 4 液化石油ガスの規制事務に関すること。 5 ガス事業の規制事務に関すること。 6 危険物防火団体の育成に関すること。
警 防 課	警防係	<ol style="list-style-type: none"> 1 警防技術及び救急技術の指導、研究及び開発に関すること。 2 消防力の配備及び消防計画に関すること。 3 緊急消防援助隊及び広域消防相互応援に関すること。 4 メディカルコントロールに関すること。 5 救急救命士の養成に関すること。 6 自主防災組織に関すること。 7 消防相互応援協定に関すること。
	通信第1係 通信第2係	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種災害の出動指令及び部隊運用に関すること。 2 通信施設の保守に関すること。 3 指令業務の訓練及び技術の指導に関すること。 4 気象情報等の収集及び伝達に関すること。

■ 消防署事務分掌

消 防 署	指揮調査第1係 指揮調査第2係	<ol style="list-style-type: none"> 1 災害現場の指揮及び安全対策に関する事。 2 火災原因及び損害の調査に関する事。 3 火災調査技術の指導に関する事。 4 火災証明に関する事。 5 火災統計に関する事。
	指導第1係 指導第2係	<ol style="list-style-type: none"> 1 火災予防査察及び防火指導に関する事。 2 火災の予防に係わる諸届出及び報告に関する事。 3 指定可燃物の貯蔵及び取扱いに関する事。 4 火災予防相談に関する事。
	消防第1係 消防第2係	<ol style="list-style-type: none"> 1 水火災等の警戒防ぎよに関する事。 2 機械器具、資材等の保守に関する事。 3 消防地利水利に関する事。 4 消防訓練、警備及び救助に関する事。 5 火災予防又は消防活動に重大な支障を生ずるおそれのある物質の貯蔵及び取扱いに関する事。 6 水道の断滅水、道路工事等消防活動に係る届出に関する事。 7 水防に関する事。 8 開発行為及び中高層建築物の事前協議に関する事。
	救急第1係 救急第2係	<ol style="list-style-type: none"> 1 救急業務に関する事。 2 救急機器資材の保守に関する事。 3 救急業務の計画及び調査研究に関する事。 4 救急指導に関する事。
分 署 ・ 分 遣 所	第1係 第2係	<ol style="list-style-type: none"> 1 水火災等の警戒防ぎよに関する事。 2 救急業務に関する事。 3 火災予防査察及び防火指導に関する事。 4 消防地利水利に関する事。 5 機械器具及び諸施設の保守に関する事。 6 火災原因及び損害調査に関する事。 7 火災の予防に係わる諸届出及び報告に関する事。 8 水防に関する事。 9 消防訓練に関する事。

■ 所属別職員配置状況

(令和5年4月1日現在)

階級 課・係		消	消	消	消	消	消	消	消	計		
		防 正 監	防 監	防 司 令 長	防 司 令	防 司 令 補	防 士 長	防 副 士 長	防 士			
消 防 本 部	消 防 長	1								1	1	
	消 防 総 務 課	課 長		1							1	21
		課長補佐			1						1	
		庶務係			(1)		2				2	
		経 理 係				1	2				3	
		消防団係				1	1			1	3	
		消防総務課付					1	2		8	11	
		うち女性						1			1	
	予 防 課	課 長		1							1	9
		予 防 係				1	2		1		4	
		うち女性							1		1	
	警 防 課	保 安 係				1	1	1	1		4	20
		課 長		1							1	
		警 防 係				1	3	1	1	1	7	
		通信第1係				1	2	2	1		6	
		うち再任用						1			1	
	通信第2係				1	2	2		1	6		
	うち女性								1	1		
	消防本部 小計		1	3	1	7	16	8	4	11	51	
	うち女性							1	1	1	3	
	うち再任用							1			1	
消 防 署	消 防 署	署 長		1						1	59	
		副 署 長			1					1		
		指揮調査第1係				1	2	1				4
		指揮調査第2係				1	2	1				4
		消防第1係				1	3	3	1	2		10
		うち再任用						1				1
		消防第2係				1	2	3	2	2		10
		うち再任用						1				1
		指導第1係				1	1	3		1		6
		うち再任用						1				1
		指導第2係				1	1	1		3		6
		救急第1係				1	3	1	2	2		9
		うち女性							1			1
		救急第2係				1	2	4		1		8
	うち再任用						1			1		
	分 署 ・ 分 遣 所	大谷分署			1	2	6	3	3	6	21	112
		間々田分署			1	2	8	2	1	5	19	
		野木分署			1	2	7	4	4	3	21	
		豊田分署			1	2	8	1	3	4	19	
		桑分署			1	2	6	2	6	2	19	
		絹分遣所			1	2	4	1	3	2	13	
うち女性								1	1	2		
消防署 小計			1	7	20	55	30	25	33	171		
うち女性								2	1	3		
うち再任用							4			4		
合 計		1	4	8	27	71	38	29	44	222		
うち女性							1	3	2	6		
うち再任用							5			5		

() は兼務を示す。 【定数225】

※職員数222名のうち、再任用職員（短時間勤務）5名は定数に含まない。

■ 職員階級別勤務年数

(令和5年4月1日現在)

階級 勤務年数	計	消 防 正 監	消防監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士
1年未満	9						①		8
1～2年	12						④		8
2～3年	7								7
3～4年	4							3	1
4～5年	7							4	3
5～6年	7							5	2
6～7年	8							5	3
7～8年	13						10		3
8～9年	16						7		9
9～10年	9						4	5	
10～11年	8					4	1	3	
11～12年	6					2	2	2	
12～13年	6					3	2	1	
13～14年	9					5	4		
14～15年	9					6	3		
15～16年	7					7			
16～17年	3					3			
17～18年	3					3			
18～19年	2					2			
19～20年	5					5			
20～21年	3					3			
21～22年	4				1	3			
22～23年	3				2	1			
23～24年	7					7			
24～25年									
25～26年	6				2	4			
26～27年	2					2			
27～28年	1				1				
28～29年	3				3				
29～30年	10			1	7	2			
30～31年	10			1	4	5			
31～32年	4				2	2			
32～33年	3			1	2				
33～34年	3			1		2			
34～35年									
35～36年									
36～37年	3		1	1	1				
37～38年	6	1	3		2				
38～39年	2			1				1	
39～40年	1			1					
40～41年	1			1					
41～42年									
合計	222	1	4	8	27	71	38	29	44
平均年数	15.0	37.0	36.8	34.6	29.1	19.4	8.4	7.8	3.6

○付数字は再任用職員を示す。

職員階級別年齢

(令和5年4月1日現在)

階級 年齢	計	消 防 正 監	消防監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士
18 歳	2								2
19 "	2								2
20 "	1								1
21 "	3								3
22 "	7								7
23 "	1								1
24 "	5								5
25 "	9							1	8
26 "	12							4	8
27 "	11							6	5
28 "	8							7	1
29 "	6						6		
30 "	12						8	3	1
31 "	10						6	4	
32 "	11					4	5	2	
33 "	6					3	2	1	
34 "	4					1	3		
35 "	6					3	3		
36 "	8					8			
37 "	7					7			
38 "	3					3			
39 "	5					5			
40 "	2					2			
41 "	4					4			
42 "	3					3			
43 "	6					6			
44 "	2				1	1			
45 "	4				1	3			
46 "	6				1	5			
47 "	8				4	4			
48 "	7				5	2			
49 "	4				3	1			
50 "	4			1	3				
51 "	3				3				
52 "	6			1	3	2			
53 "	1			1					
54 "	3			1		2			
55 "	7		2	1	2	2			
56 "	3			1	1			1	
57 "									
58 "	3		1	2					
59 "	2	1	1						
60 "	1						①		
61 "	3						③		
62 "									
63 "									
64 "	1						①		
合 計	222	1	4	8	27	71	38	29	44
平均年齢	35.1	59.0	56.8	54.5	49.4	39.5	31.5	29.4	24.0

○付数字は再任用職員を示し、平均年齢計算には含まない。

■ 職員各種免許・資格取得状況

(令和5年4月1日現在)

種 別	階 級								
	消 防 正 監	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	計
大型自動車（一種）	1	4	8	29	72	38	26	19	197
大型二輪・普通二輪		1	3	11	26	10	6	6	63
潜水士	1		3	13	33	13	8	5	76
小型船舶操縦士		1	2	10	26	7	1		47
救急救命士			3	13	28	7	11	16	78
衛生管理者（第一種）	1	4	6	18	5	3	1		38
予防技術検定（防火査察）	1	4	7	27	65	28	20	8	160
予防技術検定（消防用設備等）	1	3	4	9	17	4	2	1	41
予防技術検定（危険物）	1	4	3	8	18	3	3	1	41
危険物取扱者（甲種又は乙種）	1	2	4	13	34	12	12	9	87
消防設備士（甲種又は乙種）	1	2	1	7	16	5	6		38

◇消防職員委員会◇

消防職員委員会は、消防職員が階級制度のもと厳格な服務規律と統制のとれた部隊活動を要求される中で、職員の意思疎通を図るとともに、職員の意見を消防事務に反映することにより、職員の士気を高め、消防の円滑な運営に資することを目的としています。

委員の構成

(令和4年度中)

区 分		管理職	管 理 職 以 外					合計
		消防監	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	
委員	消防長指名	1	8					9
	所属推薦による消防長指名			8				8
	合 計	1	8	8				17

審議内容及び審議結果

(令和4年度中)

審議区分	審議件数	審 議 結 果 の 区 分			
		実施することが 適当である	諸課題を検討 する必要がある	実施は困難と 考える	現行どおりで よい
勤務条件及び 厚生福利関係	1				1
被服及び 装備品関係					
設備、機械器具 その他の施設関係	1		1		
合 計	2		1		1

消防長の処置

(令和4年度中)

消防長の処置	処置件数	審 議 結 果 の 区 分			
		実施することが 適当である	諸課題を検討 する必要がある	実施は困難と 考える	現行どおりで よい
実施を決定					
実施に向けて検討					
諸課題を検討	1		1		
実施は困難					
現行どおり	1				1
合 計	2		1		1

予防編

予 防 編



◇火災の予防◇

消防本部及び消防署では、消防法等に基づいて、次のような火災予防事務を行っています。また、出火した場合でも、被害を最小限度に軽減するため、様々な対策や活動を行っています。

<建築物等の同意>

建築物の新築、増築、改築、移転などの許可、認可又は確認申請に対して、申請された建築物等が防火に関する法令に適合しているかなど、消防の見地から審査を行い、建築主事等に同意、不同意の通知を行います。

■ 建築種別同意状況の推移

年 度 \ 種 別	新 築	増 築	大規模模様替 用途変更等	合 計
令 和 4 年 度	180	8	40	228
令 和 3 年 度	170	13	41	224
令 和 2 年 度	198	9	56	263
令 和 元 年 度	222	12	61	295
平 成 3 0 年 度	208	19	60	287

■ 用途別建築同意状況

建築物用途		年度					
		令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	
1	イ	劇場、映画館等			3	1	
	ロ	公会堂、集会所	4	8		2	1
2	イ	キャバレー、カフェー等					
	ロ	遊技場、ダンスホール				1	1
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等					
	ニ	個室型店舗等（カラオケボックス等）					
3	イ	待合、料理店等					
	ロ	飲食店	11	2	2	8	5
4		百貨店、物品販売店舗	13	14	13	6	12
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所			1	4	
	ロ	寄宿舎、下宿、共同住宅	21	15	25	17	23
6	イ	病院、診療所、助産所		6	5	3	3
	ロ	老人短期入所施設、障害児入所施設等	4	2	3	4	2
	ハ	老人デイサービスセンター、児童養護施設等	5	7	5	10	9
	ニ	幼稚園、特別支援学校					
7		学校、各種学校			2	1	
8		図書館、博物館、美術館					1
9	イ	蒸気浴場、熱気浴場等					
	ロ	イ以外の公衆浴場					
10		停車場等					
11		神社、寺院、教会等		1		2	3
12	イ	工場、作業所	12	19	11	17	18
	ロ	映画スタジオ、テレビスタジオ					
13	イ	自動車車庫、駐車場	4	3	1	1	2
	ロ	航空機の格納庫等					
14		倉庫	24	18	14	11	16
15		前各号に該当しない事業場	44	33	29	21	43
16	イ	複合用途（特定防火対象物）	3		3	10	8
	ロ	イ以外の複合用途（その他）	3	4	1	3	4
専 用 住 宅			45	62	94	118	86
計 画 変 更 ・ 許 可 申 請			35	30	51	55	50
合 計			228	224	263	295	287

<防火査察と防火指導>

建物や危険物施設などの使用開始後、その適正な状態が持続されているか、査察基準に基づき定期的に立入検査を行い、当該対象物の関係者が適正な維持・管理を行うように、また、違反状態にある場合には、是正するように防火指導します。

※ 査察基準とは、小山市火災予防査察規程第8条の基準をいう。

■ 防火査察状況

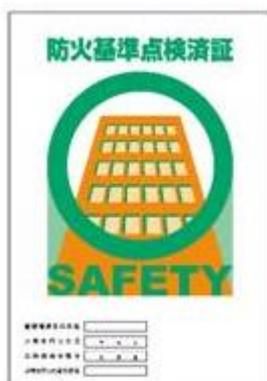
(防火対象物総数 4,439・危険物施設総数 613)

防火対象物用途等		査察計画数・査察実施数	令和4年度査察計画数	査察実施数
1	イ 劇場、映画館等		8	6
	ロ 公会堂、集会所		38	21
2	イ キャバレー、カフェ等		3	3
	ロ 遊技場、ダンスホール		13	4
	ハ 性風俗関連特殊営業店舗等			
	ニ 個室型店舗等(カラオケボックス等)		3	3
3	イ 待合、料理店等			
	ロ 飲食店		107	52
4	百貨店、物品販売店舗		149	129
5	イ 旅館、ホテル、宿泊所		32	34
	ロ 寄宿舍、下宿、共同住宅		102	18
6	イ 病院、診療所、助産所		78	52
	ロ 老人短期入所施設、障害児入所施設等		77	87
	ハ 老人デイサービスセンター、児童養護施設等		147	93
	ニ 幼稚園、特別支援学校		9	4
7	学校、各種学校		71	70
8	図書館、博物館、美術館		2	1
9	イ 蒸気浴場、熱気浴場等		5	5
	ロ イ以外の公衆浴場		2	3
10	停車場等		1	1
11	神社、寺院、教会等		9	
12	イ 工場、作業所		465	149
	ロ 映画スタジオ、テレビスタジオ			
13	イ 自動車車庫、駐車場		8	4
	ロ 航空機の格納庫等			
14	倉庫		107	88
15	前各号に該当しない事業場		226	131
16	イ 複合用途(特定防火対象物)		210	50
	ロ 複合用途(その他)		58	12
17	重要文化財等		2	2
危険物施設			270	290
合 計			2,202	1,312

<防火対象物点検報告>

防火対象物について、管理権原者が、防火対象物点検資格者に防火管理上必要な業務等について点検させ、その結果を消防長に報告するものです。該当する対象物は、飲食店や物品販売店舗等の用途部分が存する防火対象物で、下表のとおりです。

また、管理を開始して3年間以上消防法令を遵守していると認められた場合、点検報告の義務が3年間免除される特例認定制度があります。



防火基準点検済証



防火優良認定証

点検報告の結果基準に適合しているものは「防火基準点検済証」を、特例認定を受けたものは「防火優良認定証」を表示することができます。

■ 防火対象物点検報告状況

(令和4年度中)

防火対象物用途		該当数		該当対象物						
				第一号			第二号			
		総数	報告対象物数	認定対象物数	該当数	報告対象物数	認定対象物数	該当数	報告対象物数	認定対象物数
1	イ 劇場・映画館 等	4	2	2	4	2	2			
	ロ 公会堂又は集会場	36	17	10	36	17	10			
2	ロ 遊技場等	12	8	1	12	8	1			
	ニ 個室型店舗等	2	2		2	2				
3	ロ 飲食店	4	4		1	1		3	3	
4	百貨店・物品販売店舗 等	59	49	4	59	49	4			
5	イ 旅館・ホテル 等	1						1		
6	イ 病院・診療所・助産所	3	3		3	3				
	ロ 老人短期入所施設									
	ハ 老人デイサービスセンター	2	2		2	2				
9	ニ 幼稚園・特別支援学校	3	2		3	2				
	イ 蒸気浴場・熱気浴場 等	2	1		2	1				
16	イ 複合用途	45	32	3	37	27	3	8	5	
合計		173	122	20	161	114	20	12	8	

- 1 表中の「第一号」とは、収容人員が300人以上の防火対象物をいう。
- 2 表中の「第二号」とは、収容人員が30人以上300人未満で、防火対象物用途が地階又は3階以上の階に存するもので、その階から避難階又は地上に直通する階段が1つのものをいう（屋外階段等がある場合を除く）。

※収容人員の算定方法は、消防法施行規則第1条の3に定められおり、建物の用途によって算定方法が異なります。

＜防火対象物適合表示＞

宿泊施設からの申請に基づいて消防機関が審査した結果、消防法令のほか、重要な建築構造等に関する基準に適合していると認められた建物に対し「適マーク」を交付します。

制度の対象となるのは収容人員30人以上で、地階を除く階数が3階以上の宿泊施設です。

「適マーク」には金色と銀色の2種類があり、消防機関が審査した結果、表示基準に適合していると認められた場合は「適マーク（銀）」が交付され、3年間継続して表示基準に適合していると認められた場合は「適マーク（金）」が交付されます。



適マーク（銀）



適マーク（金）

＜違反対象物の公表制度＞

建物の利用者自らが、その危険性に関する情報を入手し、建物を利用する際の選択、判断ができるよう、消防機関が立ち入り検査で重大な消防法令違反を確認した場合、その違反内容等をホームページに公表する制度です。

公表の対象となる建物は、飲食店、物品販売店、ホテル等の不特定多数の方が出入りする建物や病院、福祉施設等の一人で避難することが困難な方が利用されている建物で、消防法令で義務付けられた消防設備のうち、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備及び自動火災報知設備が設置されていない建物で、消防機関が違反を確認し、建物の関係者に違反を通知してから14日が経過してもその違反が継続している建物です。

＜違反対象物の公示＞

消防機関が、立入検査により火災予防上の危険や消防法令違反を把握し、改修等の命令を発した場合には、消防法に基づきその旨を公示します。

公示の方法は、建物等の所在地、名称等を市役所前掲示場並びに消防本部及び防火対象物が存する区域を管轄する消防署、分署または分遣所の掲示場への掲示、ホームページへの掲載です。

<危険物の許可>

危険物火災は、発生危険や延焼の拡大危険が大きく、さらに消火が困難であることから、一定の数量（指定数量）以上を貯蔵し、取り扱う時は、消防法令に基づいた施設の位置、構造、設備について小山市長の許可が必要となります。さらに危険物を取り扱う者は、都道府県知事の交付する免状が必要となります。

※危険物とは消防法別表第1に掲げる品名で、同表に定める区分に応じ同表の性質欄に掲げる性状を有するものをいう。

※指定数量とはその危険性を勘案して危険物の規制に関する政令別表第3で定める数量をいう。

■ 危険物施設規模別施設数及び許可状況

(令和5年4月1日現在)

施設規模及び 許可件数		施設規模								令和4年度 許可件数		
		総 数	5 倍 以 下	5 倍 を 超 え 10 倍 以 下	10 倍 を 超 え 50 倍 以 下	50 倍 を 超 え 100 倍 以 下	100 倍 を 超 え 150 倍 以 下	150 倍 を 超 え 200 倍 以 下	200 倍 を 超 え 1000 倍 以 下	1000 倍 を 超 え 5000 倍 以 下	設 置 許 可	変 更 許 可
製造所		5	2	3								
貯蔵所	屋内貯蔵所	133	62	37	25	7	1	1			4	1
	屋外タンク貯蔵所	69	17	17	31	3	1				3	2
	屋内タンク貯蔵所	9	6	2	1							
	地下タンク貯蔵所	98	44	26	16	8	1		3			
	簡易タンク貯蔵所	1	1									
	移動タンク貯蔵所	37	32		2	3						1
	屋外貯蔵所	23	8	13	2							
小計		370	170	95	77	21	3	1	3		7	4
取扱所	給油取扱所	83	9	6	26	7	4	4	27			18
	第一種販売取扱所	1		1								
	第二種販売取扱所											
	一般取扱所	154	87	28	36	1	1		1		1	56
	移送取扱所											
小計		238	96	35	62	8	5	4	28		1	74
合計		613	268	133	139	29	8	5	31		8	78

■ 危険物類別施設数

(令和5年4月1日現在)

危険物施設		類別等		1	2	3	4	5	6	混在	合計
製造所							5				5
貯蔵所	屋内貯蔵所				1		124		1	7	133
	屋外タンク貯蔵所						69				69
	屋内タンク貯蔵所						9				9
	地下タンク貯蔵所						98				98
	簡易タンク貯蔵所						1				1
	移動タンク貯蔵所						37				37
	屋外貯蔵所						23				23
	小計						361		1	7	370
取扱所	給油取扱所	営業					37				37
		自家用					46				46
	第1種販売取扱所						1				1
	第2種販売取扱所										
	一般取扱所						151			3	154
	移送取扱所										
	小計						235			3	238
合計							601		1	10	613

■ 危険物施設数年度別比較

年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
施設数	613	624	620	634	641

■ 危険物関係届出状況

届出	年度				
	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
譲渡引渡届出書	1	4	11	4	5
品名、数量又は指定数量の倍数変更届出書	12	18	9	13	14
廃止届出書	18	9	22	16	21
保安監督者選任・解任届出書	53	51	51	49	61
資料提出書	153	176	223	203	187
火気使用工事届出書	0	1	71	89	80

<各種届出の受理と指導>

火気を使用する設備又は使用に際し火災の発生のおそれのある設備を設置し、並びに火災時の消火活動に重大な支障となる物質を貯蔵する場合等は、消防法、火災予防条例に基づき届出が必要となります。

これらの届出書に基づき、火災の予防及び災害並びに火災の発生時における被害の軽減を図るため、届出の内容を審査し、現地検査等を実施して防火の指導をしています。

また、消防用設備等（消火、警報、避難のための設備や器具など）を設置した場合も、届出に基づき法令上適切に設置されているか検査を行います。

■ 各種届出状況

件 名	年 度				
	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
防火対象物使用開始届出書	162	134	143	150	165
炉・厨房設備・ボイラー設置届出書	12	8	12	9	9
温風暖房機設置届出書	1	2	2		3
給湯湯沸設備設置届出書	4	4	10	5	8
乾燥設備設置届出書	8	5	6	7	8
サウナ設備設置届出書	1			3	
ヒートポンプ冷暖房機設置届出書		2			1
火花を生ずる設備設置届出書					
放電加工機設置届出書		2			
急速充電・燃料電池・発電・変電・蓄電池設置届出書	92	55	70	56	69
ネオン管灯設備設置届出書					
水素ガスを充てんする気球の設置届出書					
火災とまぎらわしい煙又は火災を発生するおそれのある行為の届出書	137	124	103	107	106
煙火の打上げ・仕掛け届出書	36	38	26	110	129
催物開催届出書	2			2	2
水道の断減水届出書		1	4	7	2
道路工事届出書	318	298	287	257	323
露店等の開設届出書	91	57	14	178	153
指定洞道等届出書					
少量危険物貯蔵取扱届出書	42	62	49	39	36
指定可燃物貯蔵取扱届出書	25	9	7	22	18
圧縮アセチレンガス等の貯蔵又は取扱いの開始(廃止)届出書	137	52	158	114	43
消防設備業届出書	9	7	18	19	13
禁止行為の解除承認申請出書	9	16	7	19	15
消防計画の作成(変更)届出書	416	386	316	360	388
防災管理に係る消防計画の作成(変更)届出書		1		7	6
防火管理者の選任届出書	368	350	290	336	382
防火管理者の解任届出書	314	299	228	293	318
防災管理者の選任届出書	4	7	2	5	6
防災管理者の解任届出書	3	7		5	6
防火対象物全体の防火管理に係る消防計画の作成(変更)届出書	4	2	4	1	6
防災対象物全体の防災管理に係る消防計画の作成(変更)届出書	2				
統括防火管理者の選任届出書	6	4	5	2	8
統括防火管理者の解任届出書	5		5	1	5
統括防災管理者の選任届出書					1
統括防災管理者の解任届出書					1
自衛消防組織の設置届出書	4		6		
自衛消防組織の変更届出書	6	9	14	8	7
消防用設備等(特殊消防用設備等)の点検報告	1,866	1,757	1,668	1,641	1,518
火災予防上必要な業務に関する計画届出書				1	1
計	4,084	3,698	3,454	3,764	3,756

■ 消防用設備等届出状況

設 備 名		年 度				
		令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
設 置 届 出	消 火 器 具	61	77	99	82	139
	屋 内 消 火 栓 設 備	17	13	19	20	10
	ス プ リ ン ク ラ ー 設 備	10	16	21	18	12
	泡 消 火 設 備	2				1
	不 活 性 ガ ス 消 火 設 備			3	1	1
	ハ ロ ゲ ン 化 物 消 火 設 備	1	1			
	粉 末 消 火 設 備	7	1	4	3	3
	屋 外 消 火 栓 設 備	9	12	12	7	7
	動 力 消 防 ポ ン プ 設 備	1				1
	自 動 火 災 報 知 設 備	115	146	174	164	185
	ガ ス 漏 れ 火 災 警 報 設 備					
	漏 電 火 災 警 報 器			1		
	消 防 機 関 へ 通 報 す る 火 災 報 知 設 備	11	8	16	11	15
	非 常 警 報 器 具 ・ 非 常 警 報 設 備	25	37	39	29	44
	避 難 器 具	10	8	18	16	16
	誘 導 灯 ・ 誘 導 標 識	85	97	97	84	91
	消 防 用 水	3	3		1	
	排 煙 設 備	1	1	3	3	1
	連 結 送 水 管	3	3	4	1	1
	非 常 コ ン セ ン ト 設 備	1		2		
消防法施行令第29条の4 ※注	3	7	12	13	21	
小 計	365	430	524	453	548	
着 工 届 出	屋 内 消 火 栓 設 備	13	13	11	10	9
	ス プ リ ン ク ラ ー 設 備	12	20	17	15	8
	泡 消 火 設 備	2				
	不 活 性 ガ ス 消 火 設 備			4	1	1
	ハ ロ ゲ ン 化 物 消 火 設 備	2	1			
	粉 末 消 火 設 備	8		4	3	4
	屋 外 消 火 栓 設 備	10	10	8	6	2
	自 動 火 災 報 知 設 備	112	95	111	102	107
	ガ ス 漏 れ 火 災 警 報 設 備					
	消 防 機 関 へ 通 報 す る 火 災 報 知 設 備	14	6	17	14	11
避 難 器 具	16	9	13	18	14	
消防法施行令第29条の4 ※注	3	1	5	8	4	
小 計	192	155	190	177	160	
合 計	557	585	714	630	708	

※注 消防法施行令第29条の4とは

パッケージ型消火設備、パッケージ型自動消火設備、共同住宅用スプリンクラー設備、共同住宅用自動火災報知設備、住戸用自動火災報知設備、共同住宅用非常警報設備、共同住宅用連結送水管、共同住宅用非常コンセント設備、特定小規模施設用自動火災報知設備、加圧防排煙設備、複合型居住施設用自動火災報知設備、特定駐車場用泡消火設備

<各種団体の育成>

災害や事故などを未然に防止することや、有事の際における対策というものは、消防機関だけでは到底できることではありません。そこで、危険物を取り扱う事業所を対象に「危険物保安協会」、防火管理者の選任事業所を対象に「防火管理協会」、家庭内で火の取り扱うことが多い女性の方を対象にした「女性防火クラブ」、さらに、幼い頃から火災予防について関心を持ってもらうため「幼年消防クラブ」、「少年消防クラブ」など、各種防火協力団体を育成しています。

◇ 小山地区危険物保安協会 ◇

(令和5年4月1日現在)

設 立 年 月 日	会 長 名	会 員 数
昭和34年5月11日	塚 原 義 太 郎	207事業所

◇ 小山市防火管理協会 ◇

(令和5年4月1日現在)

設 立 年 月 日	会 長 名	会 員 数
昭和47年5月10日	鈴 木 隆 作	267事業所

◇ 小山市女性防火クラブ連合会 ◇

(令和5年4月1日現在)

設 立 年 月 日	会 長 名	会 員 数
昭和59年12月5日	椎 名 起 世 子	27 クラブ (1,213名)

◇ 小山市幼年消防クラブ連合会 ◇

(令和5年4月1日現在)

設 立 年 月 日	会 長 名	会 員 数
平成20年7月7日	富 川 将	42クラブ (4,783名)

◇ 小山市少年消防クラブ運営委員会 ◇

(令和5年4月1日現在)

設 立 年 月 日	運 営 委 員 長 名	会 員 数
平成23年7月7日	間 中 功	25クラブ (321名)

＜火災予防相談＞

消防本部、消防署（各分署・分遣所）では、住民の皆さんからの火災予防に関する「心配ごと」、「悩みごと」、「火気使用設備、器具の取り扱いの注意点」など、火災予防に関するお問合せに常時対応しています。

＜火災予防広報＞

消防本部、消防署（各分署・分遣所）では、春（3月1日から3月7日）、秋（11月9日から11月15日）の火災予防運動及び年末年始（12月25日から1月7日）の火災特別警戒を実施して、住民の皆さんに火災予防を呼びかけています。

これらの期間中は、消防本部車両による巡回広報、防火パンフレット等の配布、一般住宅防火診断、行政テレビ、おーラジ出演及び特別立入検査などを実施しています。

この他にも、消防団車両での巡回広報、幼年消防クラブ員による防火はっぴ登園、防火管理協会の小山広域廃棄物処理協同組合のごみ収集車に火災予防横断幕を掲載するなど、様々な啓発を実施しています。

＜住宅用火災警報器の設置・点検＞

住宅用火災警報器は火災の煙を感知して警報音などを発する警報器です。就寝中などに発生した火災をいち早く知らせることにより、逃げ遅れによる死傷者を減らすことができます。住宅用火災警報器は小山市火災予防条例で設置が義務化されています。

すでに設置してある警報器でも、電池切れや電子部品の寿命で火災を感知しなくなるなど、適切に作動しない場合がありますので、定期的に作動確認を行うとともに、設置から10年以上経過している場合は本体内部の電子部品の劣化が考えられるため本体の交換をしてください。

この他にも、女性防火クラブ連合会による啓発品の配布、防火管理協会や危険物保安協会員の物品販売店やガソリンスタンドなどで発行するレシートへの啓發文印字、自動販売機への啓発シートの貼付、ヤクルトレディーのバックに啓発シールを貼付して巡回など、様々な啓発を実施しています。

住宅火災から命を守るため、設置されていない方は設置を、すでに設置してある方は定期的な作動確認及び適切な取替えをしましょう。

火災編

火 災 編



◇火災の現況◇

■ 火災種別件数

(令和4年中)

種別 \ 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年
建物	3		5		1	2		1	2	3	1	5	23	23	24	25
林野				1									1			
車両	1	1	2		1		2	1		1			9	12	5	10
船舶							1						1			
航空機																
その他						1	3	1		2		1	8	4	6	16
計	4	1	7	1	2	3	6	3	2	6	1	6	42	39	35	51
出火率	(人口1万人あたりの出火件数)												2.2	2.0	1.8	2.6

- 1 種別「建物」とは、建物又はその収容物が焼損した火災をいう。
- 2 種別「林野」とは、森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。
- 3 種別「車両」とは、自動車車両、鉄道車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災をいう。
- 4 種別「船舶」とは、船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。
- 5 種別「航空機」とは、航空機又はその積載物が焼損した火災をいう。
- 6 種別「その他」とは、上記以外の火災（空地、田畑、道路、河川敷、ごみ集積場、屋外物品集積所、軌道敷、電柱類等の火災）をいう。

■ 火災の覚知方法別件数

(令和4年中)

種別 \ 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年
火災報知専用電話	3	1	5		2	2	4	2	1	3		5	28	21	27	44
加入電話														8	4	1
警察電話	1		1	1			1		1		1		6	1		2
駆けつけ通報																1
事後聞知			1			1	1	1		3		1	8	9	3	3
その他															1	
計	4	1	7	1	2	3	6	3	2	6	1	6	42	39	35	51

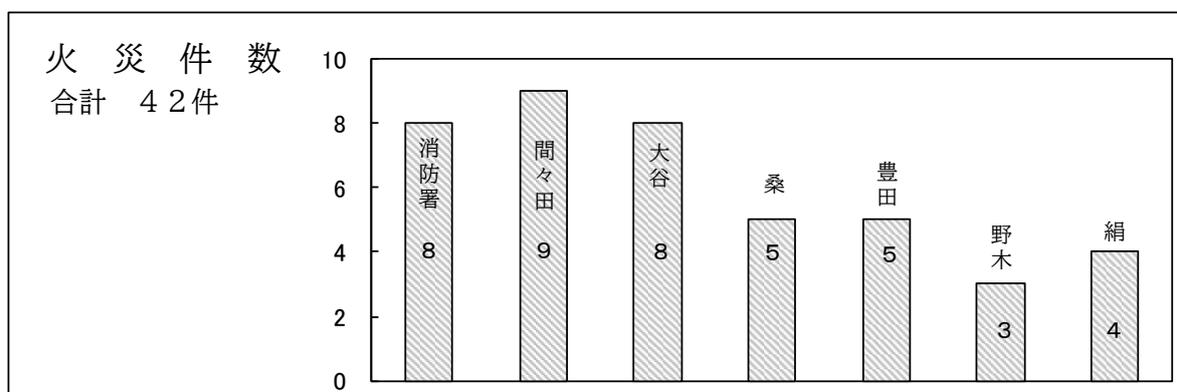
■ 火災による損害額及び死傷者数の状況

(令和4年中)

種 別		月												合計	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
出火件数		4	1	7	1	2	3	6	3	2	6	1	6	42	
損害額(千円)		10,225	60	20,576		21,804	15,041	2,028	190	4,738	224	4	4,550	79,440	
火災種別件数及び損害額	建物	件数	3		5		1	2		1	2	3	1	5	23
		損害額	10,152		20,533		21,797	15,041		20	4,738	150	4	4,550	76,985
	林野	件数				1									1
		損害額													
	車両	件数	1	1	2		1		2	1		1			9
		損害額	73	60	43		7		1,968	170		67			2,388
	船舶	件数							1						1
		損害額							60						60
	その他	件数						1	3	1		2		1	8
		損害額										7			7
焼損棟数	全焼	3		6			3			1			1	14	
	半焼			1			1							2	
	部分焼	1		1		1							2	5	
	ぼや	1		3					1	4	3	1	2	15	
建物焼損面積(m ²)		224		476			278			84			139	1,201	
建物焼損表面積(m ²)		63		2		125								190	
林野焼損面積(a)															
り災世帯		1		3			2			3	2	1	6	18	
り災人員		1		7			5			7	2	1	15	38	
死者			1											1	
負傷者		1						2	1		2		1	7	

■ 管轄別火災の状況、損害額及び死傷者数の状況

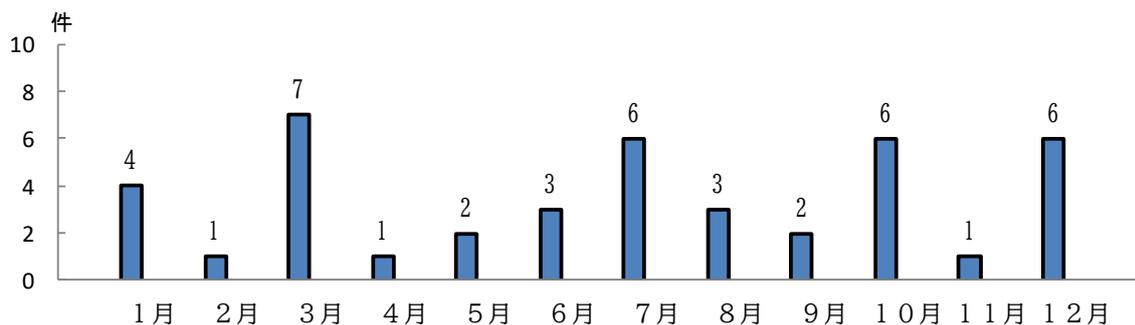
(令和4年中)



区分	管轄別	合計	消防署						
			間々田	大谷	桑	豊田	野木	絹	
火災件数		42	8	9	8	5	5	3	4
損害額 (千円)		79,440	1,624	51,612	8,476	266	265	4,818	12,379
火災種別件数	建物	23	6	7	4	2		2	2
	林野	1						1	
	車両	9	1	1	3		4		
	その他	8	1	1	1	2	1		2
焼損棟数	全焼	14		7	2	2		1	4
	半焼	2			1	1			
	部分焼	5	2	2				1	
	ぼや	15	4	4	3	1		3	
建物焼損面積 (㎡)		1,201	13	695	45	14		84	350
建物焼損表面積 (㎡)		190		127				63	
林野焼損面積 (a)									
り災世帯		18	4	5	3	1		3	2
り災人員		38	4	7	16	1		7	3
死者		1					1		
負傷者		7	1	1	1	2	1		1

■ 月別火災発生件数の推移

(令和4年中)



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和4年	4	1	7	1	2	3	6	3	2	6	1	6
令和3年	7	7	1	4	1	3	2	2	1	3	4	4
令和2年	7	5	4	4	4			4		3	2	2

■ 曜日別火災発生件数

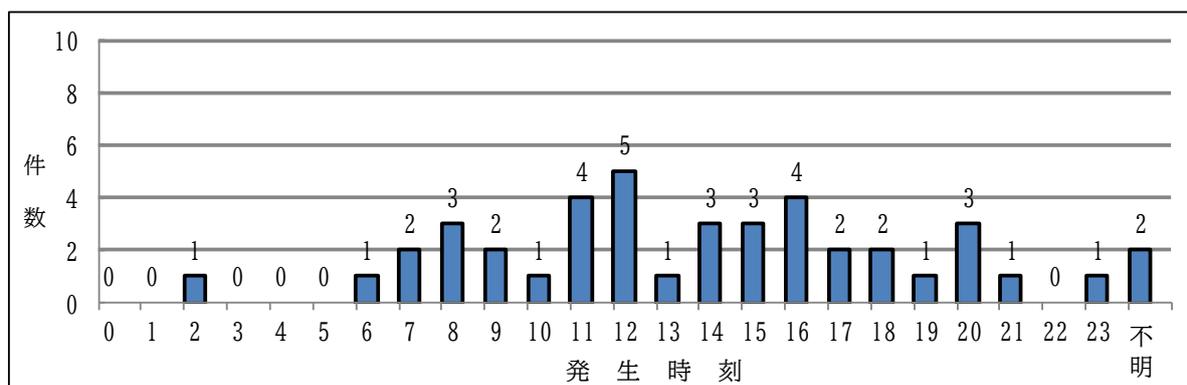
(令和4年中)

曜日	日	月	火	水	木	金	土	計
出火件数	10	4	5	4	4	3	10	40
火災種別	建物	4	2	4	3	2	4	21
	林野						1	1
	車両	3	1		1		3	9
	船舶	1						1
	その他	2	1	1		2	2	8

※出火日不明の建物火災2件を除く

■ 時刻別火災発生件数

(令和4年中)



出火時刻	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	不明	
令和4年			1				1	2	3	2	1	4	5	1	3	3	4	2	2	1	3	1		1	2	
令和3年	1	1	2	2		2	1	2	1	1	2	1	3	4	1	3	2	2	1	1			2		1	3
令和2年	1		1			2		4	1	3	2	3	1	2	1	2	3	2	1	1	3	1		1		

出火時刻の時間帯については、例えば出火時刻「0」は、出火時刻が0時0分～0時59分の間であることを表す。

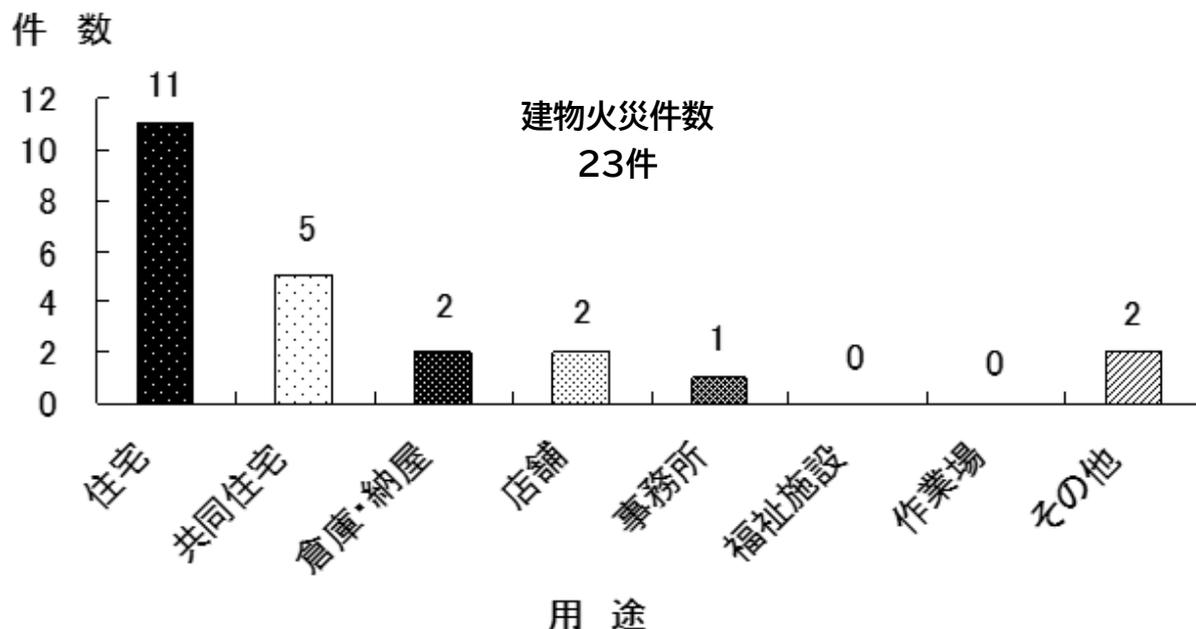
■ 出火原因別出火件数

(令和4年中)

原因	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
たばこ			1										1
こんろ									1	1	1	1	4
かまど													
風呂かまど	1												1
炉													
焼却炉													
ストーブ												2	2
こたつ													
ボイラー													
煙突・煙道												1	1
排気管							1						1
電気機器	1												1
電気装置							1	1					2
電灯・電話等の配線							1						1
内燃機関													
配線器具													
火遊び												1	1
マッチ・ライター													
たき火							1	1		1		1	4
溶接機・切断機									1				1
灯													
衝突の火花													
取灰			1				1						2
火入れ	1					1				1			3
放火		1				1		1					3
放火の疑い			1							3			4
その他(火のついたゴミ、落雷など)	1		2	1	2	1	1						8
不明			2										2
合計	4	1	7	1	2	3	6	3	2	6	1	6	42

■ 用途別建物火災件数

(令和4年中)



■ 住宅、共同住宅火災の発火源及び経過状況

(令和4年中)

発火源及び原因		経過	
放火の疑い	3	放火の疑い	3
こんろ	2	放置する、忘れる	1
		考え違いにより使用を誤る	1
ストーブ	2	輻射を受けて発火する	1
		可燃物が火源の上に転倒落下する	1
風呂かまど	1	火の粉が散る遠くへ飛び火する	1
取灰	1	火の粉が散る遠くへ飛び火する	1
たばこ	1	火源が転倒落下する	1
火入れ	1	残り火の処置が不十分	1
電気装置	1	スパークする	1
火遊び	1	火遊び	1
煙突・煙道	1	伝導過熱する	1
不明	1	不明	1
その他	1	可燃物が動いて火源に触れる	1
合計	16	合計	16

■ 火災種別ごとの死傷者状況の推移

(単位：人)

区分 年	建 物		車 両		船 舶		そ の 他		計	
	死 者	負傷者	死 者	負傷者	死 者	負傷者	死 者	負傷者	死 者	負傷者
令和 4 年		3	1	1		2		1	1	7
令和 3 年	2	5					1		3	5
令和 2 年		6						1		7
令和 元 年	2	5	1	1				1	3	7
平成 30 年	1	2							1	2

■ 火災種別ごとの損害額状況の推移

(単位：千円)

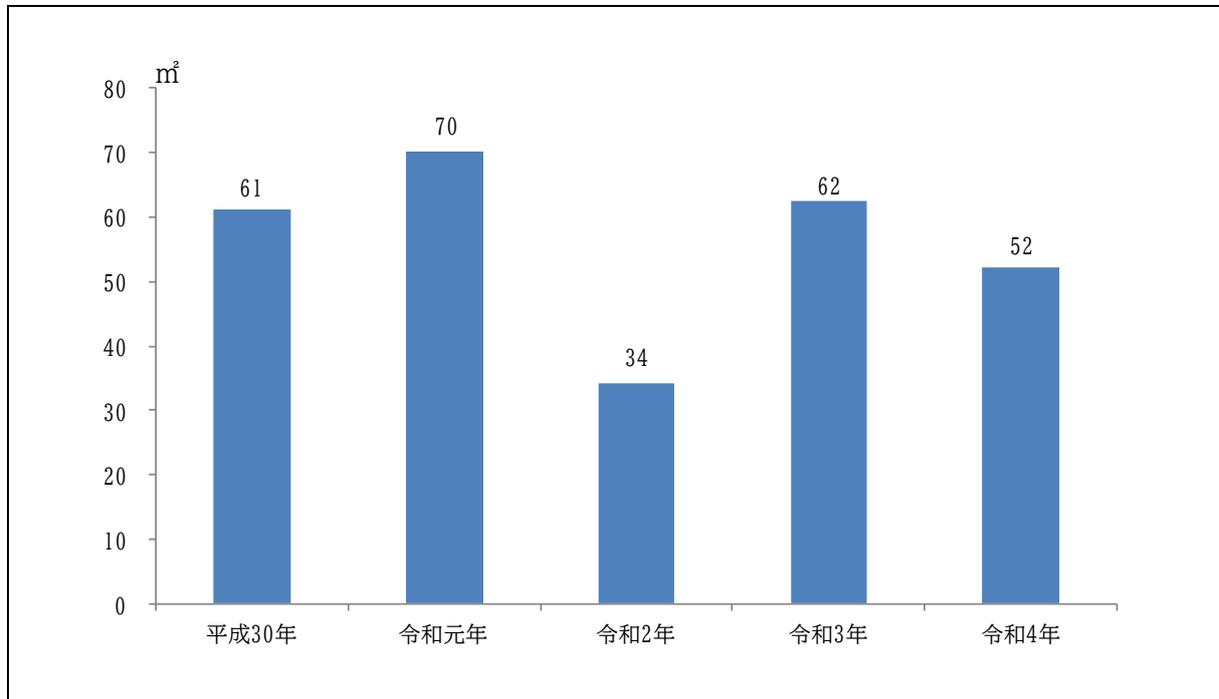
区分 年	建 物	車 両	船 舶	そ の 他	計
令和 4 年	76,985	2,388	60	7	79,440
令和 3 年	81,776	4,187		42	86,005
令和 2 年	83,003	6,023		8,970	97,996
令和 元 年	143,175	8,680		941	152,796
平成 30 年	209,094	8,121		93	217,308

■ 建物火災による焼損状況の推移

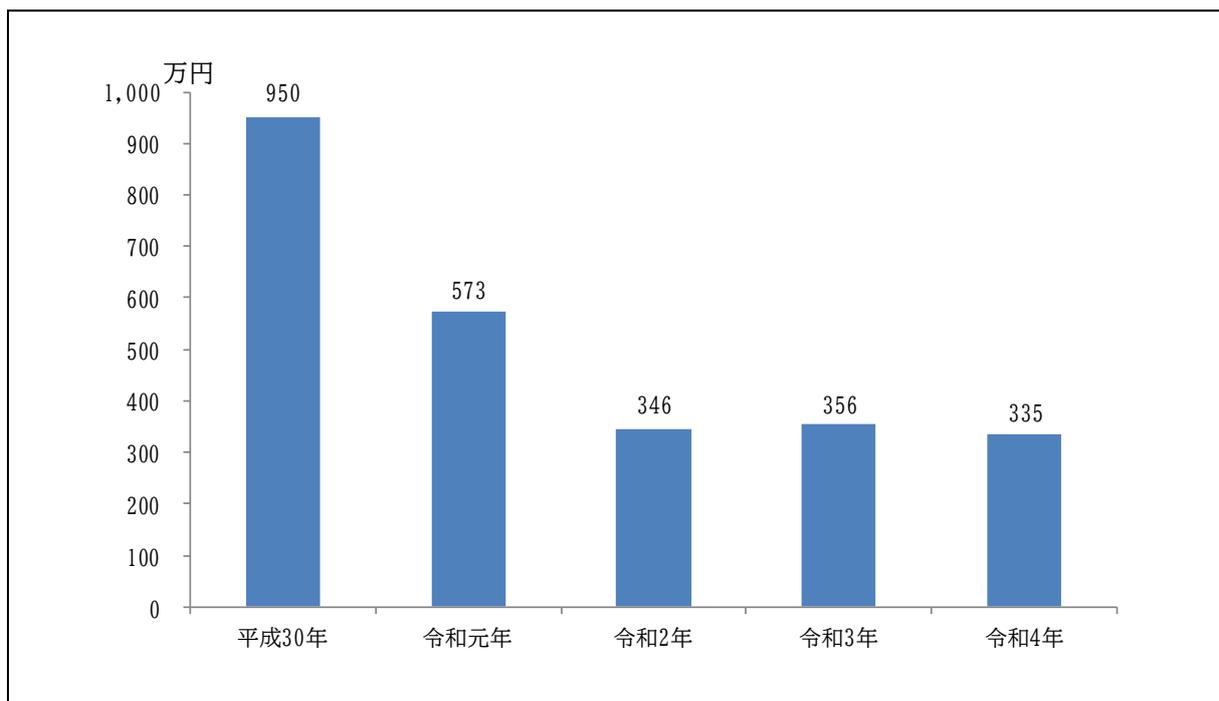
区分 年	焼 損 棟 数	り 災 世 帯 数			り 災 人 員	焼 損 面 積 m ²	焼 損 表 面 積 m ²
		全 損	半 損	小 損			
令和 4 年	36	3	1	14	38	1,201	190
令和 3 年	38	9	1	11	45	1,437	14
令和 2 年	38	5	1	15	58	832	151
令和 元 年	42	8		12	46	1,752	273
平成 30 年	33	5	1	12	46	1,344	75

■ 建物火災1件当たりの損害状況の推移

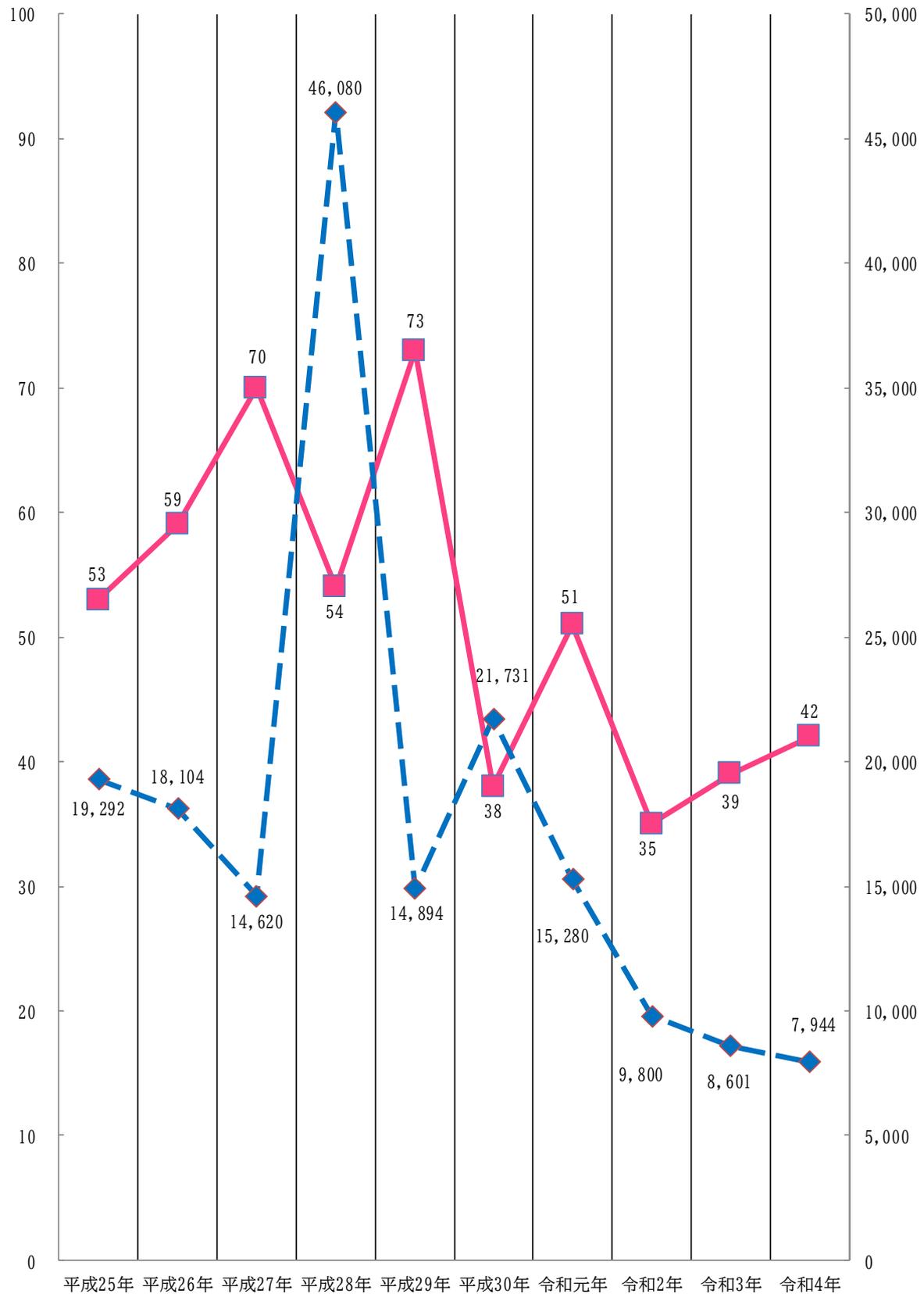
1 焼損面積



2 損害額



■ 過去10年間の火災件数及び損害額の推移 — 火災件数 — — 損害額(万円)
 ※千円単位四捨五入



警防編

警 防 編



■ 本部・署別車両配置状況

(令和5年4月1日現在)

所属	車両種別	消防ポンプ自動車	水槽付消防ポンプ自動車	はしご付消防ポンプ自動車	化学消防ポンプ自動車	救助工作車	小型動力ポンプ付水槽車	資機材搬送車	高規格救急車	非常用高規格救急車	消防活動二輪車	指揮車	指令車	広報車	査察車	総務公用車	排水ポンプ車	計
		消防本部												1		1	2	1
消防署	消防署	1	2	1		1	1	2	2	1	2	1		1			2	17
	大谷分署		1		1				1					1				4
	間々田分署		1		1				1					1				4
	野木分署	1	1						1					1				4
	豊田分署	1	1						1					1				4
	桑分署	1	1						1					1				4
	絹分遣所		1						1					1				3
	計	4	8	1	2	1	1	2	8	1	2	1	1	8	2	1	2	45

■ 消火薬剤備蓄状況

(令和5年4月1日現在)

所属	薬剤名	消火薬剤					(単位=ℓ)
		三愛スーパーフォーム	ニッタンジェットフォーム	フォスチェック	ミラクルフォームα	マルチA	合計
消防署		1,640		590		220	2,450
大谷分署		960					960
間々田分署		1,480		190			1,670
野木分署			920		200		1,120
豊田分署			580				580
桑分署			560				560
絹分遣所		80			100		180
	計	4,160	2,060	780	300	220	7,520

■ 消防水利の状況

(令和5年4月1日現在)

区分	管轄	消防署	大谷	間々田	豊田	桑	絹	小山市	野木町	消防本部計
		消火栓	単式	629	507	506	111	434	22	2,209
	複式	50	10	27		17		104	10	114
	計	679	517	533	111	451	22	2,313	627	2,940
防火水槽	40m ³ 未満	38	48	98	83	36	36	339	171	510
	40m ³ 以上	80	91	75	43	47	29	365	53	418
	(うち耐震性)	45	74	55	34	28	17	253	39	292
	計	118	139	173	126	83	65	704	224	928
	(うち耐震性)	45	74	55	34	31	17	256	39	295
指定 消防水利	防火水槽	6	13	9	12	13	3	56	11	67
	(うち耐震性)	6	13	9	12	13	3	56	11	67
	消火栓					1		1		1
	プール	9	6	9	6	2	2	34	7	41
	計	15	19	18	18	16	5	91	18	109
防火井戸	計			22	19			41		41
計		812	675	746	274	550	92	3,149	869	4,018

■ 消防車両一覧表

(令和5年4月1日現在)

所属	車 両 種 別	車 両 メ ー カ ー	装 備	型 式	登 録 年 月
消防本部	指 令 車	日 産			H10年 8月
	総 務 公 用 車	日 産			H11年 9月
	査 察 車 (予 防)	三 菱			H27年 12月
	査 察 車 (保 安)	トヨタ			H15年 11月
	防 災 広 報 車 (1 号 車)	日 産			H26年 2月
消防署	指 揮 車	トヨタ	電話・FAX		H18年 2月
	広 報 車	日 産			H12年 10月
	水 槽 付 消 防 ポ ン プ 自 動 車	日 野	積載水2,000ℓ・CAFS装置	Ⅱ型	R5年 2月
	水 槽 付 消 防 ポ ン プ 自 動 車	いすゞ	積載水2,000ℓ・高圧噴霧装置	Ⅱ型	H16年 1月
	小 型 動 力 ポ ン プ 付 水 槽 車	日 野	積載水10,000ℓ		R4年 2月
	は し ご 付 消 防 ポ ン プ 自 動 車	日 野	40m級四輪操舵	40m級	H7年 10月
	消 防 ポ ン プ 自 動 車	三 菱		CD-I型	H10年 12月
	救 助 工 作 車	いすゞ	救助資機材一式	Ⅲ型	H16年 3月
	高 規 格 救 急 車	トヨタ	高度救急資機材一式	高規格	R2年 10月
	高 規 格 救 急 車	トヨタ	高度救急資機材一式	高規格	H26年 11月
	非 常 用 高 規 格 救 急 車	トヨタ	高度救急資機材一式	高規格	H21年 11月
	資 機 材 搬 送 車	日 産	クレーン装置付		H13年 1月
	資 機 材 搬 送 車	日 野	テールゲートリフター付		R2年 12月
	消 防 活 動 二 輪 車	ヤマハ	噴霧消火装置		H25年 9月
	消 防 活 動 二 輪 車	ヤマハ	救急資機材一式・油圧カッター		H25年 9月
	排 水 ポ ン プ 車	日 野	排水装置(水中モーターポンプ4台)	30m ³ /min級	R2年 6月
排 水 ポ ン プ 車	日 野	排水装置(水中モーターポンプ4台)	30m ³ /min級	R2年 6月	
大谷分署	水 槽 付 消 防 ポ ン プ 自 動 車	いすゞ	積載水2,000ℓ・ウインチ装置	Ⅱ型	H15年 1月
	化 学 消 防 ポ ン プ 自 動 車	日 野	積載水1,500ℓ・薬剤300ℓ	I型	H24年 2月
	高 規 格 救 急 車	トヨタ	高度救急資機材一式	高規格	R1年 10月
	広 報 車	スズキ			H10年 8月
間々田分署	水 槽 付 消 防 ポ ン プ 自 動 車	日 野	積載水2,000ℓ・インパルス銃	Ⅱ型	H13年 12月
	化 学 消 防 ポ ン プ 自 動 車	日 野	積載水1,500ℓ・薬剤300ℓ	I型	H20年 2月
	高 規 格 救 急 車	トヨタ	高度救急資機材一式	高規格	H27年 10月
	広 報 車	スバル			H6年 9月
野木分署	水 槽 付 消 防 ポ ン プ 自 動 車	日 野	積載水2,000ℓ・CAFS装置	Ⅱ型	H28年 2月
	消 防 ポ ン プ 自 動 車	いすゞ	積載水900ℓ	CD-I型	H14年 12月
	高 規 格 救 急 車	トヨタ	高度救急資機材一式	高規格	H26年 11月
	広 報 車	ホンダ			H25年 11月
豊田分署	水 槽 付 消 防 ポ ン プ 自 動 車	いすゞ	積載水2,000ℓ・高圧噴霧装置	Ⅱ型	H17年 3月
	消 防 ポ ン プ 自 動 車	三 菱	積載水900ℓ	CD-I型	H12年 12月
	高 規 格 救 急 車	トヨタ	高度救急資機材一式	高規格	H30年 9月
	広 報 車	スバル			H6年 9月
桑分署	水 槽 付 消 防 ポ ン プ 自 動 車	日 野	積載水2,000ℓ・高圧噴霧装置	Ⅱ型	H19年 1月
	消 防 ポ ン プ 自 動 車	三 菱	積載水900ℓ	CD-I型	H11年 8月
	高 規 格 救 急 車	トヨタ	高度救急資機材一式	高規格	H25年 9月
	広 報 車	日産			H30年 11月
絹分遣所	水 槽 付 消 防 ポ ン プ 自 動 車	日 野	積載水2,000ℓ・CAFS装置	Ⅱ型	H28年 2月
	高 規 格 救 急 車	トヨタ	高度救急資機材一式	高規格	H28年 2月
	広 報 車	トヨタ			H7年 7月

■ 消防用器具の保有状況

● 放水器具

(令和5年4月1日現在)

資機材名	管理所属	消防署	分 署					絹分遣所	計
			大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
消 防 用 ホ ー ス (φ 6 5 m m)		200	60	60	60	60	60	30	530
消 防 用 ホ ー ス (φ 5 0 m m)		170	35	35	35	35	35	20	365
放 水 銃		5	1	1					7
無 反 動 管 そ う (5 0 ・ 6 5 m m)		20	10	11	10	10	10	2	73
特 殊 ノ ズ ル		17	6	3	6	3	3	5	43
ピ ッ ク ア ッ プ ノ ズ ル		2	2	2	2	1	1		10
東 消 式 簡 易 発 泡 器		2	1	1	1	1	1		7
ラ イ ン プ ロ ポ ー シ ョ ナ ー		1	2	2	1	1	1	1	9
水 の う 付 手 動 ポ ン プ		5	6	2	4	5	4	4	30
水 の う 付 手 動 ポ ン プ 給 水 器		2	1	2	1	1	1	1	9
二 又 分 岐		11	4	4	4	4	4	2	33
イ ン パ ル ス 発 射 銃		1	1	1	1				4
高 圧 噴 霧 消 火 装 置		1	1	1		1	1		5
泡 プ ロ パ ッ ク		1	1	1					3

● 救助器具

(令和5年4月1日現在)

資機材名	管理所属	消防署	分 署					絹分遣所	計
			大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
か ぎ 付 き は し ご		3	2	2	1	1	1	1	11
二 連 は し ご		1			1	1	1		4
三 連 は し ご		5	2	2	1	1	1	1	13
金 属 ワ イ ヤ ー は し ご		1							1
緩 降 機		2							2
ロ ー プ 登 降 器		8							8
救 命 索 発 射 銃		1							1
救 助 用 縛 帯		9	1	1	1	1	1	1	15
墜 落 制 止 用 器 具		15	2	2	2	2	2	2	27
救 助 用 担 架 (船 型 ・ 平 型)		5	1	1					7
サ バ イ バ ー ス リ ン グ		3							3
フ ァ イ バ ー ス コ ー プ		2							2
熱 画 像 直 視 装 置		2						1	3
画 像 探 索 機 I 型		1							1
画 像 探 索 機 II 型		1							1
地 中 音 響 探 知 機		1							1
救 助 用 工 具 セ ッ ト		4	1	2	1	1	1	1	11
空 気 式 救 助 マ ッ ト		2							2

● 重量物排除器具

(令和5年4月1日現在)

資機材名	管理所属	消防署	分 署					絹分遣所	計
			大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
チェーンブロック		2							2
救助用支柱器具		1							1
マンホール救助器具		1							1
救助用三脚		1							1
油圧ジャッキ		4							4
油圧スプレッダー		2							2
可搬式ウインチ		5			1				6
ワイヤー(ベルト含)		41	7	2	3	5	3		61
マット型空気ジャッキ		2							2
油圧コンビツール		2	1	1	1	1	1	1	8
電動スプレッター		1							1
電動ジャッキ		1							1

● 切断器具

(令和5年4月1日現在)

資機材名	管理所属	消防署	分 署					絹分遣所	計
			大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
大型油圧切断機		2							2
油圧切断機		1							1
エンジンカッター		4	1	2	1	1	1	1	11
ガス溶断器		1							1
エッジチェーンソー		2							2
チェーンソー		4	1	2	1	1	1	1	11
鉄線カッター		7	2	8	2	1	1	1	22
空気鋸		2		1					3
ガラスカッター(消防用)		2	2	2	1	1	1	1	10
シートベルトカッター(消防用)		4							4
電動切断機		4							4

● 破壊器具

(令和5年4月1日現在)

資機材名	管理所属 消防署	分 署					絹分遣所	計
		大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
万 能 斧 (消 防 用)	14	5	5	2	4	5	2	37
大 ハ ン マ ー	3	2	1	1	1	1	1	10
削 岩 機	1							1
ハ ン マ ー ド リ ル	1							1
携 帯 用 コ ン ク リ ー ト 破 壊 器 具	1							1
充 電 式 ハ ン マ ー ド リ ル ー 式 (TE6-A36)	1							1
充 電 式 レ シ プ ロ ソ ー ー 式 (WSR 36-A)	1							1

● 検知・測定器具

(令和5年4月1日現在)

資機材名	管理所属 消防署	分 署					絹分遣所	計
		大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
複 合 型 ガ ス 測 定 器	4	1	1	1	1	1	1	10
有 毒 ガ ス 検 知 管	1	1	1	1	1	1	1	7
表 面 温 度 計	2	1	1	1	1	1		7
漏 電 計	1							1
夜 間 用 暗 視 装 置	1							1
カ メ ラ	7	1	2	2	2	1	1	16
レ ー ザ ー 距 離 計	3	1	1	1	1	1	1	9
張 力 計	3							3
検 電 チ ェ ッ カ ー	2	1	1	1	1	1	1	8

● 保護器具

(令和5年4月1日現在)

資機材名	管理所属	消防署	分 署					絹分遣所	計
			大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
空 気 呼 吸 器		42	10	9	9	9	9	5	93
空 気 ボ ン ベ (5 ℓ)		68	20	18	18	18	18	10	170
空 気 ボ ン ベ (9 ℓ)		6							6
酸 素 呼 吸 器		5							5
酸 素 ボ ン ベ (1.5 ℓ)		10							10
防 毒 マ ス ク		2	4	2	3	3	5	3	22
防 塵 マ ス ク (消 防 隊 用)		30	9	10	10	10	10		79
防 塵 メ ガ ネ		39	22	13	15	19	7		115
耐 熱 服		3	3	3					9
耐 電 手 袋		4	2	2	3	2	2	3	18
耐 電 長 靴		4							4
耐 電 ズ ボ ン		4							4
個 人 携 帯 警 報 器		12	4	4	4	4	4	4	36

● 特殊災害用対策器具

(令和5年4月1日現在)

資機材名	管理所属	消防署	分 署					絹分遣所	計
			大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
ポ ー タ バ リ ケ ー ド		5							5
汚 染 水 貯 留 パ ネ ル 水 槽		2							2
除 染 用 給 湯 器		1							1
伸 縮 式 カ ラ ー コ ー ン		11							11
背 負 畜 圧 式 噴 霧 機		3							3
低水位排水用水中ハイスピンポンプ		1							1
ラ ン コ 除 染 用 テ ン ト		1							1
化 学 防 護 衣		34	5	5	5	5	5	3	62
放 射 線 測 定 器 (中 性 子 用)		1							1
放 射 線 測 定 器 (中 性 子 用 以 外)		12							12
放 射 線 測 定 器 (携 帯 用)		32							32

● 水難救助用器具

(令和5年4月1日現在)

資機材名	管理所属	消防署	分 署					絹分遣所	計
			大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
潜水器具		26							26
空気ボンベ(12ℓ)		26							26
水中投光器		5							5
救命浮環		2							2
灯浮標		1							1
船外機		2		1	1	2		1	7
水難国際信号旗(A旗)		1							1
水難救助用担架		1							1
レスキューチューブ		1							1

● その他の器具

(令和5年4月1日現在)

資機材名	管理所属	消防署	分 署					絹分遣所	計
			大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
浄水器		1							1
投光器一式		7	2	2	2	2	2	1	18
発電機		13	4	2	2	2	3	1	27
エアコン		3							3
ワンタッチテント		2							2
幕舎テント		8							8
安全マット		5			2	1			8
現場調査用具		1	1	1	1	1	1	1	7
現場調査用投光器		1	1		1	1	1		5
オイルフェンス		10							10
給水用水槽1000ℓ		2							2
給水用水槽2000ℓ									0
給水用水槽2500ℓ		6	3	3	2	3	3	1	21
石油暖房機		4							4
スポットクーラー		1							1
加圧排煙機(可搬型ブロアー)		3							3
フォークリフト		1							1

● 救命ボート及び救命胴衣

(令和5年4月1日現在)

資機材名 配置場所		救命ボート					救命胴衣(固定式)					
		空気膨張式			ウレタン製		和船	合計	流水救助用救命胴衣	小型船舶用救命胴衣	作業用救命胴衣	合計
		ゴムボート (船外機用)	ラフトボート	ローボート	水害救助支援ボート							
署管内	消防署(神鳥谷)	1	2	1	1		5	21	19	95	135	
	1-2分団車庫(城北)			1			1			4	4	
	2-1分団車庫(中央町)			1			1			4	4	
	2-2分団車庫(中央町)			1			1			4	4	
大谷管内	大谷分署(犬塚)								4	17	21	
	6分団車庫(横倉新田)			1			1			4	4	
間々田管内	間々田分署(乙女)								9	12	21	
	中里水防倉庫			1			1			4	4	
	檜木水防倉庫	1					1			5	5	
	下生井水防倉庫					1	1			4	4	
	10-2分団車庫(乙女)			1			1			4	4	
	10-3分団車庫(乙女)			1			1			4	4	
	15-2分団車庫(寒川)			1			1			4	4	
	16-1分団車庫(網戸)			1			1			4	4	
	16-2分団車庫(下生井)			1			1			4	4	
	押切集会所					1	1			4	4	
豊田管内	豊田分署(立木)	1					1		4	20	24	
	大行寺水防倉庫	1					1			5	5	
	11-2分団車庫(小宅)			1			1			4	4	
	11-3分団車庫(島田)			1			1			4	4	
	12-2分団車庫(立木)			1			1			4	4	
	13-1分団車庫(大行寺)			1			1			4	4	
	13-2分団車庫(萩島)			1			1			4	4	
	13-3分団車庫(間中)			1			1			4	4	
	14-1分団車庫(南小林)			1			1			4	4	
	14-2分団車庫(下泉)			1			1			4	4	
	14-3分団車庫(下初田)			1			1			4	4	
白鷺大学駐車場(大行寺)					1	1			4	4		
桑管内	桑分署(羽川)								6	13	19	
	17-3分団車庫(飯塚)			1			1			4	4	
絹管内	絹分遣所(福良)			1			1			13	13	
	18-1分団車庫(延島)			1			1			4	4	
	18-3分団車庫(福良)			1			1			4	4	
	延島水防倉庫					1	1			4	4	
合計		4	2	24	1	4	35	21	42	284	347	

※野木分署を除く

■ 水防資器材の保有状況

(令和5年4月1日現在)

管轄 水防倉庫等 資器材名	消 防 署			大 谷					間 々 田				豊 田			桑		絹		合 計
	消 防 署	中 央 町	分 署	分 署	中 里	生 良	檜 木	下 生 井	分 署	大 行 寺	石 の 上	島 田	分 署	飯 塚	分 遣 所	延 島				
土のう袋	4,400	2,000	1,100	1,000	500	600	600	600	600	5,600	500		1,000	500	220	500	19,720			
土のう袋 (容量1t)	80				250	10	260	260			20	270		250	150		1,550			
ビニールシート	95	67	98	89	81	85	85	85	88	62	84		96	97	100	85	1,297			
むしろ張り用シート	40			5					4	21			6				76			
松杭	12		11	14	170		38	50		90	74			65		74	598			
鉄杭	390	500	320	100	100	100	100	250	100	700			233		100	200	3,193			
鉄線	270	100	80	50	52	50	50	50	50	50	50		65	50	50	50	1,067			
縄(kg)	15	16	52	52	16	14	14	17	0	0	0		52	0	13	36	297			
ナイロンロープ(m)	400		1,300	1,400					1,000	400	400		1,400	400	1,450		8,150			
シャベル	32	20	20	20	11	7	7	7	20	7	7	5	20	12	20	12	227			
エンピ	4	10	10	9	1	5	5	5	10	5	5	5	10		5		89			
角スコップ	8	5	6	8					8				5		5		45			
なた	25	10	8	10	3	3	3	3	10	3	3		10	3	6	3	103			
斧	5		3	3					3				4		2		20			
鎌	90	5	20	31	22	5	5	5	20	5	5		32	5	10	5	265			
竹とげ鎌	5																5			
つるはし	6	5	5	5	4	4	4	4	5	4	4		6	4	5	4	69			
大ハンマー	5	2	2	1					1	1			2		1		15			
かけや	15	8	7	7	4	4	4	4	7	5	4		7	5	7	4	92			
のこぎり	30	5	12	11	5	5	5	5	21	5	5		21	5	10	5	150			
ペンチ	15	4	6	5	4	4	4	4	6	4	4		5	4	6	4	79			
鉄線切	5	2	2	6					5				5		1		26			
パール	4		3	4					5				3		1		20			
一輪車	10		3	3					3				3		2		24			
吸水土のう	530		200	200					200				200		200		1,530			
とい	2									1							3			
チェーンソー	2																2			
フルコンモッコ									4								4			
連結すいのう	8																8			
スローバック							3			3						3	9			
フローティングロープ							1			1						1	3			

※野木分署を除く

■ 救急用器具の保有状況

● 高度救急処置用資器材

(令和5年4月1日現在)

資器材名	管理所属	消防署	分 署					絹分遣所	計
			大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
自動体外式除細動器		11	3	3	3	3	3	3	29
生体情報モニター		2	1	1	1	1	1	1	8

● 一般救急用資器材

(令和5年4月1日現在)

資器材名	管理所属	消防署	分 署					絹分遣所	計
			大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
自動式心マッサージ器		2							2
手動式吸引器		2	1	1	1	1	1		7
電動式吸引器		3	1	1	1	1	1	1	9
自動式人工呼吸器		3	1	1	1	1	1	1	9
酸素吸入装置		6	2	2	2	2	2	2	18
陰圧式固定ギブス		3	1	1	1	1	1	1	9
パルスオキシメーター		3	3	1	1	1	2	2	13
頸部固定器具		12	4	4	4	4	4	4	36
バックボード		3	1	1	1	1	1	1	9
シヨートボード		1	1	1			1		4
ターニケット		11	2	2	2	2	2	2	23
陰圧式搬送具(アイソレーター)		1							1

● 救急搬送用資器材

(令和5年4月1日現在)

資器材名	管理所属	消防署	分 署					絹分遣所	計
			大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
メインストレッチャー		3	1	1	1	1	1	1	9
スクープストレッチャー		5	1	1	1	1	1	1	11
布 担 架		6	2	2	2	2	2	2	18

● 救出用資器材

(令和5年4月1日現在)

資器材名	管理所属	消防署	分 署					絹分遣所	計
			大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
金 て こ (バ ー ル)		3	1	1	1	1	1	1	9
万 能 斧 (救 急 用)		3	1	1	1	1	1	1	9
ガ ラ ス カ ッ タ ー (救 急 用)		3	1	1	1	1	1	1	9
シ ー ト ベ ル ト カ ッ タ ー (救 急 用)		3	1	1	1	1	1	1	9
救 命 浮 環		3	1	1	1	1	1	1	9
防 毒 マ ス ク		3	3	3	3	3	3	3	21

● 救急滅菌器具

(令和5年4月1日現在)

資器材名	管理所属	消防署	分 署					絹分遣所	計
			大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
高 圧 蒸 気 滅 菌 器									0
紫 外 線 滅 菌 器 ロ ッ カ ー		1	1	1	1	1	1	1	7
消 毒 室		1	1	1				1	4
オ ゾ ン 発 生 機 器 (B T - 0 3)		3	1	1	1	1	1	1	9
オ ゾ ン 発 生 機 器 (B T - 0 8 8)		1	1	1	1	1	1	1	7

● 救急教育・広報用資器材

(令和5年4月1日現在)

資器材名	管理所属	消防署	分 署					絹分遣所	計
			大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
教 育 用 人 形		38	8	8	8	12	8	5	87

● 救急通信用資器材

(令和5年4月1日現在)

資器材名	管理所属	消防署	分 署					絹分遣所	計
			大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
携 帯 電 話 (救 急 用)		3	1	1	1	1	1	1	9
タ ブ レ ッ ト (救 急 用)		2	1	1	1	1	1	1	8

● 感染防護キット

(令和5年4月1日現在)

資器材名	管理所属	消防署	分 署					絹分遣所	計
			大 谷	間々田	野 木	豊 田	桑		
感 染 防 止 衣 ・ N 9 5 マ ス ク ・ グ ロ ー プ ・ ゴ ー グ ル ・ シ ュ ー ズ カ バ ー		123	70	60	47	60	60	30	450

■ 消防活動施設及び消防水利施設に関する協議

消防活動施設に関する協議とは、小山市中高層建築物指導要綱（平成3年規程第24号）に基づき、中高層建築物の建築計画をする際、はしご付消防自動車などの大型消防自動車が、有事の際円滑な活動ができるように、消防本部と建築主が協議するよう定められています。

消防水利施設に関する協議とは、小山市宅地開発指導要綱（平成17年規程第26号）に基づき、消火活動をするために必要な消防水利施設の整備を目的とし、防火水槽又は消火栓の消防水利施設の計画について、消防本部と事業者が協議するよう定められています。

■ 消防水利施設に関する協議及び消防活動施設に関する協議件数及び消防水利数

年度	協議名	消防水利施設に関する協議	消防活動施設に関する協議
令和4年度	小山	27	2
	野木	1	1
	合計	28	3
令和3年度	小山	38	2
	野木	1	
	合計	39	2
令和2年度	小山	20	2
	野木	1	
	合計	21	2
令和元年度	小山	37	4
	野木	3	
	合計	40	4
平成30年度	小山	33	2
	野木	4	
	合計	37	2

年度	種別	防火水槽	消火栓
令和4年度	小山	9	4
	野木		
	合計	9	4
令和3年度	小山	7	7
	野木		
	合計	7	7
令和2年度	小山	8	3
	野木		
	合計	8	3
令和元年度	小山	6	1
	野木		
	合計	6	1
平成30年度	小山	7	1
	野木		
	合計	7	1

◇小山市消防本部・消防署の活動◇

1 消防本部・1 消防署・5 分署（野木町を含む）・1 分遣所が火災の予防、警戒、鎮圧をはじめ、交通事故等による救急救助業務、地震や風水害防除活動など、市町民生活の安全を災害等から守るために幅広く消防防災活動を行っています。

なお、野木町については、上記のことを達成するために昭和60年4月から小山市に消防事務（消防団及び消防水利の設置・維持・管理を除く）を委託して、消防防災活動を行っています。

また、小山市消防本部の管轄外で大規模な災害が発生した場合、国、県からの指示や求めに応じ、栃木県広域消防応援隊及び緊急消防援助隊として災害の発生した市町村や都道府県に出動し、応援の消火、救急、救助等の活動を行います。

■ 火災、救助及びその他の出動状況

(令和4年中)

種別		月												計	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
火災	建物	3		4		1	2			2			4	16	
	林野				1									1	
	車両	1	1	2		1		2	1		1			9	
	その他							3	1		1		1	6	
	計	4	1	6	1	2	2	5	2	2	2		5	32	
その他	自然災害							1		2				3	
	危険排除	4	2	1		1	5	6	3	1	4	4	4	35	
	警戒	毒劇物													
		ガス漏れ								1	1				2
		気象 火災警報													
		気象 風水害													
		地震			1										1
	緊急確認	怪煙	2	2	2	1	1	2	1	1	1	3	3	1	20
		自火報	3		1	1	2	4	7	5	4	3	6	8	44
		異臭					1								1
	その他	火災非該当	4	10	2	1	1	2	1	1		3	2	5	32
		へり警戒		1	2	1		2	1				3	2	12
		誤認・誤報及びいたずら		1	1	1	1	2	3	6	3	4	2	3	27
		その他	2		1	2	1	2	2	2	2	1	1	1	17
	計	15	16	11	7	8	19	22	19	14	18	21	24	194	
救助	火災	建物	2		4		1	2			2			4	15
		建物以外	1	1	2		1		2	1		2			10
	交通事故	5	5	3	2	3	3	7	6	6	4	2	4	50	
	水難事故														
	自然災害事故														
	機械による事故												1	1	
	建物等による事故	4	2	2	4	4	5	8	8	4	6	4	10	61	
	ガス及び酸欠事故														
	破裂事故														
	その他の事故	3	2	2	5		4	8	9	7	6	4	7	57	
	計	15	10	13	11	9	14	25	24	19	18	10	26	194	
合計	34	27	30	19	19	35	52	45	35	38	31	55	420		
令和3年	37	38	20	27	38	16	25	27	17	29	32	26	332		
令和2年	155	121	121	88	78	65	65	95	60	89	81	106	1,124		
令和元年	166	133	124	127	103	113	118	113	111	125	128	116	1,477		

- 1 火災は実際に火災防ぎのために消防隊等が出動したものを計上している。
- 2 各年とも1月から12月までの件数を計上している。(応援出動も含む。)
- 3 令和3年以降はPA連携件数を別に計上している。(P90参照)

■ 事故種別救助出動車両台数

(令和4年中)

出動車両		救 助 工 作 車	水 槽 付 消 防 ポン プ 自 動 車	は し ご 付 消 防 ポン プ 自 動 車	化 学 消 防 ポン プ 自 動 車	指 揮 車	救 急 自 動 車	そ の 他 の 車 両	計
火 災	建 物	13	30	1	11	13	13	8	89
	建物以外	9	24		10	9	9	1	62
交 通 事 故		48	45		9	19	69	1	191
水 難 事 故									
風水害等自然災害事故									
機 械 に よ る 事 故		1			1	1	1		4
建 物 等 に よ る 事 故		51	50		3	1	54	1	160
ガ ス 及 び 酸 欠 事 故									
破 裂 事 故									
そ の 他 の 事 故		54	104	13	25	39	44	4	283
計		176	253	14	59	82	190	15	789

■ 事故種別救助活動車両台数

(令和4年中)

事故種別		救 助 工 作 車	水 槽 付 消 防 ポン プ 自 動 車	は し ご 付 消 防 ポン プ 自 動 車	化 学 消 防 ポン プ 自 動 車	指 揮 車	救 急 自 動 車	そ の 他 の 車 両	計
火 災	建 物	13	28	1	11	13	13	8	87
	建物以外	9	23		9	9	9	1	60
交 通 事 故		38	44		9	15	66	1	173
水 難 事 故									
風水害等自然災害事故									
機 械 に よ る 事 故									
建 物 等 に よ る 事 故		34	49						83
ガ ス 及 び 酸 欠 事 故									
破 裂 事 故									
そ の 他 の 事 故		50	100	13	22	38	42		265
計		144	244	14	51	75	130	10	668

■ 水防活動状況の推移

(台風及び大雨による消防機関の活動状況)

種 別			年						
			令和 4 年	令和 3 年	令和 2 年	令和 元 年	平成 30 年	平成 29 年	
出動人員車両数	署分署	延 人 員	98	54		790	124	392	
		延 車 両	34	20		253	44	128	
	分団	延 人 員	201			1,498		266	
		延 車 両	17			209		32	
実施した水防工法(箇所)	積 土 の う			3		31		7	
	木 流 し								
	表 む し ろ 張 り								
	五 徳 む い								
	折 返 し								
	月 の 輪								
	排 水 作 業								
消防機関の活動状況(回数)	広 報 活 動		2			7		6	
	河 川 警 戒		1			7	1	17	
	災 害 調 査	浸 水	床 上				153		
			床 下				193		5
		全 壊							
		流 出 等							
	障 害 物 除 去		1	1		2	15		
	救 助 ・ 救 出					1(31)	1(2)		
そ の 他		2	2		7	18			
死 傷 者	死 者								
	負 傷 者					1	1		

- 1 河川水位調査は、河川警戒に含む。
- 2 その他には、危険箇所調査等を含む。
- 3 救助・救出の()内は人数。
- 4 令和元年以降の消防機関の活動状況について広報活動、河川警戒、障害物除去、救助・救出、その他の回数は、1件の災害につき1として計上する。

◇緊急消防援助隊◇

緊急消防援助隊は、平成7年（1995年）1月17日の阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、国内で発生した地震等の大規模災害時における人命救助活動等をより効果的かつ迅速に実施し得るよう、全国の消防機関相互による援助体制を構築するため、全国の消防本部の協力を得て創設されたものであり、小山市消防本部においても、以下のとおり10部隊登録している。

（令和5年4月1日現在）

No.	登録部隊	緊急消防援助隊登録年	登録車両
1	都道府県指揮隊(指1)	平成19年	指揮車 (消防署配置)
2	消火小隊(T1)	平成16年	水槽付消防ポンプ自動車(消防署配置)
3	// (T7)	平成19年	// (桑分署配置)
4	// (T8)	平成28年	// (絹分遣所配置)
5	// (SF1)	令和5年	// (消防署配置)
6	救助小隊(R1)	平成16年	救助工作車Ⅲ型 (消防署配置)
7	救急小隊(A3)	平成28年	高規格救急車 (間々田分署配置)
8	// (A6)	平成31年	// (豊田分署配置)
9	後方支援小隊(S11)	令和2年	資機材搬送車 (消防署配置)
10	特殊装備小隊(W1)	令和4年	小型動力ポンプ付水槽車(消防署配置)

- 1 緊急消防援助隊登録年は、消防本部として当該部隊に登録した年を示す。
 - 2 登録車両は、令和5年4月1日現在において各部隊に登録している車両を示す。
- ※過去に出動した災害
- 1 平成16年新潟県中越地震
 - 2 平成23年東日本大震災
 - 3 令和3年静岡県熱海市土石流災害

◇小山市(消防含む)の相互応援協定等◇

市及び一消防本部だけでは対処できない大災害が発生した場合等、他の近隣市町や消防機関、ライフライン事業所等と相互に応援し、住民の生命・財産を護るため、あらかじめ協定等を締結しております。

(令和5年4月1日現在)

No.	協定種別	協定年月日	小山市との協定市町村等
1	消防相互応援協定	昭和40年10月21日	栃木市
2	消防相互応援協定	昭和48年11月1日	筑西広域市町村圏事務組合、結城市、筑西市、桜川市
3	特殊災害消防対策応援協定	昭和55年4月30日	栃木市消防本部、栃木市
4	特殊災害消防応援協定	昭和56年5月20日	栃木県内全消防本部(12消防本部)
5	ガス漏れ事故等防止対策に関する協定	昭和56年7月1日	北日本ガス(株)
6	液化石油ガスの災害防止に関する申し合わせ書	昭和57年6月1日	野木町、小山警察署、東京電力、栃木県高圧ガス保安協会小山支部、小山プロパンガス保安センター、小山セントラル石油ガス(株)小山営業所、北日本ガス(株)、(株)トチネン
7	事業所等の敷地が市町の境界を有する事業所の帰属に関する協定	昭和60年3月29日	石橋地区消防組合消防本部
8	消防相互応援協定	昭和60年4月1日	茨城西南地方広域市町村圏事務組合、古河市、下妻市、坂東市、常総市、八千代町、五霞町、境町
9	災害時における相互応援に関する要綱	平成8年10月14日	北関東・新潟地域連携軸推進協議会
10	災害時における小山市と葛飾区との相互応援に関する協定	平成8年11月13日	東京都葛飾区
11	災害時における緊急輸送の協力に関する協定	平成9年7月14日 平成28年9月30日	栃木県トラック協会小山支部
12	災害時における協力に関する事項	平成9年10月24日 平成28年12月21日	小山郵便局(包括連携協定)
13	災害時の医療救護活動に関する協定	平成12年3月27日	小山地区医師会
14	災害時における防災活動協力に関する協定書	平成18年7月12日	イオン株式会社ジャスコ小山店
15	地域防災における応急対策の協力に関する協定	平成18年12月11日	小山建設業協同組合
16	地域防災における応急対策の協力に関する協定	平成18年12月11日	小山市管工事業協同組合
17	地域防災における応急対策の協力に関する協定	平成18年12月11日	小山市電気設備業協会
18	地域防災における応急対策の協力に関する協定	平成18年12月11日	小山市造園建設業協会
19	災害時における食糧及び生活必需品等の確保に関する協定	平成19年11月21日	とちぎコープ生活協同組合、とちぎよつ葉生活協同組合
20	災害時における応急対策用資機材等の供給に関する協定	平成20年1月30日	株式会社レンタルのニッケン小山営業所

No.	協定種別	協定年月日	小山市との協定市町村等
21	小山市と社団法人全国霊柩自動車協会による災害時における霊柩自動車・棺等葬祭用品の供給等に関する協定	平成21年1月23日	社団法人全国霊柩自動車協会
22	災害時における救援物資の供給協力に関する協定	平成21年11月12日	利根コカ・コーラボトリング株式会社
23	災害時における相互応援に関する協定	平成22年3月29日	茨城県結城市
24	災害時における救援物資の供給協力に関する協定	平成22年12月16日	サントリーフーズ株式会社、関東フーズサービス株式会社
25	災害時の情報交換に関する協定	平成23年4月18日	国土交通省関東地方整備局
26	災害時における応急対策業務に関する協定	平成23年10月11日	小山市消防一水会
27	災害時における応急対策業務に関する協定	平成23年10月11日	小山市消友会
28	災害時における応急対策業務に関する協定	平成23年10月11日	栃木県警親会小山支部
29	災害時における応急対策業務に関する協定	平成23年10月17日	公益社団法人隊友会 栃木県隊友会小山支部
30	小山市と大崎市との災害時相互応援協定	平成23年11月3日	宮城県大崎市
31	下都賀地区における災害時の相互協力に関する協定	平成24年10月29日	栃木市、下野市、壬生町、野木町、岩舟町、栃木県建設業協会下都賀支部、警察署、消防（合計13機関）
32	災害時における救援物資の提供協力に関する協定	平成25年1月22日	両毛ヤクルト販売株式会社
33	地域防災における応急対策の協力に関する協定	平成25年8月9日	株式会社東光高岳
34	災害時における生活物資の供給協力に関する協定	平成25年12月12日	ジャパンソルト株式会社
35	災害時における電気設備の復旧等に関する協定	平成26年3月26日	栃木県電気工事業工業組合
36	災害時における電気設備の復旧活動等に関する協定	平成26年3月26日	栃木県電気工事業工業組合小山支部
37	災害時相互応援協定	平成26年10月26日	兵庫県西宮市、静岡県富士宮市、福井県あわら市、富山県南砺市
38	小山市と富岡市との災害時における相互応援に関する協定	平成26年10月26日	群馬県富岡市
39	大規模災害時における相互応援に関する協定	平成26年10月26日	東京都世田谷区
40	災害対策基本法に基づく放送要請に関する協定	平成27年3月7日	株式会社とちぎテレビ、株式会社栃木放送
41	災害時における避難者支援の協力に関する協定	平成27年3月7日	学校法人白鷗大学
42	災害対策基本法に基づく放送要請に関する協定	平成27年3月7日	テレビ小山放送株式会社
43	災害時における物資の供給に関する協定	平成27年3月7日	レンゴー株式会社小山工場
44	災害時の歯科医療救護活動に関する協定	平成28年2月1日	一般社団法人小山歯科医師会
45	災害時における物資供給に関する協定	平成28年2月3日	NPO法人コメリ災害対策センター
46	災害時における相互応援に関する協定	平成28年3月1日	兵庫県豊岡市

No.	協定種別	協定年月日	小山市との協定市町村等
47	災害時相互応援に関する協定	平成28年3月18日 平成30年6月1日 平成30年11月1日	茨城県日立市、埼玉県新座市、愛知県豊川市、愛知県西尾市、東京都東村山市、愛知県安城市
48	広告付避難所等電柱看板に関する協定	平成28年9月2日	東電タウンプランニング株式会社栃木総支社
49	災害時における応急対策業務に関する協定	平成28年9月2日	北関東総合警備保障株式会社
50	無人航空機による応急対策活動に関する協定	平成28年9月2日	株式会社都市設計
51	災害時における物資の供給協力に関する協定	平成28年11月15日	株式会社カインズ
52	災害時における物資の供給協力に関する協定	平成28年12月8日	株式会社ベイシア
53	災害時における応急対策業務に関する協定	平成29年1月26日	富士通株式会社小山工場
54	災害時における応急対策業務に関する協定	平成29年1月26日	昭和電工株式会社小山事業所
55	災害時における応急対策業務に関する協定	平成29年1月26日	東京鋼鐵株式会社
56	災害時における応急対策業務に関する協定	平成29年1月26日	株式会社小松製作所小山工場
57	災害時における応急対策業務に関する協定	平成29年1月26日	株式会社巴コーポレーション小山工場
58	災害時における応急対策業務に関する協定	平成29年1月26日	東京鉄鋼株式会社本社工場
59	災害時における応急対策業務に関する協定	平成29年1月26日	文化シャッター株式会社小山工場
60	災害時における応急対策業務に関する協定	平成29年1月26日	株式会社UAC J 押出加工小山
61	災害時における応急対策業務に関する協定	平成29年1月26日	小平産業株式会社
62	災害時における応急対策業務に関する協定	平成29年1月26日	古河産機システムズ株式会社小山工場
63	災害時における応急対策業務に関する協定	平成29年1月26日	KDDI株式会社北関東総支社
64	災害時における管理施設の使用等に関する協定	平成29年2月2日	株式会社小山ブランド思川
65	災害時の相互協力に関する協定	平成29年3月14日	農林水産省 関東農政局 栃木南部農業水利事業所
66	災害時における応急対策業務に関する協定	平成29年3月14日	小山市美田東部土地改良区
67	災害時における応急対策業務に関する協定	平成29年3月14日	思川西部土地改良区
68	災害時における応急対策業務に関する協定	平成29年3月14日	間々田乙女土地改良区
69	原子力災害時における笠間市民の県外広域避難に関する協定	平成29年3月22日	栃木県真岡市、栃木県下野市、栃木県上三川町、栃木県壬生町、茨城県笠間市
70	災害時における相互応援に関する協定	平成29年3月22日	茨城県笠間市
71	災害時広域支援連携協定	平成29年7月7日	茨城県結城市、栃木県栃木市、栃木県下野市、栃木県野木町
72	関東どまんなかサミット会議構成市町の災害時における相互応援に関する協定	平成29年10月16日	茨城県古河市、栃木県栃木市、埼玉県加須市、栃木県野木町、群馬県板倉町
73	テナント入居時に行う防火安全指導に係る相互協力に関する協定	平成29年11月10日	公益社団法人 栃木県宅地建物取引業協会県南支部

No.	協定種別	協定年月日	小山市との協定市町村等
74	災害時における法律相談業務に関する協定	平成30年1月18日	栃木県弁護士会
75	災害時における生活用水等の確保に関する協定	平成30年1月18日	栃木県南部生コンクリート協同組合
76	災害時における物資集積・配送拠点の運営及び物資の配送等に関する協定	平成30年1月18日	佐川急便株式会社北関東支店
77	広告付避難場所等電柱看板に関する協定	平成30年1月18日	三信電工株式会社
78	災害に係る情報発信等に関する協定	平成30年2月26日	ヤフー株式会社
79	災害時における応急対策業務に関する協定	平成30年3月23日	小山用水土地改良区
80	災害時における応急対策業務に関する協定	平成30年3月23日	絹土地改良区
81	小山市と小山農業協同組合の地域活性化に関する包括連携協定	平成30年12月19日	小山農業協同組合
82	小山市と三井住友海上火災保険株式会社・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社との地方創生に関する包括連携協定	平成31年1月28日	三井住友海上火災保険株式会社、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
83	災害時における相互応援に関する協定	平成31年1月21日	埼玉県鴻巣市
84	災害時における応急対策業務に関する協定	平成31年2月8日	小山市美田北部土地改良区
85	災害時における応急対策業務に関する協定	平成31年2月8日	小山市美田中部土地改良区
86	災害時における防災活動協力に関する協定	平成31年2月8日	小山自動車処理組合
87	災害時における物資の供給協力に関する協定	平成31年3月1日	株式会社坪野谷紙業
88	災害時における地図製品等の供給に関する協定	平成31年3月1日	株式会社ゼンリン（総合販売本部 関東エリアグループ）
89	小山市といすみ市との連携に関する協定	令和元年5月14日	千葉県いすみ市
90	災害時における避難者支援業務及び防災備蓄品等の保管に関する協定	令和元年9月24日	荒井商事株式会社
91	小山市と株式会社伊藤園との地方創生に関する包括連携協定	令和2年2月3日	株式会社伊藤園
92	災害時における応急対策業務に関する協定	令和2年3月23日	飯塚土地改良区
93	災害時における応急対策業務に関する協定	令和2年3月23日	大美間土地改良区
94	小山市と東京電力パワーグリッド株式会社栃木南支社との地方創生に関する包括連携協定	令和2年5月21日	東京電力パワーグリッド株式会社栃木南支社
95	緊急災害支援活動に関する協定	令和2年9月1日	株式会社ザイマックスアルファ
96	地方創生ならびにSDGs推進に関する包括連携協定	令和2年12月17日	足利小山信用金庫、ファイナンシャル・ソリューションズ株式会社、損害保険ジャパン株式会社
97	小山市と第一生命保険株式会社との地方創生に関する包括連携協定	令和3年3月12日	第一生命保険株式会社
98	災害時における応急対策業務に関する協定	令和3年3月18日	小山市大谷東部土地改良区
99	災害時における応急対策業務に関する協定	令和3年3月18日	小山市犬塚中久喜土地改良区

No.	協定種別	協定年月日	小山市との協定市町村等
100	小山市と大塚製薬株式会社との地方創生に関する包括連携協定	令和3年3月22日	大塚製薬株式会社
101	災害時の「道の駅」利用に関する基本協定	令和3年5月31日	国土交通省 関東地方整備局 宇都宮国道事務所
102	地震等大規模災害時における建築物等の解体撤去等に関する協定	令和3年5月31日	株式会社イソベ建設
103	災害時における施設の提供協力に関する協定	令和3年7月29日	株式会社デベロップ
104	災害時における宿泊施設等の提供に関する協定	令和3年9月3日	小山旅館業組合
105	災害時における市町相互応援に関する協定	令和4年2月22日	県内市町
106	無人航空機による応急対策活動に関する協定	令和4年3月1日	テクノオリーブ株式会社
107	災害時における物資供給に関する協定	令和4年3月1日	株式会社ナフコ
108	災害時における電動車両等の支援に関する協定	令和4年3月11日	東日本三菱自動車販売株式会社、三菱自動車工業株式会社
109	災害時における応急対応業務の支援に関する協定	令和4年6月22日	株式会社日本ウォーターテックス
110	災害時における建築物の応急対策業務等の応援協力に関する協定	令和4年7月14日	一般社団法人栃木県建築士会
111	災害時の避難所等における外部給電可能な車両からの電力供給の協力に関する協定	令和4年9月22日	栃木トヨタ自動車株式会社、栃木トヨペット株式会社、トヨタカローラ栃木株式会社、ネットトヨタ栃木株式会社、トヨタモビリティパーツ株式会社
112	災害時等における施設の提供に関する協定	令和4年10月3日	五月女総合プロダクト株式会社
113	災害時における物資の供給に関する協定	令和5年2月21日	株式会社カワチ薬品
114	災害時における相互協力に関する協定	令和5年3月3日	北日本ガス株式会社

◇小山市消防本部における主な災害等◇

発生年月日	災害種別	発生場所	災害概要
昭和22年9月15日	水 災	生井、寒川他	・カスリン台風に襲われ、夜半からの大雨により渡良瀬川の水位が上昇、左岸堤防が決壊し、生井及び寒川地区一帯が氾濫により甚大な被害発生。
23年3月4日	火 災	小山駅東口	・製粉工場より出火、木造5階建工場1棟全焼。
37年5月13日	火 災	稲葉郷	・製造工場より出火、1棟全焼 488㎡を焼損、損害額 8,000万円。
39年4月5日	火 災	小山駅西口 小山	・店舗等が密集している駅西口付近で発生した火災は、映画館等4棟全焼、計 544㎡を焼損、職員2名殉職、2名負傷、一般人3名負傷、計7名の死傷者が発生した。損害額 2,400万円。
40年5月28日	水 災	生井地区	・与良川堤防13m決壊し、水田 5ha冠水。
42年3月12日	火 災	若木町	・機械製造工場等3棟全焼、計 2,821㎡焼損、損害額 9,600万円。
44年6月15日	火 災	間々田	・商店街より出火、付近の密集建物7棟全半焼、計538㎡焼損、損害額 3,601万円。
45年6月16日	ガス漏洩	千駄塚地内	・国道4号線上で塩素ガスボンベを運搬中、交通事故によりボンベが荷崩れ、ボンベのスピンドルバルブが破損し、塩素ガスが噴出約3km四方に漏洩。 職員17名、付近住民等 195名が塩素ガス中毒、家畜や農作物等に多大な被害を出した。
46年9月7日	水 災	絹 地区	・台風29号に襲われ、田川堤防30m決壊し、水田等冠水して農作物に被害。
47年9月14日	火 災	横倉新田	・フォークリフト製造工場組み立てラインの爆発火災により、5,000 ㎡破損、死者5名、負傷27名、計32名の死傷者が発生した。損害額5,645 万円。
48年3月9日	火 災	稲葉郷	・アセチレン充填工場のアセチレンが爆発、工場1棟 442㎡全壊、アセチレンガスボンベ52本爆発、負傷者3名、損害額 2,152万円。
53年9月10日	火 災	間々田	・呉服店舗より出火、1棟全焼 400㎡焼損、損害額 7,461 万円。
54年8月24日	火 災	横倉新田	・鉄鋼工場の鉄鋼溶融物が炉より溢れだし、作業員3名死亡、2名負傷、計5名。損害額 200万円。

発生年月日	災害種別	発生場所	災 害 概 要
昭和55年1月9日	火 災	若木町	・密集地住宅より出火、付近の4棟全焼、計 440㎡焼損、3名焼死。損害額 3,512万円。
56年5月8日	火 災	土塔	・金属工場より出火、1棟全焼 861㎡焼損、損害額 12,325万円。
56年5月27日	火 災	大本	・一般住宅より出火、2棟全焼、計 184㎡焼損、2名焼死。損害額 3,080万円。
56年9月18日	火 災	羽川	・飲食店兼住宅より出火、2棟全焼、計 453㎡焼損1名焼死。損害額 5,078万円。
57年3月25日	火 災	北飯田	・プラスチック成型工場、住宅等3棟全焼、計 734㎡焼損、損害額 7,152万円。
57年4月7日	火 災	網戸	・製菓製造工場1棟全焼 1,775㎡焼損、損害額 27,913万円。
60年5月1日	火 災	若木町	・貸衣装店舗より出火、2棟全焼、計 520㎡焼損、損害額 13,036 万円。
63年11月2日	火 災	神鳥谷	・飲食店兼住宅1棟全焼、119㎡焼損、3名焼死、1名負傷、計4名死傷した。損害額 674万円。
平成2年8月14日	火 災	花垣町	・眼科医院兼住宅、1棟 219㎡焼損、損害額 5,356万円。
3年9月30日	火 災	東黒田	・野積みの産業廃棄物(家屋解体の木材等) から出火して消火に困難を極める。鎮火11月26日。 (4,620㎡焼損、産廃 約35,000㎡)
5年1月15日	火 災	東野田	・建設会社作業所1棟全焼、1,040㎡焼損、損害額 6,549万円。
5年10月6日	火 災	東黒田	・製造工場1棟全焼、528㎡焼損、損害額 4,579万円。
8年7月15日	自然災害	絹地区東部	・破壊的な下降気流(ダウンバースト)の発生により、絹地区東部 113世帯の住宅、納屋が倒壊し農作物等に大きな被害を受けた。損害額 19,000万円
10年6月25日	火 災	野木町若林	・アルミ箔製造工場 1棟 975㎡焼損、損害額 29,901万円。
10年8月30日	自然災害	生井地区	・台風4号により、下生井地区等に避難勧告。374人が市内小中学校に避難。
11年8月19日	火 災	東黒田	・野積みの産業廃棄物(家屋解体の木材等) 火災。鎮火8月22日。(6,095㎡焼損、産廃約28,140㎡)
12年3月13日	火 災	中久喜	・飲食店1棟全焼、429㎡焼損、損害額 12,000万円。

発生年月日	災害種別	発生場所	災 害 概 要
平成12年8月5日	自然災害	小山市全域	・短時間的集中豪雨により、若木町3丁目、大字喜沢を中心に市内各地で、90世帯以上の床上・床下浸水被害が発生した。
12年9月24日	自然災害	小山市全域	・短時間的集中豪雨により、若木町3丁目、大字喜沢、羽川を中心に市内各地で、73世帯以上の床上・床下浸水被害が発生した。
13年1月27日	火 災	西城南	・店舗1棟全焼、639㎡焼損、損害額 11,300万円。
13年7月9日	危険物漏洩	土塔地内	・工場内の屋外タンク貯蔵所(容量150,000ℓ)から第4類第3石油類(A重油)約11,000ℓが西仁連川に流出。
14年7月9日	自然災害	小山市全域	・台風6号の接近に伴い小宅橋が流失、中里地域において逆川排水機場付近の3世帯に避難勧告を行い、市内各地域で床上浸水1世帯、床下浸水31世帯の被害が発生した。小宅橋、間中橋流失。
14年11月7日	火 災	福良	・一般住宅から出火、1棟全焼、219㎡、2名焼死。
15年2月15日	火 災	駅東通り	・パチンコ店から出火、1,727㎡のうち789㎡焼損、損害額22,900万円。
15年3月30日	火 災	喜沢	・パチンコ店から出火、310㎡のうち177㎡焼損、損害額33,400万円。
15年8月5日	自然災害	小山市全域	・短時間的集中豪雨により、駅東通り、若木町3丁目、大字羽川を中心に市内各地で、76世帯の床上・床下浸水被害が発生した。
17年1月2日	火 災	扶桑	・市営住宅から出火し、2名焼死。
17年5月18日	火 災	扶桑	・市営住宅から出火し、1名焼死。
18年3月25日	火 災	間々田	・一般住宅から出火、2棟全焼、1部分焼、1名焼死。
18年5月20日	自然災害	小山市全域	・短時間的集中豪雨により、駅東通り、城山町2丁目を中心に市内各地で、28世帯の床下浸水被害が発生した。
19年2月13日	火 災	羽川	・一般住宅から出火、1棟全焼、1棟半焼、3棟部分焼、2棟ぼや、1名焼死、1名負傷。
20年2月19日	火 災	神鳥谷	・一般住宅から出火、2棟全焼、56㎡、2名焼死。
21年10月13日	火 災	外城	・一般住宅から出火、1棟全焼、2棟ぼや、2名焼死。
21年12月4日	火 災	出井	・資機材倉庫から出火、1棟全焼、19㎡、3名焼死。

発生年月日	災害種別	発生場所	災害概要
平成22年2月15日	火災	中久喜	・工場内の危険物施設(一般取扱所)であるナトリウム硫黄電池設備から出火。鎮火2月17日。
23年3月11日	自然災害	小山市全域	・東北地方太平洋沖地震が発生、4名負傷、半壊1棟、一部損壊約2,100棟のほか、塀の倒壊等約1,100ヶ所の被害が発生した。
23年9月21日	自然災害	小山市全域	・台風15号により、大行寺地内において豊穂川が越水。市内各地で20世帯の床上・床下浸水被害が発生した。
26年2月14日 ～15日	自然災害	小山市全域	・大雪により市内各地で被害が発生した。 11名負傷、床下浸水1棟、倒木3、農作物損害額約33,282万3千円。
27年5月10日 9月9日 ～10日	火災 自然災害	東山田 小山市全域	・畜産小屋等、計7棟全焼、損害額5,559万7千円。 ・平成27年9月関東・東北豪雨が発生した。 台風17号と台風18号からかわった温帯低気圧の影響により線状降水帯が発生、豪雨災害が発生した。 主要河川は増水、市内各地で内水により、住宅1,525棟の床上・床下浸水被害が発生した。 10日0時20分に栃木県初の大雨特別警報が発令。 農畜産物被害額31,973万2千円。
28年6月28日	火災	荒井	・製紙工場から出火、1棟半焼、1,354㎡、1名焼死、1名負傷。鎮火まで6時間。
28年8月22日	自然災害	横倉新田	・台風9号により、横倉新田地区を中心に住宅26棟の床下浸水被害が発生した。
29年2月4日	火災	城北	・店舗兼住宅から出火、1棟全焼、232㎡、5名焼死。
29年10月22日 ～24日	自然災害	中里・押切	・台風21号により、中里・押切地内で柚井木川増水。同地域で4棟の床下浸水被害が発生した。
30年10月17日	火災	西城南	・物品販売店舗から出火、1棟全焼、660㎡、損害額10,495万2千円。
令和元年10月12日 ～16日	自然災害	小山市全域	・令和元年東日本台風が発生した。 台風による大雨で、水害が発生し合計546棟の床上・床下浸水被害が発生した。 12日6時19分大雨(浸水害)警報発令。同日13時44分暴風・洪水警報発令。農畜産物被害額9,618万4千円。

救急編

救 急 編



◇救急活動◇

小山市消防本部では、昭和34年10月から救急業務を開始し、平成19年まで出動件数は増加の一途をたどり、平成20、21年は減少傾向でしたが、平成22年から平成24年までは再び増加となりました。平成25年では一般負傷・転院搬送の減少により、一旦減少となりましたが、平成26年以降再び増加傾向となりました。令和2年は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛などの影響により、7年ぶりに減少しましたが、令和3年から再び増加傾向となり令和4年は過去最多の9,521件（前年比1,636件増）となりました。

また、令和4年12月31日には、業務を開始してから延べ250,048件出動し、243,135人を医療機関等へ搬送しました。

平成3年に救急救命士法が施行され、小山市消防本部においても、救急救命士の養成をはじめ高規格救急自動車、高度救命処置用資器材等の整備を積極的に図り、令和5年4月1日現在、救急救命士78名、高規格救急自動車9台（非常用含む）を運用し、救急活動を実施しています。

■ 救急救命士・救急隊員及び消防隊員が行うことができる処置

(1) 除細動（平成15年4月から）

救急隊員や消防隊員が使用できる自動体外式除細動器は、医師の具体的指示が必要でしたが、必要な講習を受講することで、具体的指示が無くても使用可能となりました。

(2) 気管挿管（平成16年7月から）

救急救命士は、必要な講習を受講し病院実習を修了することで、医師の具体的な指示のもとで気管挿管をすることが可能となりました。

(3) 薬剤投与（平成18年4月から）

救急救命士は、必要な講習を受講し病院実習を修了することで、医師の具体的な指示のもとでアドレナリン（心拍再開のための強心剤）の使用が可能となりました。

(4) エピペン®の投与（平成21年3月から）

救急救命士は、対象となる重度傷病者があらかじめ自己注射可能なエピネフリン製剤（エピペン®）を処方されている場合、傷病者に代わって投与することが可能となりました。

(5) 心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液（平成26年4月から）

救急救命士は、必要な講習を受講することで、医師の具体的な指示のもと、心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液をすることが可能となりました。

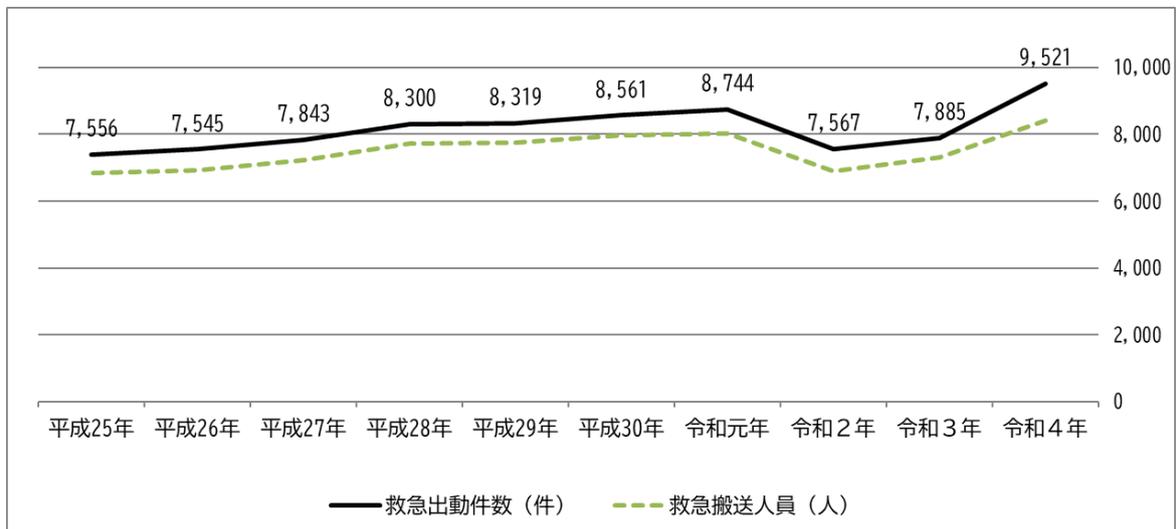
(6) 血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与（平成26年4月から）

救急救命士は、必要な講習を受講することで、低血糖発作が疑われる傷病者の血糖値を測定し、医師の具体的な指示のもと、ブドウ糖溶液を投与することが可能となりました。

◇救急業務の実施状況◇

■ 救急出動件数及び搬送人員の推移

各年	件数及び人員		救急出動件数（件）	救急搬送人員（人）
	出動件数（件）	搬送人員（人）		
令和4年	9,521	8,414	9,521	8,414
令和3年	7,885	7,303	7,885	7,303
令和2年	7,567	6,882	7,567	6,882
令和元年	8,744	8,026	8,744	8,026
平成30年	8,561	7,976	8,561	7,976
平成29年	8,319	7,734	8,319	7,734
平成28年	8,300	7,733	8,300	7,733
平成27年	7,843	7,219	7,843	7,219
平成26年	7,545	6,908	7,545	6,908
平成25年	7,401	6,833	7,401	6,833



■ 事故種別ごとに出動件数及び搬送人員の構成比及び対前年比

種別	令和3年中		令和4年中		対前年比	
	出動件数（件）	構成比（%）	出動件数（件）	構成比（%）	増減数 上段：件 下段：人	増減率（%）
急病	5,053	64.1%	6,563	68.9%	1,510	29.9%
	4,657	63.8%	5,755	68.4%	1,098	23.6%
交通事故	677	8.6%	681	7.2%	4	0.6%
	670	9.2%	645	7.7%	-25	-3.7%
一般負傷	1,024	13.0%	1,064	11.2%	40	3.9%
	966	13.2%	949	11.3%	-17	-1.8%
その他 （転院搬送等）	825	10.5%	875	9.2%	50	6.1%
	778	10.7%	801	9.5%	23	3.0%
上記以外	306	3.9%	338	3.6%	32	10.5%
	232	3.2%	264	3.1%	32	13.8%
合計	7,885	100.0%	9,521	100.0%	1,636	20.7%
	7,303	100.0%	8,414	100.0%	1,111	13.20%

■ 所属別事故種別ごと出動件数及び搬送人員の状況

(令和4年中)

事故種別 所属別		火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他				合計
												転院	医師搬送	資材搬送	その他	
出動件数	消防署	19			258	28	14	330	16	51	1,978	323			40	3,057
	間々田	3			85	8	6	150	5	20	927	121			8	1,333
	桑				76	15	4	111	5	16	699	46			9	981
	豊田	3			96	10	15	148	9	6	918	138			5	1,348
	大谷	2			98	20	1	180	14	9	1,048	65			4	1,441
	野木				42	5	3	108	2	10	726	107				1,003
	絹				26	10	1	37	1	7	267	7			2	358
	合計	27			681	96	44	1,064	52	119	6,563	807			68	9,521
搬送人員	消防署	1			244	26	14	293	11	38	1,733	321				2,681
	間々田	1			80	8	6	137	4	17	814	121				1,188
	桑				81	15	4	98	2	12	607	46				865
	豊田	1			90	9	15	128	7	4	797	135				1,186
	大谷	1			85	20	1	157	10	8	914	65				1,261
	野木				41	5	3	100	2	5	651	106				913
	絹				24	10	1	36		3	239	7				320
	合計	4			645	93	44	949	36	87	5,755	801				8,414

■ 月別救急出動件数及び搬送人員並びに事故種別ごと出動件数及び搬送人員の推移

(令和4年中)

事故種別 月別	出動件数合計	事故種別											搬送人員合計	※PA連携件数
		火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他		
1月	765	4			69	5	2	91	5	12	517	60	690	78
2月	683				45	9	2	83	1	5	471	67	607	85
3月	709	6			43	3	2	98	6	8	477	66	624	67
4月	704				58	8	2	84	4	8	476	64	639	67
5月	684	2			59	4	5	81	6	12	453	62	626	83
6月	763	2			48	12	5	93	4	16	504	79	688	121
7月	897	3			58	8	9	89	5	7	636	82	788	104
8月	1,005				58	13	2	88	5	13	747	79	860	130
9月	762	2			62	6	5	81	7	11	515	73	667	121
10月	771	3			59	10	3	90	4	10	519	73	677	108
11月	800	1			52	7	4	83	1	6	560	86	706	119
12月	978	4			70	11	3	103	4	11	688	84	842	179
合計	9,521	27			681	96	44	1,064	52	119	6,563	875	8,414	1,262
令和3年	7,885	33		5	677	81	39	1,024	47	101	5,053	825	7,303	688
令和2年	7,567	31		4	611	91	26	962	49	87	4,988	718	7,567	762
令和元年	8,744	37	1	3	774	97	55	1,061	44	83	5,682	907	8,026	1,058
平成30年	8,561	26		8	874	128	64	975	46	88	5,508	844	7,976	1,086
平成29年	8,319	41		3	858	96	54	987	45	114	5,193	928	7,734	1,108
平成28年	8,300	32		4	887	83	31	972	47	105	5,254	885	7,733	1,047

※PA連携とは、ポンプ車(Pumper)と救急車(Ambulance)が同時に出動するものであり、双方の頭文字から「PA」と名前をつけたものです。管轄の救急車が出動中の時や、119番通報の時点で重篤な状態と判断された時など、所定の基準に合致した場合、救急車とともに消防車が出動します。

■ 傷病程度別事故種別ごと搬送人員の状況

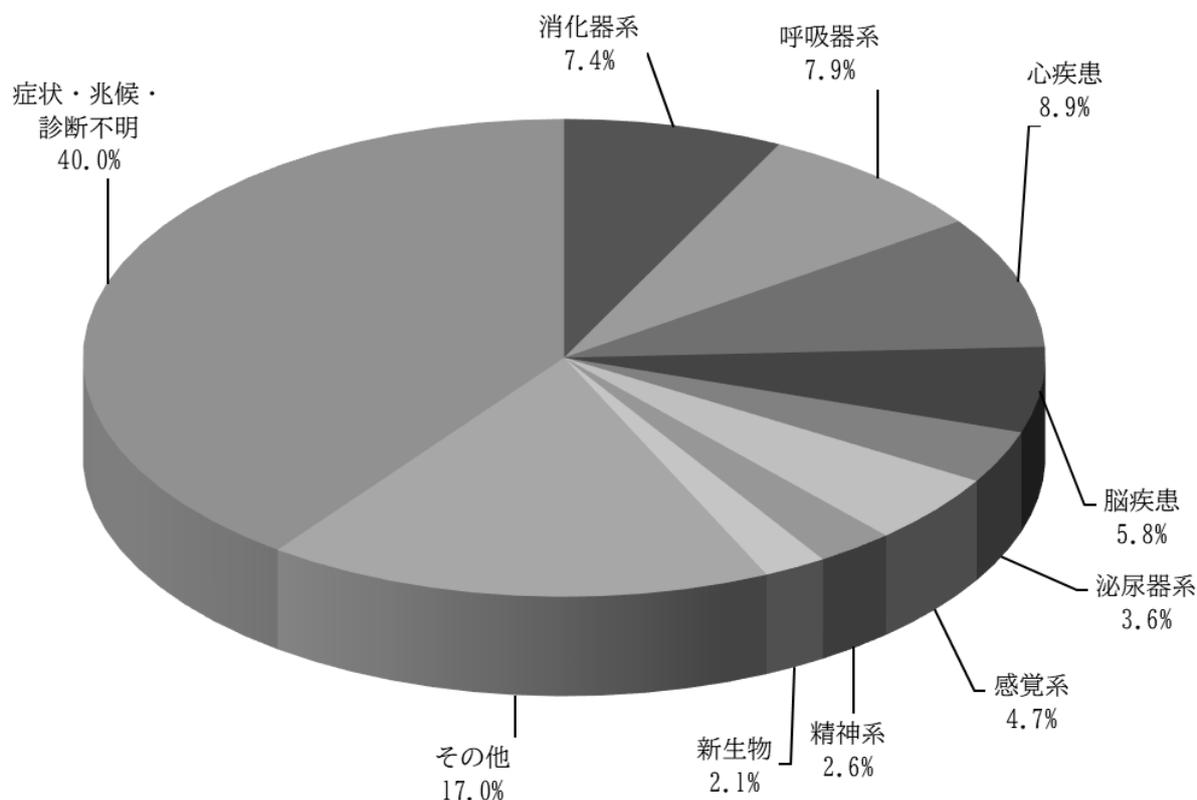
(令和4年中)

傷病程度 事故種別	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
急病	118	453	2,464	2,720		5,755
交通事故	2	29	111	503		645
一般負傷	3	88	315	543		949
その他 転院搬送等	1	166	550	84		801
上記以外	5	23	76	160		264
計	129	759	3,516	4,010		8,414

- 1 死亡とは、初診時において医師が死亡を確認したものをいう。
- 2 重症とは、傷病程度が3週間以上の入院加療を必要なものをいう。
- 3 中等症とは、傷病程度が重症又は軽症以外のものをいう。
- 4 軽症とは、傷病程度が入院加療を必要としないものをいう。
- 5 その他とは、医師の診断がないもの及び医療機関以外の場所へ搬送したものをいう。
- 6 () 内は、構成比を示す。

■ 急病に係る疾病分類別搬送状況

(令和4年中)



◇救急自動車による現場到着までの所要時間状況◇

令和4年中の救急出動件数 9,521 件について、『入電時刻』から『現場到着』までの平均所要時間は、8.3 分でした。

※ 入電時刻とは、消防機関が 119 番通報を受信した時刻等をいいます。

◇救急自動車による現場到着から現場出発までの所要時間状況◇

令和4年中の救急搬送人員 8,414 人について、『救急現場到着』から『医療機関に向けて搬送を開始』するまで（現場滞在時間）の平均所要時間は、19.5 分です。

※ 大規模施設、高層階、通路が狭いなど傷病者を救急車内への収容に時間を要する場合や交通事故で傷病者の救出に時間を要する場合のほか、病院への連絡が複数回になったなどの理由により、現場出発までに時間がかかることがあります。

◇救急自動車による病院収容までの所要時間状況◇

令和4年中の救急搬送人員 8,414 人について、『入電時刻』から『病院収容』までの平均所要時間は、42.4 分でした。

■ 現場到着までの時間及び病院収容までの時間の推移と栃木県及び全国との比較

(単位：分)

年	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年
現場到着までの時間（小山市消防本部）	8.3	7.8	7.4	7.0	6.9
病院収容までの時間（小山市消防本部）	42.4	41	39.5	38.1	37.3
現場到着までの時間（栃木県）		8.9	9	8.7	8.6
病院収容までの時間（栃木県）		44.1	42.6	41.7	41.8
現場到着までの時間（全国）		9.4	8.9	8.7	8.7
病院収容までの時間（全国）		42.8	40.6	39.5	39.5

- 1 栃木県及び全国の値は、救急救助の現況（総務省消防庁発表）による。
- 2 令和4年の栃木県及び全国の値は、未公表のため計上していない。

■ 応急手当普通救命講習等受講状況

年度	普通救命講習		上級救命講習		その他救命講習	
	実施回数	受講人員	実施回数	受講人員	実施回数	受講人員
令和4年度	34	644	1	19	98	2,822
令和3年度	18	310			68	2,603
令和2年度	22	381			35	844
令和元年度	63	1,345	3	80	114	4,152
平成30年度	72	1,543	2	20	133	4,646

- 1 普通救命講習は、普通救命講習Ⅰ、普通救命講習Ⅱ及び普通救命講習Ⅲを計上している。
- 2 その他救命講習は、普通救命講習Ⅰ、普通救命講習Ⅱ、普通救命講習Ⅲ及び上級救命講習以外の応急手当普及講習を計上している。

■ 救急隊員が行った応急処置等の状況

(令和4年中)

事故種別		事故種別				計	
		急病	交通事故	一般負傷	その他 左記以外		
応急処置別		急病	交通事故	一般負傷	その他 左記以外	計	
応急処置等対象搬送人員		5,755	645	949	1,065	8,414	
応急処置等項目	止血	35	43	132	49	259	
	固定	40	438	226	75	779	
	人工呼吸	17		3	6	26	
	胸骨圧迫						
	酸素吸入	1,239	36	53	303	1,631	
	心肺蘇生(人工呼吸+胸骨圧迫)	203	3	14	10	230	
		139	1	14	7	161	
	※器具を使用した気道確保	※うち経鼻エアウェイ					
		※うち喉頭鏡、鉗子等	2		5		7
		※うちラリングアルマスク等	135	1	8	6	150
		※気管挿管	2		1	1	4
		※血圧測定	5,357	629	864	1,031	7,881
		※心音等聴取	2,109	253	193	277	2,832
		※血中酸素飽和度測定	5,559	639	927	1,053	8,178
		※心電図測定	4,978	298	548	837	6,661
		保温	243	26	27	38	334
		被覆	19	127	285	92	523
		※在宅療法継続	47		5	8	60
		※除細動	15				15
			111	3	8	11	133
	※静脈路確保	※心肺機能停止前	28	2	3	3	36
		※心肺機能停止後	83	1	5	8	97
			73	1	3	6	83
	※薬剤投与	※アドレナリン	60	1	3	6	70
		※ブドウ糖溶液	13				13
		※血糖測定	106		1	2	109
		その他の処置	5,396	626	895	998	7,915
計		25,686	3,123	4,198	4,803	37,810	
拡大された応急処置等(※印)		18,494	1,824	2,562	3,232	26,113	

※印は平成3年以降に拡大された応急処置等の項目である。

■ 心肺停止傷病者に対し一般市民が電気ショックを行った人数

年	心肺停止状態の傷病者搬送数	電気ショックを行った人数	社会復帰人数
令和4年	230	2	
令和3年	183	1	1
令和2年	199	2	
令和元年	213	3	2
平成30年	200	2	
計	1,025	10	3

平成30年から令和4年の間で、一般市民により10名の方に電気ショックが行われ、その内3名の方が社会復帰しました。

■ 医療機関別搬送人員の状況

(令和4年中)

医療機関名	所在市町村名	収容率	収容人員数
新小山市民病院	小山市	41.1%	3,454
光南病院	小山市	9.6%	804
杉村病院	小山市	4.2%	354
小金井中央病院	下野市	2.9%	241
小山整形外科内科	小山市	3.7%	309
石橋総合病院	下野市	2.9%	242
野木病院	野木町	0.8%	66
自治医科大学附属病院	下野市	9.2%	776
獨協医科大学病院	壬生町	1.1%	96
その他の医療機関		24.6%	2,072
合 計		100%	8,414

※ その他の医療機関とは、表中で示された医療機関以外をいう。

◇救急ステーション事業◇

「救急ステーション」とは AED が設置されている事業所等を「救急ステーション」として認定し、街中で病気や事故により電気ショックが必要になった場合に、事業所等に設置されている AED が使用できる制度です。

(令和 5 年 4 月 1 日現在)

救急ステーション認定事業所等一覧 (146事業所等)		所在地
No.	小山地区 (42事業所等)	
1	小山市役所 市民課窓口	小山市中央町 1-1-1
2	小山市立文化センター	小山市中央町 1-1-1
3	小山市生涯学習センター	小山市中央町 3-7-1 ロブレ 6F
4	角田歯科医院	小山市城山町 1-2-10
5	友井タクシー有限会社 (小山コミュニティバス間々田路線)	小山市城山町 2-12-25
6	友井タクシー有限会社 (小山コミュニティバス市民病院線)	小山市城山町 2-12-25
7	友井タクシー有限会社 (小山コミュニティバス羽川路線)	小山市城山町 2-12-25
8	株式会社足利銀行小山支店	小山市城山町 2-9-23 アトラスタワー小山城山町 103
9	東日本旅客鉄道(株) 小山駅	小山市城山町 3-3-22
10	小山市市民活動センター「おやまーる」	小山市城山町 3-7-5
11	田村歯科医院	小山市若木町 1-19-2
12	岩崎歯科クリニック	小山市花垣町 1-5-33
13	SWS東日本株式会社小山工場	小山市花垣町 2-7-16
14	長井歯科医院	小山市花垣町 2-9-31
15	小山市立やはた保育所	小山市八幡町 2-8-8
16	ネットトヨタ栃木株式会社VWサザン小山	小山市大字神鳥谷 290-1
17	トヨタカローラ栃木株式会社小山神鳥谷店	小山市大字神鳥谷 309
18	ネットトヨタ栃木株式会社小山店	小山市大字神鳥谷 309-1
19	小山市社会福祉協議会	小山市中央町 2-2-21
20	関東自動車株式会社県南営業所 循環バス 1447号車	小山市神鳥谷 2-3-17
21	関東自動車株式会社県南営業所 循環バス 1594号車	小山市神鳥谷 2-3-17
22	関東自動車株式会社県南営業所 循環バス 92号車	小山市神鳥谷 2-3-17
23	ネットトヨタ栃木株式会社レクサス小山	小山市神鳥谷 4-13-35
24	小山総合公園 サイクリングセンター	小山市大字外城 371-1
25	小山市ふれあい健康センター	小山市大字外城 546
26	ライブガーデン小山粟宮スタンダード	小山市大字粟宮 915-1
27	栃木トヨタ自動車株式会社 粟宮店	小山市粟宮 1-14-23
28	平山歯科医院	小山市西城南 2-9-23
29	医療法人城南やぎ歯科医院	小山市東城南 1-6-7
30	小山市小山城南市民交流センター (ゆめまち)	小山市東城南 4-1-12
31	小山市シルバー人材センター	小山市東城南 5-15-8
32	斎藤歯科クリニック	小山市駅南町 1-12-6
33	小山市駅南児童センター	小山市駅南町 2-11-5
34	覚本歯科医院	小山市駅南町 3-26-18
35	石川歯科医院	小山市駅東通り 1-29-12
36	イーグルスポーツプラザ小山	小山市駅東通り 2-4-1
37	小山市立城北保育所	小山市駅東通り 3-15-1
38	医療法人社団悠徳会城北歯科医院	小山市城北 2-14-7
39	東京鋼鐵株式会社 小山工場	小山市城北 4-38-1
40	医療法人岳心会 岩井歯科クリニック	小山市大字稲葉郷 67-27
41	古河産機システムズ株式会社 小山工場	小山市若木町 1丁目 23-15
42	スーパーライブガーデン小山喜沢店	小山市大字稲葉郷 1341-4

No.	大谷地区 (27事業所等)	
43	株式会社小山中央観光バス (小山コミュニティバス思川駅・道の駅線)	小山市大字雨ヶ谷741-1
44	株式会社小山中央観光バス (小山コミュニティバス間々田東西線)	小山市大字雨ヶ谷741-1
45	株式会社小山中央観光バス (小山コミュニティバスハーヴェスト線)	小山市大字雨ヶ谷741-1
46	J O Y F I Tヨークタウン雨ヶ谷	小山市大字雨ヶ谷町60
47	小山市立大谷公民館	小山市大字横倉新田8-2
48	サヤップゴルフフィットネス	小山市大字横倉新田102-1
49	吉浜歯科	小山市大字土塔247-27
50	城東にこにこ保育園	小山市城東1-9-23
51	小山市立中央図書館	小山市城東1-19-40
52	城東内海歯科医院	小山市城東6-1-45
53	トヨタカローラ栃木株式会社小山犬塚店	小山市大字犬塚32-14
54	医療法人社団星野会 星野歯科医院	小山市大字犬塚60-1
55	大山タクシー有限会社 (小山コミュニティバス城東中久喜路線)	小山市犬塚2-8-5
56	大山タクシー有限会社 (小山コミュニティバス土塔平成通り線・デマンド大谷)	小山市犬塚2-8-5
57	大山タクシー有限会社 (小山コミュニティバス高岳路線)	小山市犬塚2-8-5
58	大山タクシー有限会社 (小山コミュニティバス大谷中央路線)	小山市犬塚2-8-5
59	大山タクシー有限会社 (小山コミュニティバス渡良瀬ライン)	小山市犬塚2-8-5
60	小山市勤労青少年ホーム	小山市犬塚3-1-2
61	小山東出張所	小山市犬塚3-1-3
62	J O Y F I T小山犬塚	小山市犬塚4-10-10
63	小山市立中久喜保育所	小山市大字中久喜1093-1
64	渡邊金属運輸株式会社	小山市大字犬塚32番地
65	学校法人ひまわり学園 ひまわり保育園	小山市大字横倉新田287-2
66	栃木県庁小山庁舎	小山市犬塚3-1-1
67	株式会社ツルオカ小山事業所	小山市大字萱橋1085
68	小山市開運スポーツ合宿所	小山市大字向野187
69	東京鉄鋼株式会社 本社工場	小山市大字横倉新田520
No.	絹地区 (4事業所等)	
70	小山市立絹保育所	小山市大字高橋482-1
71	小山市立絹公民館	小山市大字福良1119-1
72	有限会社小山環境美化センター	小山市大字高橋1242
73	メルテック株式会社	小山市大字梁2333-29
No.	豊田地区 (9事業所等)	
74	栃木信用金庫思川支店	小山市大字大行寺974-10
75	白鷗大学	小山市大字大行寺1117
76	小山市立穂積公民館	小山市大字萩島61
77	文化シャッター株式会社ライフイン環境防災研究所	小山市大字上石塚644-1
78	道の駅 思川	小山市大字下国府塚25-1
79	小山市立中公民館	小山市大字下河原田864
80	クロス歯科医院	小山市大字南小林651-1
81	小山市立豊田公民館	小山市大字松沼467
82	栃木県立小山西高等学校	小山市大字松沼741
No.	桑地区 (10事業所等)	
83	ネットトヨタ栃木株式会社トヨタ認定中古車小山店	小山市大字喜沢667
84	栃木トヨタ自動車株式会社 喜沢店	小山市大字喜沢660-130
85	小山市立出井保育所	小山市大字出井1060-1
86	協栄流通株式会社小山物流センター	小山市大字出井1523-19
87	小山市立桑保育所	小山市大字荒井17-4
88	小山市桑市民交流センター マルベリー館	小山市大字羽川858-1
89	栃木県立小山北桜高等学校	小山市大字東山田448-29
90	永井歯科医院	小山市大字南半田2041-5
91	日本たばこ産業株式会社葉たばこ研究所	小山市大字出井1900
92	森永製菓株式会社小山工場	小山市大字出井1523-1

No.	間々田地区 (12事業所等)	
93	栃木県立小山高高等学校	小山市大字間々田23-1
94	小山市間々田市民交流センター(しらさぎ館)	小山市大字間々田1960-1
95	小山市立間々田北保育所	小山市大字間々田2443-1
96	かきのき歯科クリニック	小山市大字南飯田494-3
97	小山市立網戸保育所	小山市大字網戸758-1
98	小山市立寒川公民館	小山市大字中里869-1
99	小山市立生井公民館	小山市大字生良1054-2
100	有限会社 菜匠	小山市大字檜木275-12
101	小山市立博物館	小山市乙女1-31-7
102	東日本旅客鉄道(株) 間々田駅	小山市乙女3丁目16
103	株式会社オリジン間々田工場	小山市暁3-10-5
104	小山市立もみじ保育所	小山市暁3-11-2
No.	野木地区 (42事業所等)	
105	野木町立野木中学校	野木町大字潤島800-1
106	日東工業株式会社栃木野木工場	野木町大字川田1-5
107	野木町総合運動公園	野木町大字佐川野916
108	(株)アイザックパッケージ事業本部野木工場	野木町大字佐川野1075-1
109	野木町立佐川野小学校	野木町大字佐川野1808
110	野木町立文化会館(エニスホール)	野木町大字友沼181
111	野木町立友沼小学校	野木町大字友沼916
112	野木町ボランティア支援センター(きらり館)	野木町大字友沼4930-1
113	野木町立新橋小学校	野木町大字友沼5110-2
114	新橋児童館	野木町大字友沼5110-5
115	株式会社ヤオコー野木店	野木町大字友沼5309
116	野木町老人福祉センター(ホープ館)	野木町大字友沼5840-7
117	野木町立南赤塚小学校	野木町大字中谷508
118	ライブガーデン野木	野木町大字野木122-6
119	ゼブラ株式会社野木工場	野木町大字野木140
120	日本ピストンリング(株)栃木工場 野木分工場	野木町大字野木141-5
121	栃木日信株式会社	野木町大字野木141-7
122	トーゼロ・ロジスティックス株式会社	野木町大字野木142-1
123	栄研化学株式会社野木事業所	野木町大字野木143
124	株式会社CSIジャパン	野木町大字野木148
125	日本ピストンリング株式会社栃木工場	野木町大字野木1111
126	杏林製薬(株) わたらせ創薬センター	野木町大字野木1848
127	野木町立野木小学校	野木町大字野木2450-1
128	野木町交流センター(野木ホフマン館)	野木町大字野木3324-10
129	野木町立野木第二中学校	野木町大字野木4048
130	医療法人杉田歯科医院	野木町大字丸林150-2
131	野木町立図書館	野木町大字丸林234-2
132	U Dental Clinic	野木町大字丸林284-3
133	東日本旅客鉄道(株) 野木駅	野木町大字丸林332-1
134	株式会社足利銀行野木支店	野木町大字丸林393
135	カープス野木丸林	野木町大字丸林417-47
136	マツモトキヨシ野木店	野木町大字丸林565-1
137	野木町役場(役場本館・新館)	野木町大字丸林571
138	野木町役場(保健センター)	野木町大字丸林571
139	野木町公民館	野木町大字丸林571
140	野木町総合サポートセンター「ひまわり館」	野木町大字丸林582-1
141	せきぐち歯科医院	野木町大字丸林645-4
142	セキショウカーライフ(株)Dr.Drive 野木丸林店	野木町大字丸林647-2
143	野木町立あかつか児童センター	野木町大字南赤塚778-40
144	小山広域保健衛生組合 南部清掃センター	野木町大字南赤塚1513-2
145	野木町健康センター(ゆ〜らんど)	野木町大字南赤塚1514-1
146	社会福祉法人バステル	野木町大字若林443-7

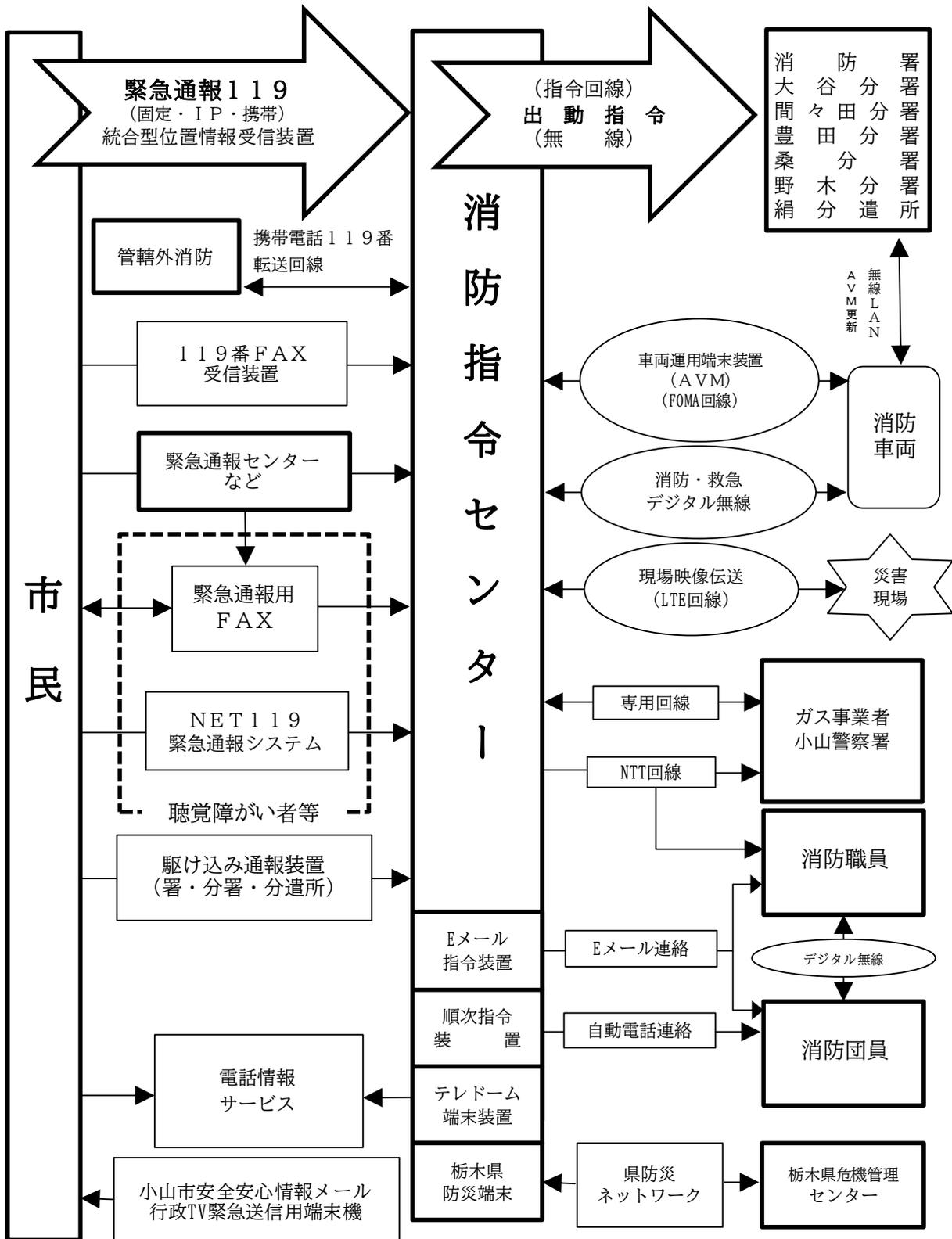
通信編

通信編



■ 通信指令施設系統図

(令和5年4月1日現在)



■ 高機能消防指令センター内機器構成

(令和5年4月1日現在)

	項 目	数量
1	指令台	3
2	拡帳台	1
3	自動出動指定装置/地図検索装置	12
4	障害アラーム装置	1
5	車両運用表示盤	1
6	支援情報表示盤	1
7	多目的情報表示盤(46インチ×4面マルチ)	1
8	スピーカ	2
9	映像制御装置	2
10	音片編集用・長時間録音再生ダビング用パソコン	1
11	管理監視制御卓	1
12	Eメール指令管理端末	1
13	警察電話	1
14	衛星電話	2
15	栃木県防災情報システム一式	1
16	Bizネットファックス	1
17	(市)庁内FAX	1
18	119番FAX受信装置	1
19	指令情報出力装置プリンター	1
20	現場映像用タブレット	1
21	気象情報通信装置	1
22	NET119緊急通報受信装置	1
23	データメンテナンス装置	1
24	システム監視装置	1
25	セキュリティ装置	1
26	遠隔制御器(消防波・救急波)	2
27	遠隔制御器(0D)(消防波予備・救急波予備)	2
28	遠隔制御器(主運用波・統制波1～3)	4

■ 無線通信設備

(令和5年4月1日現在)

種別 配置場所	基地局	移動局		受令機	合計
	出力	車載用	携帯用	デジタル	
		デジタル	デジタル		
		出力	出力		
5W	5W	1～5W			
消防本部	1	4		2	7
消防署		15	14	1	30
大谷分署		4	4	1	9
間々田分署		4	5	1	10
野木分署		4	4	1	9
豊田分署		4	4	1	9
桑分署		4	4	1	9
絹分遣所		2	4	1	7
消防団		40	2		42
野木町役場				2	2
合計	1	81	41	11	134

※野木町役場の受令機は署所端末型と車載型の2種類

■ 防災行政ネットワーク

(令和5年4月1日現在)

種別	設置数
衛星回線	1
直通電話機	1
防災行政用FAX	1
栃木県防災情報システム	1
栃木県防災行政無線移動系	1
合計	5

■ 覚知方法別受信状況

(令和4年中)

種別 覚知方法		火災	救急 (PA)	救助	その他	問合せ	訓練 試験	悪戯 無応答	間違い	合計
119	固定電話	17	1,238	3	14	148	541	4	112	2,077
	I P 電話	10	2,697	6	15	206	350	2	68	3,354
	携帯電話	66	4,699	44	53	977	90	10	486	6,425
加入電話		6	141	9	32	3,502	28			3,718
警察専用電話		13	315	31	17	2,460	23		1	2,860
NET119			1				400			401
FAX119							7			7
その他			74	4	21		101			200
合計		112	9,165	97	152	7,293	1,540	16	667	19,042

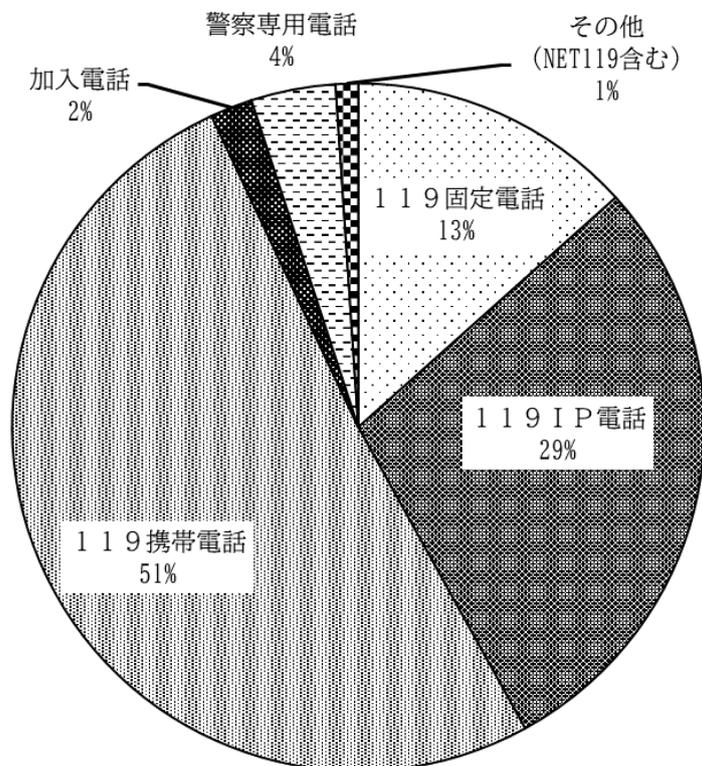
※1 網掛けは、緊急通報の件数を示す。

2 種別は、受信時に判断されたもので計上している。(同報を含む)

3 その他は、自己覚知(職員が直接発見し覚知したもの)、駆け付け通報などによるもの。

令和3年	16,787
令和2年	16,685
令和元年	18,943

■ 緊急通報の覚知方法別割合



■ 119番転送状況

(令和4年中)

		火災	救急	救助・その他	問い合わせ	合計
他消防からの受信件数	いばらき消防指令センター	1	72	2	9	84
	栃木市消防本部	1	43		2	46
	石橋地区消防組合	2	33	2	1	38
	その他県内消防本部		9	1	1	11
	その他県外消防本部		21		3	24
	合計	4	178	5	16	203
他消防への転送件数	いばらき消防指令センター	1	154	1	12	168
	栃木市消防本部		44	2	3	49
	石橋地区消防組合	1	50	2	2	55
	その他県内消防本部		13			13
	その他県外消防本部		27		2	29
	合計	2	288	5	19	314

携帯電話からの県境界や市町境界から119番通報した場合、管轄する消防本部につながらないことがあるため、各消防本部間で電話を転送しています。

また、固定電話及びIP電話から119番通報し、受信した消防本部の管轄しない遠方地への救急要請の場合でも転送しています。

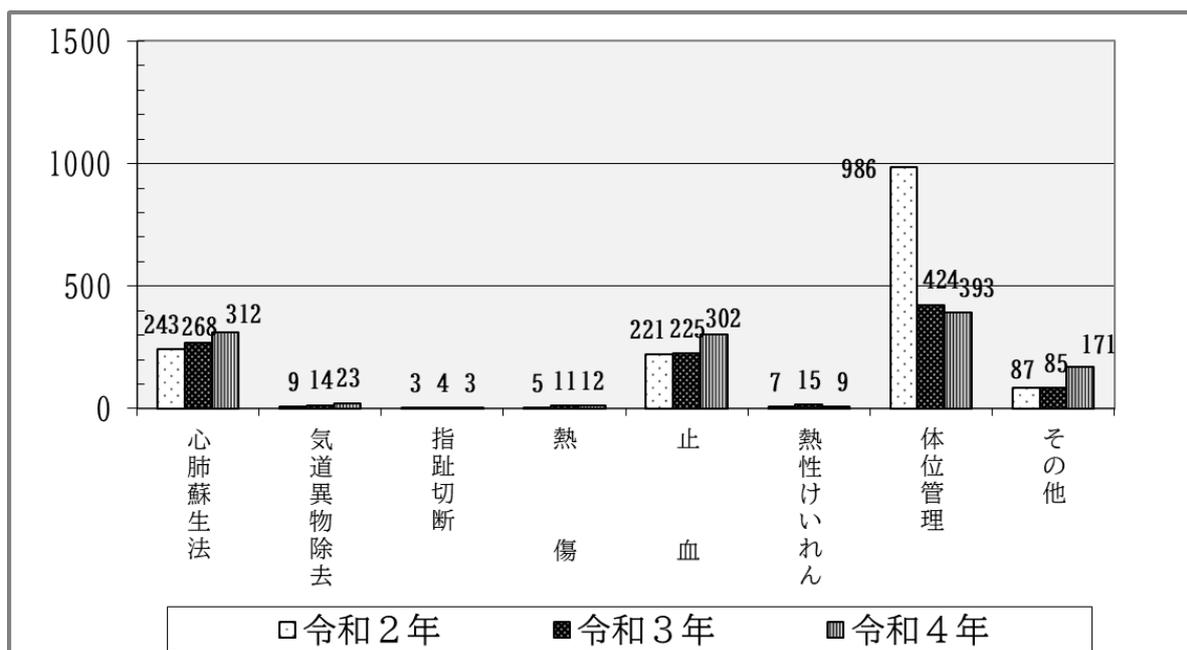
■ 緊急通報システムからの受信状況

(令和4年中)

	小山市	野木町	合計
救急	42	14	56

緊急通報システムは、一人暮らしの高齢者が急病や災害等の緊急時に、専用の装置で緊急通報センターへ通報し、必要に応じてセンターが救急車の手配等をするシステムです。

■ 119番入電時における口頭指導実施件数の推移



119番入電時に傷病者の容態を聴取後、容態にあった応急処置を指導した件数を表にしています。その他は、傷病者の体位管理や、継続的な容態の観察などの指導を実施したものです。

■ テレホンサービス案内

月種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和4年中	令和3年中	令和2年中
火災案内	8	12	8	4	4	6	9	8	7	9	5	14	94	84	89
災害案内	103	99	88	81	97	146	146	160	147	132	144	178	1,521	925	1,011
救急病院案内	55	50	57	55	52	56	56	56	54	56	54	58	659	659	647
合計	166	161	153	140	153	208	211	224	208	197	203	250	2,274	1,668	1,747

このテレホンサービスは、火災や災害（救急を除く）情報並びに当日の救急当番病院、休日急患診療所の案内を発信しているものです。火災案内・災害案内・救急病院案内の件数は、消防本部において提供する情報を入力した件数です。

■ 小山市安全安心情報メール配信状況

小山市では、平成19年6月1日から「小山市安全安心情報配信事業」として、市民向け携帯電話メール情報配信サービスを開始しました。内容は、火災情報や気象情報などを登録されたメールアドレスへ配信しています。

ここでは、消防本部が下記の情報を配信した件数を表にしています。

種別	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和4年中	令和3年中	令和2年中
火災情報		2		2		2	5						2	13	16	15
気象情報			3	1			10	13	4	5				36	31	39
地震情報				1	1	2	2			1		2		9	8	15
その他		1	2	1		2	2	5	2			5		20	16	25
計		3	5	5	1	6	19	18	6	6		7	2	78	71	94

- 1 火災情報は、半焼以上の建物火災や社会的影響度の高いものを配信しています。
- 2 気象情報は、各気象警報発令時に配信しています。
- 3 地震情報は、震度3以上を配信しています。
- 4 その他は、JR運行状況、停電、橋の通行止め情報など、必要に応じて防災に関する情報を配信しています。

<気象情報>

火災や風水害等は、災害発生時の気象状況に関係するところが大きいため、当本部では、気象庁や地方気象台等から各種の気象情報を収集するほか、自らも気象観測を行い、災害の予知・予防と警戒防ぎょ活動に活用しています。

■ 月別気象概要

(令和4年中)

気 象 月	気 温			湿 度		風 速			雨 量	
	平 均 気 温 ℃	最 低 気 温 ℃	最 高 気 温 ℃	平 均 湿 度 %	最 低 湿 度 %	平 均 風 速 m/s	最 多 風 向	最 大 風 速 m/s	雨 量 mm	一 日 最 大 雨 量 mm
1月	3.1	-7.1	14.0	67.1	25.5	2.3	西	20.6	6.0	4.5
2月	3.9	-4.7	16.3	66.0	22.5	2.3	北	20.1	42.0	18.5
3月	9.8	-1.5	25.6	72.7	18.3	1.9	東北東	19.8	80.5	36.5
4月	14.7	0.6	28.5	81.9	17.2	1.6	南東	18.1	137.0	30.5
5月	18.4	7.7	33.9	81.6	24.1	1.5	南東	14.5	156.5	44.5
6月	23.0	16.9	34.3	87.9	40.8	1.5	南東	14.9	187.0	47.0
7月	27.3	21.3	38.2	87.0	44.1	1.4	南東北東	17.0	152.0	46.5
8月	27.1	18.8	38.3	87.6	41.6	1.3	南	14.2	62.0	28.0
9月	23.9	15.3	32.9	89.3	38.3	1.4	東北東	14.6	222.0	86.5
10月	16.4	5.9	30.3	86.2	42.7	1.4	北	11.8	100.0	42.5
11月	12.8	4.6	22.8	86.0	38.6	1.2	北	13.3	57.5	33.5
12月	5.7	-1.9	15.3	77.9	31.1	1.9	北	19.5	40.0	23.0

種別 年	最高気温観測日		最低気温観測日		最大風速観測日		最大雨量観測日		年間総雨量
令和4年	8月2日	38.3℃	1月7日	-7.1℃	1月14日	20.6m/s	9月24日	86.5mm	1242.5mm
令和3年	8月10日	36.6℃	1月9日	-6.8℃	7月11日	26.0m/s	10月1日	55.0mm	1214.5mm
令和2年	8月11日	39.6℃	2月7日	-5.2℃	3月5日	25.5m/s	4月18日	66.5mm	1180.5mm

■ 気象通報受理状況

(令和4年中)

区 分		月 別												合 計	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
注 意 報	強 風	2	2	6	1				1	1		1	5	19	
	大 雨					2	1	5		4				12	
	大 雪		2	1										3	
	濃 霧	3	2	6	7	11	14	6	7	4	7	17	6	90	
	雷	1	1	3	3	6	12	16	16	5	2		1	66	
	乾 燥	2	3	7	2	1					1	1	5	22	
	着 氷 ・ 着 雪		2	1											3
	霜			2	7	2									11
	低 温	11	6												17
	報	洪 水					1	1	1		1				4
	風 雪														
	な だ れ														
警 報	暴 風														
	暴 風 雪														
	大 雨							2		2				4	
	大 雪														
	洪 水														
特 別 警 報	大 雨														
	暴 風														
	暴 風 雪														
	大 雪														
情 報	台 風 (総合情報)							19	21	80				120	
	土 砂 災 害														
	竜 巻						10	8	3					21	
	気象に関する 府 県 情 報		11	4	1	4	20	49	31	16	1		1	138	
計		19	29	30	21	27	58	106	79	113	11	19	18	530	

- 1 宇都宮地方気象台から栃木県南西部（小山市）に発令された件数を計上している。
- 2 気象情報発表から解除までを1回として計上している。
- 3 解除が翌月（翌年）にまたがるものは、当月（当年）に受理したものとして計上している。

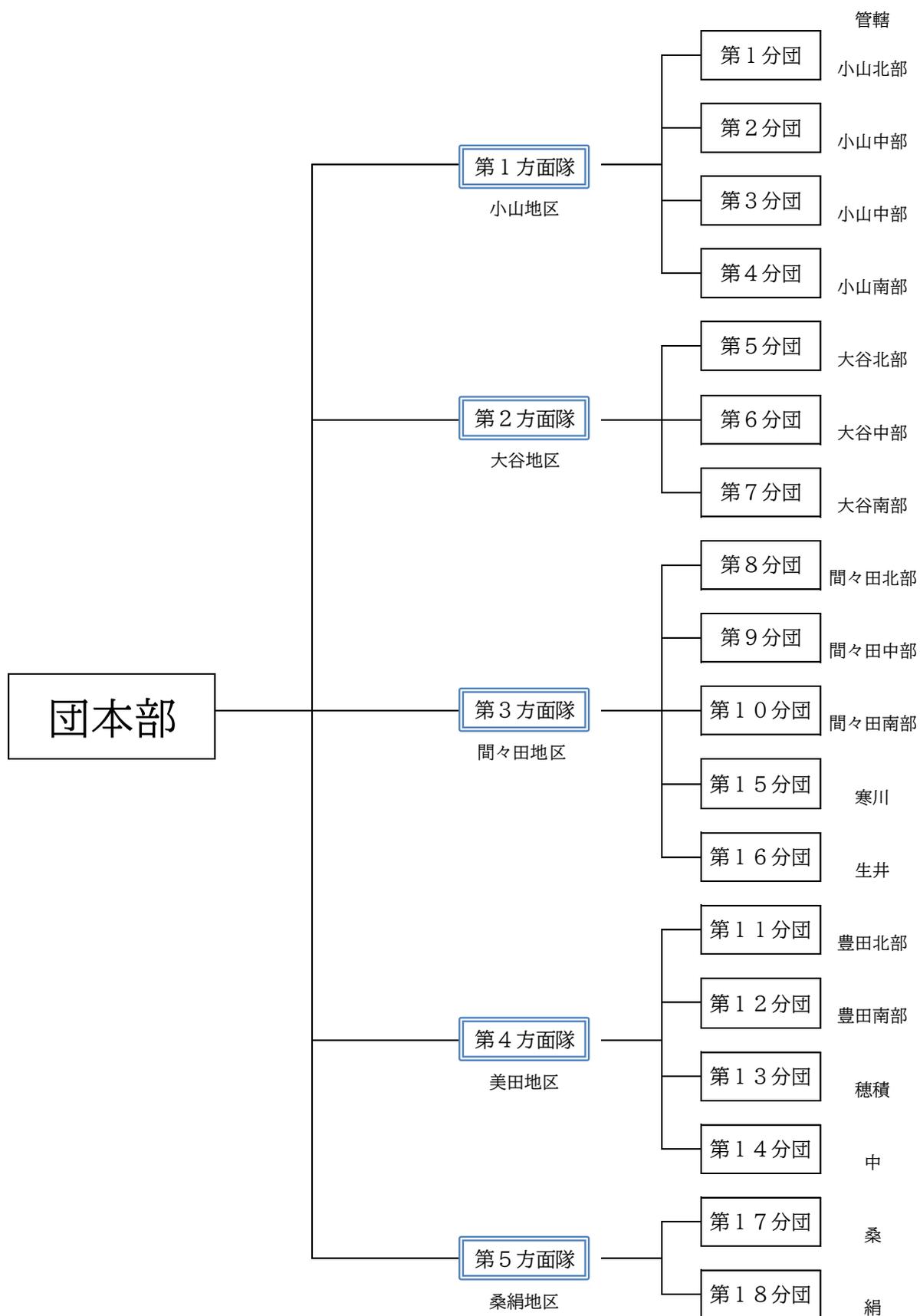
消防団編



消防団編

■ 小山市消防団組織

(令和5年4月1日現在)



■ 団員職名別配置状況

(令和5年4月1日現在)

職名	分団名	定員	実員	団長	副団長	本部員	分団長	副分団長	部長	班長	団員
基本 消 防 団 員	団本部	31	20	1	4	6			1		8
	うち女性		6						1		5
	第1分団	26	26				1	1	2	2	20
	第2分団	29	28				1	1	2	4	20
	第3分団	39	38				1	1	2	4	30
	第4分団	25	21				1	1	1	3	15
	第5分団	34	32				1	1	1	4	25
	第6分団	29	29				1	1	1	2	24
	第7分団	30	30				1	1	1	3	24
	第8分団	29	28				1	1	2	2	22
	第9分団	30	24				1	1	2	2	18
	第10分団	46	45				1	1	3	6	34
	第11分団	37	37				1	1	3	3	29
	第12分団	37	37				1	1	3	3	29
	第13分団	37	37				1	1	3	3	29
	第14分団	37	37				1	1	3	3	29
	第15分団	31	32				1	1	2	4	24
	第16分団	31	31				1	1	2	4	23
	第17分団	46	44				1	1	3	3	36
	第18分団	50	49				1	1	3	3	41
小計	654	625	1	4	6	18	18	40	58	480	
うち女性		6						1		5	
機能別 消 防 団 員	市役所	200	82	/							82
	うち女性		45								45
	大学生		5								5
	うち女性										
	OB		15								15
	うち女性										
	事業所		20								20
うち女性											
小計	200	122	/							122	
うち女性		45								45	
全体	合計	854	747	1	4	6	18	18	40	58	602
	うち女性		51						1		50

■ 基本消防団員職名別年齢

(令和5年4月1日現在)

年齢 \ 職名	計	団 長	副団長	本部員	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
20才 未満	0								
20 ~ 24	9							2	7
25 ~ 29	20							2	18
30 ~ 34	48				1			6	41
35 ~ 39	92					3	7	8	74
40 ~ 44	135			2	3	4	14	12	100
45 ~ 49	142				8	1	11	15	107
50 ~ 54	70			1	1	5	2	6	55
55 ~ 59	57		2	2	4	5	4	4	36
60才 以上	52	1	2	1	1		2	3	42
計	625	1	4	6	18	18	40	58	480

■ 基本消防団員勤続年数状況

(令和5年4月1日現在)

勤続年数 \ 団員数	5年未満	5年～ 9年	10年～ 14年	15年～ 19年	20年～ 24年	25年～ 29年	30年以上
625	233	191	79	44	39	19	20

■ 基本消防団員平均年齢

平均年齢 45.2歳 (最高年齢73歳・最少年齢20歳)

■ 機能別消防団員区分別年齢

(令和5年4月1日現在)

区分 年齢	計	市役所	大学生	OB	事業所
20才 未満	3	2	1		
20 ~ 24	49	45	4		
25 ~ 29	28	28			
30 ~ 34	7	5		1	1
35 ~ 39	2				2
40 ~ 44	8			4	4
45 ~ 49	10	2		4	4
50 ~ 54	4			1	3
55 ~ 59	2				2
60才 以上	9			5	4
計	122	82	5	15	20

■ 団員職名区分別年額報酬

(令和5年4月1日現在)

基本消防団員							
団長	副団長	本部員	分団長	副分団長	部長	班長	団員
円	円	円	円	円	円	円	円
239,000	179,000	146,000	113,000	91,000	86,000	75,000	68,000

機能別消防団員			
市役所	大学生	O B	事業所
無償	円 3,000	無償	円 5,000

■ 出動報酬

(令和5年4月1日現在)

区 分	支給単位	報酬額	摘 要
災害の場合	1日につき	8,000円	従事時間が7時間45分以上の場合
		4,000円	従事時間が7時間45分未満の場合
警戒の場合	1日につき	2,000円	
訓練等の場合	1日につき	2,000円	

■ 歴代消防団長

歴代団長指名		就 任 期 間
初代	寺 内 金太郎	昭和23年6月1日～昭和38年3月31日
2代	廣 江 寛 一	昭和38年4月1日～昭和48年3月31日
3代	小野瀬 楠 雄	昭和48年4月1日～昭和53年3月31日
4代	横 田 覚 一	昭和53年4月1日～昭和54年3月31日
5代	菅 沼 浩	昭和54年4月1日～昭和58年3月31日
6代	小 林 榮 助	昭和58年4月1日～昭和63年3月31日
7代	武 井 義 雄	昭和63年4月1日～平成 3年3月31日
8代	高 橋 和 甲	平成 3年4月1日～平成 6年3月31日
9代	水 野 好 二	平成 6年4月1日～平成 9年3月31日
10代	池 田 毅	平成 9年4月1日～平成16年3月31日
11代	坂 本 定 男	平成16年4月1日～平成20年3月31日
12代	池 田 清	平成20年4月1日～平成25年3月31日
13代	五十畑 哲 義	平成25年4月1日～平成29年3月31日
14代	稲 葉 茂	平成29年4月1日～令和 4年3月31日
15代	荒 川 政 昭	令和 4年4月1日～現在に至る

■ 消防団車庫概要

(令和5年4月1日現在)

分団	部	所在地	構造	延面積 (㎡)	建築年月日	サイレン
1	1	本郷町3-3-1	木造2階カラー鉄板瓦棒葺	39.74	S57.3.25	
	2	城北5-12-10	〃	39.74	S61.7.30	○
2	1	中央町2-2-22	木造2階カラー鉄板瓦棒葺	39.74	S57.10.12	
	2	中央町1-1-65	軽量鉄骨2階プレハブ造り	70.60	H14.12.9	
3	1	宮本町2-5-14	C B 造 2 階	44.10	※	
	4	駅南町3-23-11	木造2階カラー鉄板瓦棒葺	46.36	S63.11.17	○
4		神鳥谷6-4-8	〃	39.74	S59.2.15	
5		犬塚2-8-11	〃	52.98	H4.1.29	
6		横倉新田184-3	〃	46.36	H5.3.24	○
7		東野田2341-38	〃	52.98	H12.2.21	○
8	1	栗宮1451-1	〃	46.36	S63.11.8	○
	2	西黒田313	〃	39.74	S58.10.11	○
9	1	間々田1320-1	木造平家トタン葺	43.00	S59.3.21	
	2	間々田2435-6	木造平家	62.94	H25.2.1	○
10	1	南飯田261-4	木造2階カラー鉄板瓦棒葺	52.98	H13.2.7	○
	2	乙女2-21-6	軽量鉄骨2階プレハブ造り	70.60	H20.10.28	
	3	乙女998-1	木造2階カラー鉄板瓦棒葺	39.74	S59.12.25	○
11	1	小薬267	〃	52.98	H4.1.29	○
	2	小宅647-2	〃	39.74	S59.9.28	○
	3	島田456	〃	52.98	H11.12.6	○
12	1	松沼489	〃	46.36	H3.1.29	○
	2	立木395-7	軽量鉄骨2階プレハブ造り	70.60	H14.1.8	
	3	卒島753	木造2階カラー鉄板瓦棒葺	46.36	H1.12.11	○
13	1	大行寺276	〃	52.98	H10.1.9	○
	2	萩島52	〃	39.74	S57.12.25	○
	3	間中1369-1	〃	39.74	S60.8.29	○
14	1	南小林109	〃	46.36	S62.11.12	○
	2	下泉480-1	〃	39.74	S60.8.29	○
	3	下初田582-1	〃	46.36	H5.3.24	○
15	1	中里869-1	〃	46.36	S62.8.26	○
	2	寒川1096-4	〃	46.36	H2.1.11	○
16	1	網戸1247-2	〃	46.36	S62.12.8	○
	2	下生井1228-2	〃	46.36	S61.12.22	○
17	1	羽川139	〃	39.74	S57.2.25	
	2	鉢形109-1	〃	52.98	H8.11.6	○
	3	飯塚474-1	〃	46.36	H1.12.11	○
18	1	延島2168-1	〃	46.36	H3.1.29	○
	2	福良1119-1	木造平家カラー鉄板瓦棒葺	39.74	S61.8.11	○
	3	福良193-2	木造2階カラー鉄板瓦棒葺	52.98	H6.3.8	○

※第3分団1部については、昭和41年に自治会から寄贈。

※サイレンとは、消防団出動信号や水防信号等を吹鳴することができるサイレンが設置されている消防団車庫をいう。

■ 消防団車両一覧表

(令和5年4月1日現在)

No.	分団	部	種別	車名	ポンプ型式	ミッション	燃料	車両総重量 (kg)		登録年月	登録番号「とちぎ」	備考
1	団本部		広報車	日産		AT	無鉛	2,010		H15. 6.	830と119	
2	1	1	CD-I	トヨタ	1段ポリュート	AT	軽油	3,400	○	R3. 12.	830に101	
3		2	//	トヨタ	2段タービン	AT	軽油	4,240		H28.10.	830て102	
4	2	1	//	日野	1段ポリュート	AT	軽油	4,160		H29. 9.	830す201	
5		2	//	いすゞ	3段タービン	MT	軽油	4,290		H15. 2.	800さ2808	
6	3	1	//	トヨタ	//	AT	軽油	3,430	○	R5. 3.	830つ301	※
7		4	//	//	//	AT	軽油	4,150		H19.12.	830さ304	
8	4		//	//	2段タービン	AT	軽油	4,200		H25.10.	830さ400	
9	5		//	いすゞ	3段タービン	MT	軽油	4,290		H15.11.	800さ3355	
10	6		//	日野	1段ポリュート	AT	軽油	4,190		H30. 7.	830さ600	
11	7		//	いすゞ	2段タービン	AT	軽油	3,380	○	R5. 3.	830そ700	
12	8	1	//	トヨタ	1段ポリュート	AT	軽油	3,390	○	R1. 10.	830せ801	
13		2	積載車	日産	可搬ポンプ	MT	無鉛	2,640	○	H13. 9.	800さ1812	
14	9	1	CD-I	日野	3段タービン	AT	軽油	4,230		H18.11.	800さ5024	
15		2	//	いすゞ	2段タービン	AT	軽油	3,390	○	R5. 3.	830す902	
16	10	1	積載車	日産	可搬ポンプ	MT	無鉛	2,540	○	H14.10.	800さ2617	
17		2	CD-I	日野	2段タービン	AT	軽油	4,180		H20.11.	830す1002	
18		3	//	いすゞ	//	MT	軽油	4,290		H15.11.	800さ3354	
19	11	1	//	日野	1段ポリュート	AT	軽油	4,160		H29. 9.	830せ1101	
20		2	積載車	日産	可搬ポンプ	AT	無鉛	2,720	○	H20. 1.	830た1102	
21		3	//	//	//	AT	無鉛	2,720	○	R2. 11.	830そ1103	
22	12	1	//	//	//	AT	無鉛	2,660	○	H26. 9.	830せ1201	
23		2	//	//	//	MT	無鉛	2,630	○	H14. 1.	800さ2088	
24		3	CD-I	トヨタ	3段タービン	AT	軽油	4,170		H22.12.	830さ1203	
25	13	1	//	//	1段ポリュート	AT	軽油	3,400	○	R3. 12.	830す1301	
26		2	積載車	日産	可搬ポンプ	AT	無鉛	2,440	○	H17.10.	800さ4489	
27		3	//	//	//	AT	無鉛	2,440	○	H16.11.	800さ3978	
28	14	1	CD-I	日野	3段タービン	AT	軽油	4,230		H18.11.	800さ5025	
29		2	積載車	日産	可搬ポンプ	AT	無鉛	2,440	○	H16.11.	800さ3977	
30		3	//	//	//	AT	無鉛	2,770	○	H24. 6.	830さ1403	
31	15	1	//	//	//	AT	無鉛	2,440	○	H16.11.	800さ3979	
32		2	CD-I	いすゞ	2段タービン	AT	軽油	4,630		H27. 2.	800さ8005	※
33	16	1	//	日野	1段ポリュート	AT	軽油	4,190		H30. 7.	830す1601	
34		2	//	いすゞ	//	MT	軽油	4,310		H17.11.	800さ4499	
35	17	1	//	トヨタ	2段タービン	AT	軽油	4,330		H21.12.	830さ1701	
36		2	//	//	1段ポリュート	AT	軽油	3,390	○	R2. 10.	830さ1702	
37		3	//	//	2段タービン	AT	軽油	4,330		H21.12.	830す1703	
38	18	1	//	日野	2段タービン	AT	軽油	4,290		H24. 2.	830さ1801	
39		2	//	トヨタ	1段ポリュート	AT	軽油	3,390	○	R1. 10.	830さ1802	
40		3	//	//	//	AT	軽油	4,240		H28.10.	830さ1803	

(備考)

種別 広報車・・・広報車 1台 (軽可搬消防ポンプ一式1台)
 CD-I・・・消防ポンプ自動車 28台
 積載車・・・小型動力消防ポンプ付積載車 11台

ミッション AT・・・オートマチックトランスミッション MT・・・マニュアルトランスミッション

車両総重量 (kg) ○・・・車両総重量3,500kg未満の車両

備考 ※・・・消防庁消防団無償貸付車両

■ 月別分団別火災、災害事故及び水防の出動回数

(令和4年中)

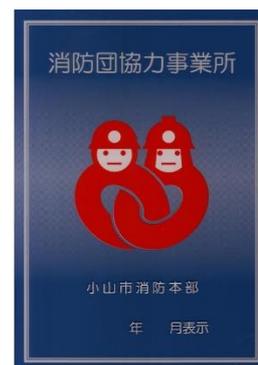
分団別	月												合計	令和3年	令和2年
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
第1分団														5	7
第2分団														2	1
第3分団						1							1	3	4
第4分団						1							1	1	3
第5分団						1							1	3	4
第6分団						1							1	2	2
第7分団					1	1							2		1
第8分団					1								1		2
第9分団					1								1		2
第10分団			1			1							2	1	
第11分団								1					1	1	1
第12分団														1	1
第13分団														1	1
第14分団															1
第15分団			1			1							2	1	1
第16分団			1			1							2	1	
第17分団	1							1			1		3	4	6
第18分団	1						1				1		3	3	5
計	2		3		3	8	1	2			2		21	29	42
管轄外出動															

※管轄外活動とは、小山市外の火災等に出動した場合をいう。

◇小山市消防団協力事業所表示制度◇

小山市消防団協力事業所表示制度とは、事業所の消防団活動への協力が社会貢献として広く認められると同時に、事業所の協力を通じて、地域防災体制がより一層充実されることを目的とした制度です。

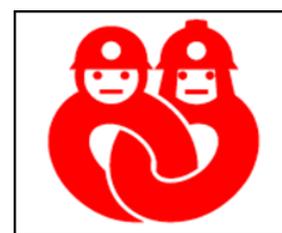
消防団協力事業所として認められた事業者は、取得した表示を社屋に掲示でき、表示証のマークを自社ホームページ、印刷物などで広く公表することができます。



(表示証)

◇表示マークについて◇

事業所の消防団への協力を消防団員と事業所の従業員をイメージした輪の連結を力強く表現し、また、ハート型は地域を思う心を併せて表現しています。



◆協力事業所一覧◆

(令和5年4月1日現在)

No.	事業所名	所在地	初回交付日
1	株式会社 小松製作所 小山工場	小山市大字横倉新田400	平成22年2月19日
2	昭和電工株式会社 小山事業所	小山市大字犬塚1-480	平成22年2月19日
3	東京鐵鋼株式会社 本社工場	小山市大字横倉新田520	平成22年2月19日
4	株式会社 三英社製作所 小山事業所	小山市大字西黒田87	平成22年2月19日
5	小山農業協同組合	小山市神鳥谷1-11-32	平成22年2月19日
6	株式会社 東光高岳 小山事業所	小山市大字中久喜1440	平成23年2月15日
7	古河産機システムズ株式会社 小山工場	小山市若木町1-23-15	平成23年2月15日
8	株式会社 釜徳商店	小山市中央町2-2-5	平成23年2月15日
9	学校法人 白鷗大学	小山市駅東通り2-2-2	平成24年3月2日
10	株式会社 板橋組	小山市城山町1-3-26	平成24年3月2日
11	潮田建設株式会社	小山市駅東通り2-39-11	平成24年3月2日
12	株式会社 斉藤組	小山市大字飯塚484	平成24年3月2日
13	よつ葉生活協同組合	小山市大字粟宮1223	平成25年2月13日
14	株式会社 青木組	小山市乙女2-30-8	平成25年2月13日
15	株式会社 デンソーテン	小山市大字西黒田91	平成25年2月13日
16	東京鋼鐵株式会社 小山工場	小山市城北4-38-1	平成25年2月13日
17	株式会社 ヨロズ 栃木	小山市大字横倉新田443	平成26年3月4日
18	栃木県南農業共済組合 県南支所	小山市大字立木567	平成26年3月4日

No.	事業所名	所在地	初回交付日
19	富士通株式会社 小山工場	小山市城東3-28-1	平成26年3月4日
20	株式会社 松本組	小山市城東1-8-29	平成27年3月3日
21	信末設備工業	小山市大字乙女447	平成27年3月3日
22	イワタニ関東株式会社 小山営業所	小山市大字梁2075-6	平成27年3月3日
23	光洋建設株式会社	小山市大字喜沢689	平成28年3月10日
24	いなば建設株式会社	小山市大字大行寺1205-3	平成28年3月10日
25	株式会社 小林鑿泉工業所	小山市大字寒川1715	平成28年3月10日
26	山形軌道有限会社	小山市大字三拝川岸239-1	平成28年3月10日
27	株式会社 トチナン	小山市大字乙女1339	平成29年3月27日
28	株式会社 山中鑿泉工業	小山市大字塚崎1073-1	平成29年3月27日
29	株式会社 荒川電気工業	小山市大字中久喜1733-1	平成29年3月27日
30	有限会社 アイ企画	小山市大字南和泉1307-7	平成29年3月27日
31	館野建築	小山市大字南和泉425-3	平成29年3月27日
32	株式会社 山中組	小山市大字間々田1567	平成29年4月7日
33	老沼総合建設株式会社	古河市上辺見795-1	平成29年6月12日
34	有限会社 タケシ工業	小山市大字神鳥谷291-1	平成29年11月8日
35	山さく建工株式会社	小山市大字塚崎1414	平成29年11月10日
36	株式会社 鶴見電機	小山市大字粟宮858-4	平成29年12月19日
37	株式会社 嶋田工務店	小山市大字外城176	平成30年1月19日
38	渡辺設備工業所	小山市大字下生井1535	平成30年2月21日
39	有限会社 関東実行センター	小山市大字外城157-3	平成30年3月5日
40	末柄工業株式会社	小山市大字鉢形18-3	平成30年4月17日
41	坂本工業株式会社	小山市大字粟宮777-2	平成30年5月7日
42	株式会社 アスライブ	小山市大字粟宮1-9-9	平成30年5月28日
43	株式会社 田村緑化工業	小山市大字間々田1021	平成30年6月14日
44	株式会社 荒井工業	小山市大字南小林267-2	平成30年9月12日
45	株式会社 バコーポレーション 小山工場	小山市大字犬塚996	平成31年3月1日
46	株式会社 中山設備機器	小山市大字中久喜198	令和元年10月1日
47	株式会社 旭野組	小山市乙女2-23-33	令和2年3月4日
48	有限会社 松嶋造園	小山市駅東通り3-36-2	令和2年3月26日
49	株式会社 青木工務店	小山市大字卒島112	令和2年3月26日
50	株式会社 荒川造園	小山市大字南半田94-1	令和2年9月9日
51	有限会社 小山総合警備	小山市大字松沼1124-5	令和2年9月9日

No.	事業所名	所在地	初回交付日
52	株式会社長工業	小山市大字羽川484-4	令和3年4月15日
53	有限会社青木電機	小山市大字大行寺1108-32	令和3年11月18日
54	株式会社大河原塗装工業	小山市大字横倉536-4	令和3年11月18日
55	北関東フジクリーン管理株式会社	小山市東間々田3-25-23	令和3年11月18日
56	株式会社大出電機	小山市神鳥谷6-6-29	令和3年11月18日
57	虎屋電機株式会社	小山市乙女2-26-8	令和3年11月18日
58	株式会社乃木鈴建設産業	小山市西城南3-1-28	令和3年11月18日
59	株式会社船田土木	小山市大字間々田759-6	令和3年11月18日
60	株式会社保坂建築事務所	小山市大字横倉新田172-28	令和4年5月20日
61	株式会社飯野	小山市八幡町2-2-2	令和4年6月20日
62	株式会社オオシマ	小山市神鳥谷5-2-7	令和4年7月19日
63	有限会社富士川産業	小山市大字出井1970-2	令和4年8月15日
64	株式会社イソベ建設	小山市大字網戸742-9	令和4年10月18日

◇小山市消防団サポート事業◇

消防団サポート事業とは、各事業所が「消防団サポート事業所」として様々な形で消防団を応援することで、地域貢献を促進するとともに消防団の認知度向上を図り、相乗効果による事業所と消防団双方のイメージアップを目的とした制度です。消防団サポート事業所として認められた事業者は、取得した表示証を社屋に掲示でき、表示証のマークを自社ホームページ、印刷物などで広く公表することができます。



(表示証)

(令和5年4月1日現在)

◆サポート事業所一覧◆

No.	事業所名	所在地	No.	事業所名	所在地
1	小山グランドホテル	神鳥谷202	29	株式会社 大出電機	神鳥谷6-6-29
2	大山タクシー有限会社	犬塚2-8-5	30	山形軌道有限会社	駅東通り3-7-1
3	らーめん光庫	下河原田981	31	古川薬局	本郷町2-11-16
4	国際第一ホテル株式会社	中央町3-3-21	32	日高酒店	城山町2-13-15
5	焼肉 牛愛	東城南3-12-6	33	渡辺板金株式会社	城山町2-12-27
6	松本酒店	羽川110-9	34	小山給食センター	若木町3-9-9
7	青島農機具店	松沼386-2	35	お食事処 まつせい	本郷町3-3-15
8	国分洋品店	松沼500	36	中国料理 龍峰	駅南町4-30-17
9	より道	向野438-1	37	エコフィールド株式会社	駅南町4-24-9
10	よしとみ	北飯田80	38	有限会社 包装品のしが	駅南町6-26-13
11	手打ちそば よろずや	飯塚447	39	パナトピアせきぐち	東城南4-28-3
12	株式会社 荒川電気工業	中久喜1733-1	40	和食の店 新八	宮本町3-6-24
13	有限会社 青電工	寒川1406-1	41	株式会社 サロン・ド・サセ	中久喜1467-1 イオンモール小山1F
14	虎屋電機株式会社	乙女2-26-8	42	古橋電機株式会社	天神町2-10-16
15	土屋電機株式会社	本郷町2-8-27	43	和風ダイニング 彩華	天神町2-8-40
16	有限会社 青木電機	大行寺1108-32	44	有限会社 小林輪店	宮本町3-6-12
17	エーステック株式会社	高橋1860-3	45	ファッションシマダ	天神町2-2-31
18	有限会社 長電気工事店	羽川211-9	46	諏訪酒店	城東7-20-10
19	株式会社 三伸電機	若木町1-3-38	47	水龍寿司	城東7-30-24
20	寺内電設株式会社	東野田2340-27	48	有限会社 斉藤木材 ~木道楽~	犬塚1-32-7
21	有限会社 稲葉電機商会	城東6-25-4	49	横倉自動車	犬塚7-20-17
22	有限会社 北條電気	若木町1-2-14	50	三星食品	中久喜451
23	有限会社 岡田電機工事	乙女2-12-12	51	森戸自動車钣金工業所	立木1420
24	株式会社 アスライブ	栗宮1-9-9	52	有限会社 渡辺精肉店	松沼953
25	株式会社 セイワデンキ	横倉1312-29	53	大塚商店	卒島749
26	有限会社ノマタ電機空調サービス	東野田1411-4	54	天谷電気商会	松沼1124-4
27	有限会社 渡辺電設	網戸1181	55	大島モーターズ	松沼369-4
28	株式会社 スズテック	南半田492-7	56	三芳家	東間々田1-19-21

No.	事業所名	所在地	No.	事業所名	所在地
57	間々田ひも店	間々田1315-2	93	銅市金属工業株式会社	羽川466-1
58	美容室 Anfi-ni (アンフィーニ)	城東5-12-25	94	大出トーフ店	小山2682-4
59	美容室 Sena西口店	中央町2-9-13	95	パステルボエム	城山町2-2-21東亜ビル2F
60	大関薬店	城山町2-7-23	96	山本屋菓子店	下石塚352-1
61	お食事処安田 仕出し安田	城山町2-11-12	97	㈱AOKI	東城南1-28-8
62	末広 鮨	中央町3-5-15	98	祭りばやし 犬塚店	犬塚4-10-22
63	鳥料理 いつもの処	城山町3-6-37	99	CLUB&BAR CARESS	宮本町3-5-8
64	株式会社 高島屋商店	城山町2-9-17	100	有限会社 インテリアアタジマ	中久喜3-4-16
65	有限会社 橋本時計店	城山町3-1-6	101	間々田幼稚園	乙女3-1-6
66	ブティック 白ばら	城山町3-5-8	102	友井タクシー有限会社	城山町2-12-25
67	有限会社 砂子屋商店	中央町3-6-14	103	西堀酒造㈱	粟宮1452
68	合資会社 平間大吉商店	中央町2-9-15	104	焼肉 可楽洞 (カラクトン)	西城南4-20-4
69	株式会社 釜徳商店	中央町2-2-5	105	カーセールスユーキヤ	宮本町3-9-23
70	小林園茶店	中央町2-8-13	106	(有) アイエムカンパニー	城東6-36-2
71	大森商会	松沼145-3	107	乙女自動車工業有限会社	乙女1236
72	石塚塗装株式会社	若木町1-22-46	108	はらぺこ	土塔76-2
73	塚原電気株式会社	中央町3-3-20	109	有限会社間々田自動車教習所	南飯田291
74	有限会社 増山硝子店	城山町2-1-23	110	ながのや化粧品店	中央町3-5-8
75	小山シネマロブレ	中央町3-7-1 7F	111	大塚酒店	中央町3-5-7
76	小山シネマハーヴェスト	喜沢1475 ハーヴェストウォーク	112	カットサロンヨシヤ	中央町3-5-6
77	株式会社 ファニチャー速水	城山町2-10-17-807ボレス ターステーションシティ城山	113	ふるさと	中央町3-5-10
78	中華麵食館 嘩	城東5-12-24	114	有限会社しまだや レストランガリエラ	中央町3-6-9
79	ダスキレントオール小山ステーション	西城南1-35-18	115	株式会社田中屋	中央町3-6-14
80	スクールショップなかむら	東城南5-28	116	青柳川魚店	城山町1-2-1
81	上野米穀店	城山町2-6-45	117	割烹たる池	中央町2-5-23
82	橘屋菓子店	中央町2-1-11	118	アイス工房 カウベル	下国府塚25-1 道の駅思川内
83	美容室ウィズ	中央町2-1-8 メゾンタカキュー1F	119	広東名菜 好好	粟宮1-13-1
84	株式会社 須藤眼鏡店	中央町2-1-4	120	明和コンピュータシステム株式会社	間々田792-8
85	株式会社 のぐち	西城南5-31-5	121	有限会社 宮野屋商店	中央町2-11-9
86	ふとんの岩崎	本郷町2-11-18	122	板前料理 あきた	中央町3-5-2 カーサロブレA-102
87	株式会社 ナカジマ	中央町2-1-2	123	野楽炉 大関	中央町3-12-10
88	有限会社 篠崎自動車	神鳥谷4-13-26	124	有限会社 菜匠	橋木275-12
89	カフェ ブライトン	小山2724-117	125	ベルヴィ アンフランベルジュ	粟宮1552-2
90	Dog Life	城北3-11-2	126	松本悟土地家屋調査士事務所	間々田1683-10
91	有限会社 山浩不動産	駅東通り1-32-13	127	オリックスレンタカー小山駅前店	駅東通り2-22-6
92	ナカムラアクティ株式会社	城山町2-1-2	128	株式会社 進賢堂販売	城東1-7-36

No.	事業所名	所在地	No.	事業所名	所在地
129	篠原計算教室	羽川816-6	167	本橋酒店	鉢形441
130	作道労務管理事務所	神鳥谷3-9-24	168	宝屋	高橋621-2
131	株式会社 小山コンピュータサービス	神鳥谷3-9-24	169	小貫商店	延島1397
132	SBCパソコンゼミナール	神鳥谷3-9-24	170	福井本店	延島1526-1
133	篠原オートサービス	小栗9-2	171	上野輪業	延島1510
134	吉田土建	福良462-1	172	天麩羅 ふじ川	中央町2-9-2
135	文化シャッター株式会社小山工場	上石塚1088-1	173	小山市まちの駅思季彩館	中央町3-5-3
136	小山基礎アカデミー小山中央教室	宮本町2-13-19	174	穴蔵酒房料理処おおつか	中央町3-5-20 カーサロブレA103
137	とりせん羽川店	喜沢647-10	175	たん家しん	犬塚1-3-9
138	とりせん小山東店	横倉新田291-1	176	信末設備工業	乙女447
139	とりせん美しが丘店	美しが丘1-2-3	177	ヘルシー中華料理 美慧(メイフェイ)	駅東通り1-22-7
140	下野しぼり・下野人形	城東1-3-17	178	みた食堂	卒島242
141	有限会社 肉のまえばら	羽川123-9	179	鳥えもん	犬塚1-4-1
142	ファミリーマート小山黒本店	黒本127-1	180	中華料理 祥瑞坊	駅東通り3-38-24
143	理容 いたばし	大本485	181	家庭料理かのん	宮本町3-7-24
144	秋元酒店	大本480-2	182	ゆき寿司	駅東通り1-20-13
145	五十畑商事株式会社	城山町2-3-19	183	思川食堂	松沼486
146	有限会社 野沢電気	城山町2-9-18	184	日本料理 丸治	喜沢87-1
147	こいで化粧品店	城山町2-10-13	185	株式会社 木曽路(木曽路 小山店)	西城南2-2-1
148	ごはん処 おおしゃもじ	東間々田3-21-5	186	さくらこ	城山町1-4-2
149	敷島屋	福良466-3	187	THnX!(さんくす)	城北4-33-5
150	学生服専門店 つかひろ	城山町3-9-1	188	イエローハット城南店	東城南5-25-3
151	荒巻表具店	若木町3-2-5	189	足工房 mom i mom i	駅南町6-20-25
152	ラーメン・居酒屋 一心	東城南3-13-4 ルパーレマンション1F	190	なごみ処 笑(えみ)	城東2-6-23
153	終酒店	喜沢195	191	炭火串焼 くすのすけ	駅東通り2-20-17
154	関根商店	福良2244	192	豚骨ラーメン酒場 たつまき	城北6-1-4
155	添野自動車	福良1254-1	193	大衆料理かのう	犬塚8-10-3
156	料理センタールック	扶桑1-14-17	194	メゾン エルミタージュ	犬塚2-29-2
157	有限会社 龍鳳	羽川487-6	195	小山農業協同組合	神鳥谷1-11-32
158	吉沢鮮魚店	延島1592	196	株式会社 小山中央自動車学校	中久喜1174-15
159	小島酒店	梁408			
160	佐野屋	梁425-7			
161	浅川電気商会	高橋172-3			
162	理容なかじま	羽川689-2			
163	ちとせ	羽川517-84			
164	柏崎美容室	羽川509-3			
165	川越商店	喜沢76			
166	有限会社 河野商店	荒井9			

自主防災会編



自主防災会編

◇小山市自主防災会◇

地震・風水害・火災などの大規模な災害が発生した場合には、消防署・防災機関だけでは対応しきれないおそれがあります。

そのような事態で被害の拡大を防止・軽減するには「むこう三軒両隣」の気持ちで行う、地域住民による初期の防災活動が最も効果的です。

これら災害に対しては、「自分の身は自分で守ろう」という意識が必要であり、「自分たちのまちは自分たちで守る」という具体例として結成されているのが、自主防災組織なのです。

本市では自主防災組織の設立及び育成を行っています。

■ 小山市自主防災会一覧

(令和5年4月1日現在)

No.	組織名	会長名	設立年月日
1	御殿町	日高 彰	平成9年4月25日
2	須賀町	海老原 勇	平成9年6月25日
3	土塔二	佐野 公男	平成10年6月28日
4	花垣町	小林 一雄	平成10年10月6日
5	旭町西	長谷川 一	平成11年6月6日
6	羽川中央	柿崎 全良	平成11年6月27日
7	横倉新田	倉持 治夫	平成12年5月21日
8	天神町	新井 隆	平成12年6月4日
9	若木町	稲葉 耕士	平成12年6月11日
10	旭町南	大塚 稔	平成12年6月17日
11	羽川南部	清永 政治	平成13年6月30日
12	土塔一	飯島 定男	平成13年7月1日
13	駅東	澤口 茂利	平成13年7月1日
14	神明町	青木 博	平成13年12月1日
15	旭町東	今野 政春	平成14年6月1日
16	本郷町	岩崎 晴一	平成14年7月7日
17	寒川地区	池澤 光三	平成15年1月21日
18	思水ヶ丘	根津 賢悟	平成15年11月27日
19	駅東通り三丁目	松本 富雄	平成16年12月18日
20	中河原	渡辺 範之	平成17年6月12日
21	上町	橋本 富雄	平成17年12月8日
22	高橋	岩上 喜一	平成18年10月22日
23	エミネンス	小林 啓治	平成20年5月25日
24	駅南町	覚本 徹	平成20年6月28日
25	生井地区	古河 孝行	平成20年7月3日
26	大字間々田	松下 靖之	平成21年2月1日
27	中地区	片岡 利之	平成22年3月6日
28	武井	川面 登	平成22年8月31日
29	横倉	大関 幸司	平成22年11月20日
30	犬塚	渡邊 吉秀	平成23年9月11日
31	喜沢南	高瀬 和雄	平成23年10月30日
32	小薬北二	松本 福太郎	平成24年4月1日
33	穂積地区	岸 嘉彦	平成24年6月26日
34	芝	橋本 守行	平成24年6月30日
35	小山東ニュータウン	後藤 彰	平成24年9月30日
36	思川地区	柳 正人	平成25年2月21日
37	楓山	工藤 慎司	平成25年11月9日
38	西黒田下	原 盛司	平成26年1月26日
39	旭野町	小曾根 幹雄	平成26年3月9日

No	組織名	会長名	設立年月日
40	美しが丘	関口 義雄	平成27年2月8日
41	島田地区	館野 伸光	平成27年3月28日
42	平和	島野 正光	平成28年3月6日
43	三峯	廣瀬 尚彦	平成28年4月24日
44	飯塚	齋藤 政樹	平成28年5月22日
45	南半田	小林 敏明	平成29年3月5日
46	延島地区	上野 誠	平成29年3月26日
47	上梁地区	落合 良一	平成30年2月18日
48	上出井	星野 平吉	平成30年3月18日
49	羽川北	岡崎 保	平成30年3月25日
50	福良下区	石島 政己	令和元年7月7日
51	喜沢北部	大澤 昭	令和2年3月15日
52	羽川ふれあい	奥中 栄二	令和2年3月22日
53	喜沢中部	内田 正弘	令和2年5月10日
54	喜沢東部	武正 義和	令和2年5月16日
55	下梁・西梁地区	小嶋 治男	令和2年5月17日
56	泉ヶ丘	遠藤 秋廣	令和2年12月13日
57	城北	鈴木 一夫	令和3年4月4日

消 防 年 報

令和5年 刊行

発 行 小山市消防本部
編 修 消防総務課
栃木県小山市大字神鳥谷^{ひととのや}1700番地2
代 表 0285(39)6660
FAX 0285(31)0182
URL <https://www.city.oyama.tochigi.jp>

この年報についてのお問合せ先：消防総務課庶務係 0285(39)6653
